

佐久市埋蔵文化財調査報告書第43集

GONGENHIRA

IKEHATA

権現平遺跡・池端遺跡

佐久市大字新子田権現平遺跡・池端遺跡調査報告書

1996. 3

セキスイハイム信州株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書第43集

GONGENHIRA

IKEHATA

権現平遺跡・池端遺跡

佐久市大字新子田権現平遺跡・池端遺跡調査報告書

1996. 3

セキスイハイム信州株式会社
佐久市教育委員会



写1 横現平追跡・池端道路航空写真



写2 横現平追跡・池端道路航空写真



写3 椎現平遺跡・池端遺跡航空写真



写4 H12号住居跡

例　　言

1 本書は、平成6年度セキスイハイム信州株式会社による宅地造成に伴う、佐久市大字新子田及び安原に所在する権現平遺跡・池端遺跡の発掘調査報告書である。

2 事業主体者 長野県松本市両鳥6番11号

セキスイハイム信州株式会社

3 調査主体者 佐久市教育委員会 教育長

4 遺跡名及び発掘調査所在地等

権現平遺跡・池端遺跡（略称SYG）

佐久市大字新子田字権現平77他

5 調査期間 平成6年10月3日～平成6年12月5日（発掘調査）

平成6年12月6日～平成8年3月31日（整理作業）

6 面　積 6,460m²

7 調査体制（平成6年度）

教育長 大井 李夫

教育次長 奥原 秀雄

埋蔵文化財課長 戸塚 满

管理係長 谷津 泰子

管理係 田村 和広

埋蔵文化財係長 草間 芳行

埋蔵文化財係 林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿

羽田野 卓也 富沢 一明 上原 学

調査担当者 富沢 一明 上原 学

調査員 相沢 今朝義 荒井 かつ 荒井 ふみ子 池田 勝子

市川 チイ子 岩下 吉代 岩下 とも子 岩下 文子

碓永 健 江原 富子 金森 治代 工藤 しづ子

工藤 啓吉 構沢 三之助 高地 正雄 小林 静江

小林 立江 小林 まさ子 佐藤 玉枝 清水 佐知子

鈴木 多比 高橋 サチコ 高橋 ふみ 武田 千里

武田 まつ子 角田 すい 橋詰 信子 花里 四之助

花里 三佐子 堀込 成子 水間 雅義 武者 幸彦

吉原 照美 依田 みち 渡辺 久美子

(平成 7 年度)

教 育 長 大井 季夫 (平成 7 年 6 月退任)

依田 英夫 (平成 7 年 7 月就任)

教 育 次 長 市川 源

埋蔵文化財課長 戸塚 潤

管 理 係 長 谷津 泰子

管 理 係 田村 和広

埋蔵文化財係長 大塚 達夫

埋蔵文化財係 林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿

羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学

調査 担 当 者 上原 学

調 査 員 荒井 ふみ子 楠沢 三之助 高地 正雄 小林まさ子

小林 百合子 小山 澄江 清水 佐知子 高橋サチコ

高橋 敬子 高橋 ふみ 花里 四之助 花里 三佐子

比田井 久美子 細谷 秀子 武者 幸彦

- 8 第II章、佐久市安原付近の環境(地形・地質)は佐久市埋蔵文化財センター調査報告書第2集池畑・西御堂遺跡発掘調査報告書「第II章・遺跡の立地と環境」と大半が重複するため、若干の修正を得て掲載した。
- 9 本書の執筆・編集は上原が行った。
- 10 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1 遺構・遺物の略称はH—竪穴住居跡 Ta—竪穴状遺構 D—土坑 F—掘立柱建物

M—溝状遺構 P—ピット ID—井戸跡

2 スクリーントーンによる表示は以下のとおりである。

焼土 [■] 粘土 [■] カマド [■] 須恵器 [■] 黒色処理 [■]

3 掘図の縮尺は以下の通りである。

遺構 竪穴住居跡 1 / 80 竪穴状遺構 1 / 80・1 / 120 土坑 1 / 80

掘立柱建物跡 1 / 80 溝跡 1 / 160・1 / 120 井戸跡 1 / 40

遺物 繩文土器 1 / 2 土師器・須恵器 1 / 3

- 4 造構の標高は各造構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 5 土層・遺物等の色調は、「新版標準土色調」による。

目 次

巻頭カラー写真図版

例 言

凡 例

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯と経過 1

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 佐久市安原付近の環境（地形・地質） 3

第Ⅲ章 基本層序及び調査造構

第1節 基本層序 5

第2節 調査造構 5

第Ⅳ章 造構と遺物

第1節 竪穴住居跡（H） 7

第2節 竪穴状造構（Ta） 87

第3節 斧立柱建物跡（F） 101

第4節 土坑（D） 102

第5節 溝跡（M） 123

第6節 井戸跡（1D） 125

第7節 出土石器・鉄器
試掘・グリッド遺物 127

写真図版

挿図目次

第1図	権現平遺跡・池端遺跡位置図	1
第3図	基本層序模式図	5
第5図	H 1号住居跡実測図	7
第7図	H 1号住居跡出土遺物実測図	10
第9図	H 1号住居跡出土遺物実測図	12
第11図	H 2号住居跡出土遺物実測図	17
第13図	H 3号住居跡出土遺物実測図	20
第15図	H 4号住居跡出土遺物実測図	22
第17図	H 5号住居跡出土遺物実測図	26
第19図	H 5号住居跡出土遺物実測図	28
第21図	H 5号住居跡出土遺物実測図	30
第23図	H 6号住居跡実測図	34
第25図	H 7号住居跡実測図	35
第27図	H 8号住居跡実測図	37
第29図	H 9号住居跡実測図	39
第31図	H 10号住居跡実測図	43
第33図	H 11号住居跡実測図	47
第35図	H 12号住居跡実測図	49
第37図	H 12号住居跡出土遺物実測図	53
第39図	H 13号住居跡カマド実測図	56
第41図	H 14号住居跡実測図	60
第43図	H 16号住居跡実測図	63
第45図	H 17号住居跡実測図	64
第47図	H 18号住居跡実測図	67
第49図	H 19号住居跡実測図	69
第51図	H 20号住居跡実測図	72
第53図	H 20号住居跡出土遺物実測図	75
第55図	H 21号住居跡出土遺物実測図	80
第57図	H 22号住居跡出土遺物実測図	83
第2図	権現平遺跡・池端遺跡位置図	2
第4図	造構配置図	6
第6図	H 1号住居跡出土遺物実測図	9
第8図	H 1号住居跡出土遺物実測図	11
第10図	H 2号住居跡実測図	15
第12図	H 3・4号住居跡実測図	19
第14図	H 4号住居跡出土遺物実測図	21
第16図	H 5号住居跡実測図	24
第18図	H 5号住居跡出土遺物実測図	27
第20図	H 5号住居跡出土遺物実測図	29
第22図	H 5号住居跡出土遺物実測図	31
第24図	H 6号住居跡出土遺物実測図	35
第26図	H 7号住居跡出土遺物実測図	36
第28図	H 8号住居跡出土遺物実測図	38
第30図	H 9号住居跡出土遺物実測図	41
第32図	H 10号住居跡出土遺物実測図	46
第34図	H 11号住居跡出土遺物実測図	48
第36図	H 12号住居跡出土遺物実測図	52
第38図	H 13号住居跡実測図	55
第40図	H 13号住居跡出土遺物実測図	58
第42図	H 15号住居跡実測図	62
第44図	H 16号住居跡出土遺物実測図	64
第46図	H 17号住居跡出土遺物実測図	66
第48図	H 18号住居跡出土遺物実測図	68
第50図	H 19号住居跡出土遺物実測図	70
第52図	H 20号住居跡出土遺物実測図	74
第54図	H 21号住居跡実測図	78
第56図	H 22号住居跡実測図	81
第58図	H 23号住居跡実測図	84

第59図	H23号住居跡出土遺物実測図	85
第61図	Ta 1号竪穴状遺構実測図	87
第63図	Ta 3号竪穴状遺構実測図	89
第65図	Ta 5号竪穴状遺構実測図	92
第67図	Ta 7号竪穴状遺構実測図	94
第69図	Ta 9号竪穴状遺構実測図	96
第71図	Ta11号竪穴状遺構実測図	99
第73図	F 1号掘立柱建物跡実測図	101
第75図	土坑(D) 実測図	103
第77図	土坑(D) 実測図	105
第79図	土坑出土遺物実測図	112
第81図	土坑出土遺物実測図	114
第83図	土坑出土遺物実測図	115
第85図	M 1号溝跡実測図	123
第87図	I D 1号井戸跡実測図	125
第89図	権現平遺跡・池端遺跡試掘・グリッド出土遺物実測図	132
第60図	H23号住居跡出土遺物実測図	60
第62図	Ta 2号竪穴状遺構実測図	88
第64図	Ta 4号竪穴状遺構実測図	91
第66図	Ta 6号竪穴状遺構実測図	93
第68図	Ta 8号竪穴状遺構実測図	95
第70図	Ta10号竪穴状遺構実測図	98
第72図	Ta12号竪穴状遺構実測図	100
第74図	土坑(D) 実測図	102
第76図	土坑(D) 実測図	104
第78図	土坑出土遺物実測図	111
第80図	土坑出土遺物実測図	113
第82図	土坑出土遺物実測図	115
第84図	土坑出土遺物実測図	116
第86図	M 2号溝跡実測図	124
第88図	I D 2号井戸跡実測図	126

付 表 目 錄

第1表	H 1号住居跡出土遺物観察表	13
第3表	H 1号住居跡出土遺物観察表	15
第5表	H 3号住居跡出土遺物観察表	23
第7表	H 5号住居跡出土遺物観察表	32
第9表	H 6号住居跡出土遺物観察表	35
第11表	H 8号住居跡出土遺物観察表	38
第13表	H10号住居跡出土遺物観察表	46
第15表	H12号住居跡出土遺物観察表	54
第17表	H16号住居跡出土遺物観察表	64
第19表	H18号住居跡出土遺物観察表	68
第21表	H20号住居跡出土遺物観察表	76
第23表	H21号住居跡出土遺物観察表	80
第25表	H23号住居跡出土遺物観察表	86
第2表	H 1号住居跡出土遺物観察表	14
第4表	H 2号住居跡出土遺物観察表	18
第6表	H 4号住居跡出土遺物観察表	23
第8表	H 5号住居跡出土遺物観察表	33
第10表	H 7号住居跡出土遺物観察表	37
第12表	H 9号住居跡出土遺物観察表	42
第14表	H11号住居跡出土遺物観察表	48
第16表	H13号住居跡出土遺物観察表	59
第18表	H17号住居跡出土遺物観察表	66
第20表	H19号住居跡出土遺物観察表	71
第22表	H20号住居跡出土遺物観察表	77
第24表	H22号住居跡出土遺物観察表	83
第26表	土坑土層説明	109

第27表	土坑上層説明	110	第28表	土坑出土遺物観察表	116
第29表	土坑出土遺物観察表	117	第30表	土坑出土遺物観察表	118
第31表	土坑出土遺物観察表	118	第32表	土坑出土遺物観察表	119
第33表	権現平遺跡・池端遺跡出土 石器観察表	127	第34表	権現平遺跡・池端遺跡出土 石器観察表	129
第35表	権現平遺跡・池端遺跡出土 石器観察表	130	第36表	権現平遺跡・池端遺跡出土 石器観察表	131
第37表	権現平遺跡・池端遺跡出土 鉄器観察表	132	第38表	権現平遺跡・池端遺跡試掘・グリッド 出土遺物観察表	132

写 真 目 錄

写 1	権現平遺跡・池端遺跡航空写真	写 2	権現平遺跡・池端遺跡航空写真
写 3	権現平遺跡・池端遺跡航空写真	写 4	H12号住居跡
写 5	H 1号住居跡	写 6	H 1号住居跡
写 7	H 2号住居跡	写 8	H 2号住居跡
写 9	H 3・H 4号住居跡	写 10	H 3・H 4号住居跡
写 11	H 5号住居跡	写 12	H 5号住居跡遺物出土状態
写 13	H 5号住居跡遺物出土状態	写 14	H 5号住居跡堀方
写 15	H 6号住居跡	写 16	H 7号住居跡
写 17	H 8号住居跡	写 18	H 9号住居跡
写 19	H 9号住居跡遺物出土状態	写 20	H 9号住居跡
写 21	H10号住居跡遺物出土状態	写 22	H10号住居跡
写 23	H10号住居跡カマド	写 24	H10号住居跡堀方
写 25	H11号住居跡	写 26	H12号住居跡遺物出土状態
写 27	H12号住居跡	写 28	H12号住居跡カマド
写 29	H12号住居跡カマド堀方	写 30	H13号住居跡
写 31	H13号住居跡カマド	写 32	H13号住居跡カマド堀方
写 33	H13号住居跡出土砥石・白玉	写 34	H14号住居跡
写 35	H14号住居跡カマド	写 36	H14号住居跡堀方
写 37	H15号住居跡	写 38	H16号住居跡遺物出土状態
写 39	H16号住居跡	写 40	H17号住居跡

写41 H18号住居跡	67	写42 H19号住居跡	69
写43 H19号住居跡堀方	70	写44 H20号住居跡	73
写45 H20号住居跡カマド	73	写46 H20号住居跡カマド	73
写47 H21号住居跡	78	写48 H21号住居跡遺物出土状態	79
写49 H21号住居跡カマド	79	写50 H21号住居跡遺物出土状態	79
写51 H22号住居跡	81	写52 H22号住居跡カマド	82
写53 H22号住居跡カマド	82	写54 H22号住居跡カマド堀方	82
写55 H22号住居跡堀方	82	写56 H23号住居跡	84
写57 Ta 1号竪穴状遺構	87	写58 Ta 2号竪穴状遺構	88
写59 Ta 3号竪穴状遺構	90	写60 Ta 3号竪穴状遺構	90
写61 Ta 4号竪穴状遺構	91	写62 Ta 5号竪穴状遺構	92
写63 Ta 6号竪穴状遺構	93	写64 Ta 7号竪穴状遺構	94
写65 Ta 8号竪穴状遺構	95	写66 Ta 9号竪穴状遺構	97
写67 Ta 9号竪穴状遺構	97	写68 Ta10号竪穴状遺構	98
写69 Ta11号竪穴状遺構	99	写70 Ta12号竪穴状遺構	100
写71 F 1号据立柱建物跡	101	写72 F 1号据立柱建物跡	101
写73 D1・D2・D36号土坑	119	写74 D 3号土坑	119
写75 D 5号土坑	119	写76 D 6号土坑	119
写77 D 7号土坑	120	写78 D 9号土坑	120
写79 D10号土坑	120	写80 D11号土坑	120
写81 D12号土坑	120	写82 D15号土坑	120
写83 D18号土坑	120	写84 D18号土坑	120
写85 D21号土坑	121	写86 D26号土坑	121
写87 D27号土坑	121	写88 D29号土坑	121
写89 D30号土坑	121	写90 D31号土坑	121
写91 D32号土坑	121	写92 D33号土坑	121
写93 D36号土坑	122	写94 D38号土坑	122
写95 D39号土坑	122	写96 D40号土坑	122
写97 D43号土坑	122	写98 D44号土坑	122
写99 D45号土坑	122	写100 D46号土坑	122
写101 M 1号溝跡	123	写102 M 2号溝跡	124
写103 1号井戸跡	125	写104 2号井戸跡出土遺物	126

写105	2号井戸跡	126	写106	2号井戸跡	126
写107	樅現平遺跡・池端遺跡出土石器	127	写108	樅現平遺跡・池端遺跡出土石器	128
写109	樅現平遺跡・池端遺跡出土石器	129	写110	樅現平遺跡・池端遺跡出土石器	130
写111	樅現平遺跡・池端遺跡出土鉄器	132			

写 真 図 版

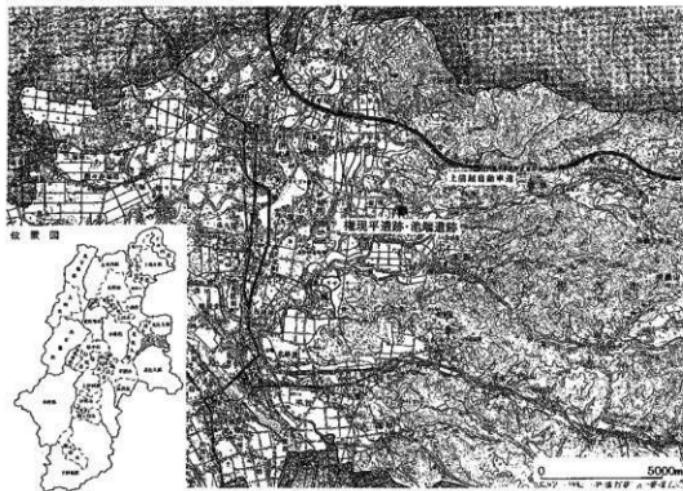
写112	H 1号住居跡出土遺物		写113	H 1号住居跡出土遺物	
写114	H 1号住居跡出土遺物		写115	H 1号住居跡出土遺物	
写116	H 2号住居跡出土遺物		写117	H 3号住居跡出土遺物	
写118	H 4号住居跡出土遺物		写119	H 4号住居跡出土遺物	
写120	H 5号住居跡出土遺物		写121	H 5号住居跡出土遺物	
写122	H 5号住居跡出土遺物		写123	H 5号住居跡出土遺物	
写124	H 5号住居跡出土遺物		写125	H 5号住居跡出土遺物	
写126	H 6号住居跡出土遺物		写127	H 7号住居跡出土遺物	
写128	H 8号住居跡出土遺物		写129	H 9号住居跡出土遺物	
写130	H 9号住居跡出土遺物		写131	H 10号住居跡出土遺物	
写132	H 10号住居跡出土遺物		写133	H 11号住居跡出土遺物	
写134	H 12号住居跡出土遺物		写135	H 12号住居跡出土遺物	
写136	H 13号住居跡出土遺物		写137	H 13号住居跡出土遺物	
写138	H 16号住居跡出土遺物		写139	H 17号住居跡出土遺物	
写140	H 18号住居跡出土遺物		写141	H 19号住居跡出土遺物	
写142	H 19号住居跡出土遺物		写143	H 20号住居跡出土遺物	
写144	H 20号住居跡出土遺物		写145	H 21号住居跡出土遺物	
写146	H 21号住居跡出土遺物		写147	H 22号住居跡出土遺物	
写148	H 23号住居跡出土遺物		写149	樅現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物	
写150	樅現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物		写151	樅現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物	
写152	樅現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物		写153	樅現平遺跡・池端遺跡土坑出土遺物	
写154	樅現平遺跡・池端遺跡試掘出土遺物		写155	G-く-1グリット出土遺物	
写156	樅現平遺跡・池端遺跡試掘出土鉄滓				

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯と経過

権現平遺跡・池端遺跡は、佐久市大字新子田及び安原地積に所在し、標高696m～710mを測る。地形的には、北・南・東の三方を山に囲まれた台地状を呈し、西側は小河川をはさみ比較的平坦な地形が湯川に向かって広がっている。また昭和60年には、権現平遺跡・池端遺跡の西300mに位置する箭畠遺跡群・池畠遺跡の調査が行われており、弥生時代から古墳時代初頭に位置付けられる住居跡などが確認されている。

今回、セキスイハイム信州株式会社による宅地造成事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため、平成6年8月9日～平成6年8月26日にかけて試掘調査を行った。その結果、興文時代から中世にいたる多数の遺構・遺物が確認されたため、主体者を含めて改めて協議をおこない、造成により遺構の破壊が予想される、掘削部及び道路部分の調査をおこなうこととなった。このためセキスイハイム信州株式会社から委託を受けた佐久市教育委員会が記録保存を目的として、発掘調査を行う運びとなつた。





第2図 権現平遺跡・池端遺跡位置図(1:5,000)

第II章 遺跡の立地と環境

第1節 佐久市安原付近の自然環境

地形

上信国境に聳むる浅間山は標高2560m、わが国の代表的な活火山で當時火山活動状況を観測する施設を有する数少ないA級火山に分類されている。浅間火山は溶岩流・火山彈・火山砂・浮石・火山灰などの火山噴出物が互層する成層火山で、現在の最高地点噴火口は黒斑火山・前掛火山の上部中心に形成されたもので、これらを含めて浅間山全体は模式的な三重式成層火山である。この浅間山は古くから親しまれ、恐れられ佐久地域には特に自然・歴史人類生活の上に偉大な影響を及ぼしてきたが、現在では火山・地震等の地球物理学上から、日本だけでなく、世界的にも広く知られてきている。その理由は次の三点に要約できる。

- 1 活火山浅間山は地形・地質構造・火山活動・火山形態（成層・楯状・溶岩円頂丘等）などの各面から各種の火山としての条件を兼備しており、火山の模型的存在で、火山研究には最も適しており興味深いものがある。
- 2 古代からの火山活動の古記録が残されており、火山活動の歴史的研究では世界的に珍しいとされている。ことに天明3年（1783）発生の大噴火について、絵図・公式古文書・日記・書信などこの地方にも多くの記録が残っている。
- 3 火山活動の地球物理学的研究が、日本では勿論、世界的にも最も早くから行われ、その成果が日本の火山学・地震学を進歩させた原動力となっており、世界的にも高く評価されている。

当遺跡はこの浅間山の南斜面山麓が佐久平の平坦面に交わってゆるやかな南斜面の縦く標高700m～710m付近の湯川の東沿岸の台地上に立地している。湯川は軽井沢町千ヶ瀬に源を発し、南流して、同町油井地蔵で南軽井沢から西流して来る泥川と合流して流路を西に変え、御代田町に入るまで北の浅間山麓・南の森泉山方向の両側の小支流を合わせて水量を増し、深い浸蝕峡谷を作りて流路を西北に変え、湯川ダムの多目的貯水を作り、佐久市横根地蔵北方で再び流路を南に変えて佐久市内に入る。横根附近から河幅も広めとなり、両岸に浸蝕河岸段丘を作り、谷中に小冲積地を作り、最も古い開拓水田がここに存在する。当遺跡はこの湯川東方1.7kmの台地上に位置する。

湯川西岸の佐久平地方（岩村田台地）には火山山麓特有な田切り地形が見事に発達している。これは新しい火山であり、浅間山の火山噴出物・火山砂・火山灰・浮石の堆積層が未分解で粘土化せず凝結力が乏しいため流水・洪水等の浸蝕に対する抵抗力が頗る弱く、一度流路になると大

きな断面が垂直に近い谷に発達する可能性が高くなり、火山国日本の第四紀の新しい火山の裾野地帯各地に見られる田切り地形と同形となっている。御代田駅から小海線三岡駅附近が最も顕著である。湯川東岸地区には田切り地形の著しいものはないが当遺跡の西側の旧平尾道・安原用水・東中学東側凹地・霞川等の凹地が田切り初期の地形である。それらの初期地形間の南北に続く台地が古墳時代以来、古代・中世の住居遺跡の分布地である。

地質

権現平遺跡・池端遺跡周辺の地質構成で、野外で直接観察できる最も古いものは平尾山（1155m）を構成する平尾溶岩である。平尾溶岩は塊状火山（トロイデ火山）として噴出した濃青緑色の緻密な玻璃質複輝石安山岩で、石材としては頗る良材であり、佐久産出の姫小松石と称して珍重され、他の地方にも搬出されている。平尾山は荒船火山より古く、長い間の風化浸蝕をうけて山全体に放射谷が発達し、佐久平の東北隅に屹立して展望も広く、市民に親しまれている。

平尾山の東麓に覆い重なっているのが荒船山の噴出物の溶結凝灰岩（佐久石）で、霞川の左岸に所在する安原・新子田附近及び開御流山の奇岩絶壁の東側一帯に広く分布している。佐久石と称せられているものの中でも、特に業者間では安原石が最も良質のものとされ、古くから石造加工品の原材料として珍重されている。この溶結凝灰岩（安原石）は荒船火山の活動最盛期に多量の安山岩質灼熱火山灰を長期間噴出し、厚い堆積層を構成し、熱と加圧によって再溶融固結したもので、荒船火山を中心として志賀谷山峠の奇岩から田口及び青沼まで広く分布している。

堆積岩層としては伊多神社南の香坂越尾根南部に小部分相浜層の砂質凝灰岩・凝灰岩の互層が認められ、この中から広葉樹化石を産出したこともあり、洪積世初期の地層が僅かに分布していることが明らかとなっている。

安原・新子田・平根地区の平坦地を構成する地層は浅間火山の噴出物の堆積層で、基盤は黒斑火山の噴出物起源の湖沼性堆積火山性砂岩・凝灰岩・凝灰質礫岩の互層であり、これは湯川の谷底部に一部露出が見られ、黒城跡埋蔵文化財発掘調査の際、深振リトレンドで確認され、その上部には大小の軽石の礫を多量に含んだ厚い火山灰砂の層が重なっている。この層を第一軽石流と呼んでいるが、前掛火山の噴出物で浅間山の南斜面の大部分と佐久平の北半を広く、厚く覆っている。第一軽石流は空中堆積物であるので原地形によって厚さの変化が著しいが、この地層分布内には田切り地形が発達し、田切りの崖面では構成物質の層厚が観察できる。遺跡付近では鼻顎櫛荷社境内の高さ20mに及ぶ断崖が顕著な例である。また軽石流は2回にわたって流出したものであるが、第二回軽石流中に含まれる炭化木幹について、C¹⁴年代測定では10,650~11,300年前と測定値がでている。（小諸市誌）

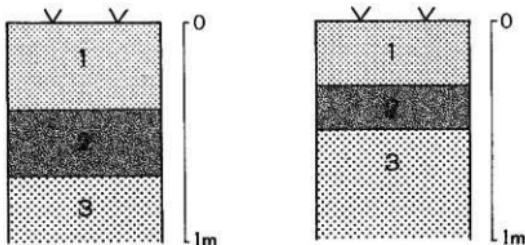
この軽石流の上面が今回権現平遺跡・池端遺跡の層序模式図地山第3層含軽石礫黃褐色上層（ローム）である。

（白倉盛男）

第III章 基本層序及び調査遺構

第1節 基本層序

椎現平遺跡は三方を山に囲まれた盆地に存在するため、遺構もわずかな平地及び山の緩やかな斜面を利用して構築されている。このため層序確認は、斜面・平地の2カ所で行った。斜面の層序は3層に分層でき、1層は黒褐色で厚さは40cm内外を測る。2層は暗褐色土の粘性の強い土質で、遺物を含む包含層である。厚さは30cm内外を測る。3層は黄褐色土のロームで、この上面が遺構検出面である。平地の層序は3層に分層でき、1層は畑に利用された耕作土で黒褐色の柔らかい土質で厚さ30cmを測る。2層は暗褐色土だが斜面に比べ、粘性のない土質である。厚さは20cmを測る。3層は黄褐色のローム土でこの上面が遺構の検出面となる。



第3図 基本層序模式図

第2節 調査遺構

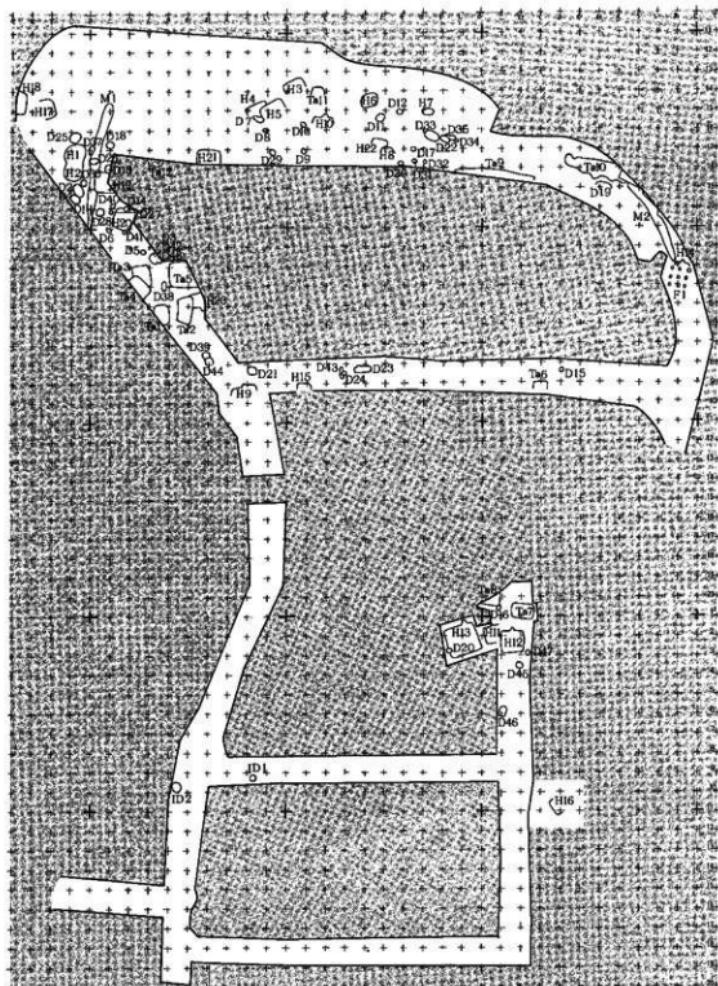
今回の調査は、宅地造成によって遺構の破壊が予想される掘削部及びとりつけ道路部分の調査を行い、下記の遺構・遺物を検出した。

堅穴住居跡 23棟 繩文時代 8棟 古墳時代 8棟 平安時代 7棟

堅穴状遺構 10棟 捜立柱建物跡 1棟

土坑 48基 繩文時代 22基 古墳時代・平安時代 11基 時期不明 15基

溝 2条 井戸跡 2

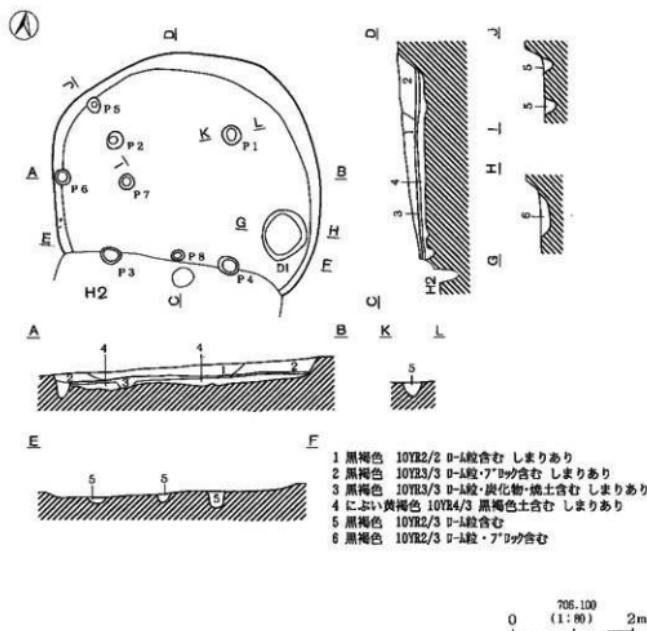


第4図 権現平遺跡・池端遺跡遺構配置図(1:1,000)

第IV章 遺構と遺物

第1節 壇穴住居跡

H 1号住居跡（縄文時代）



第5図 H 1号住居跡実測図

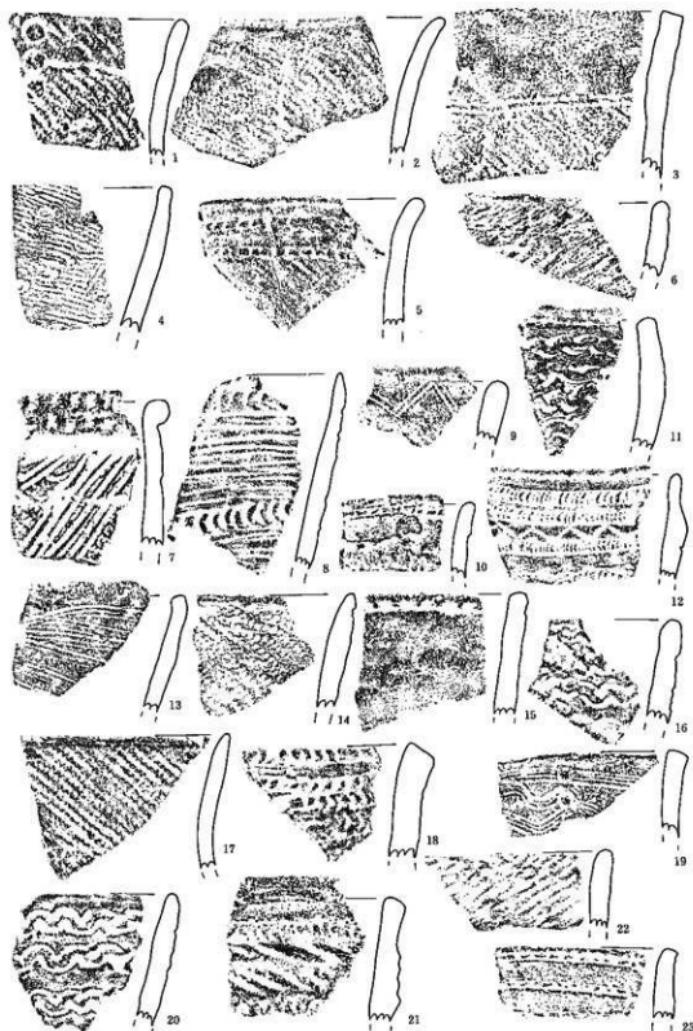
遺構は、D-レ-17グリット付近の緩斜面上に位置する。H 2と重複関係にあり、南壁の一部を切られる。平面形は南北3.4m、東西4.4mのやや東西に長い円形を呈する。壁高は床面から25cmを測り外傾しながら立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは8個確認できた。また南壁際に貯蔵穴と思われる土坑が認められる。炉及び焼土の確認はできなかった。



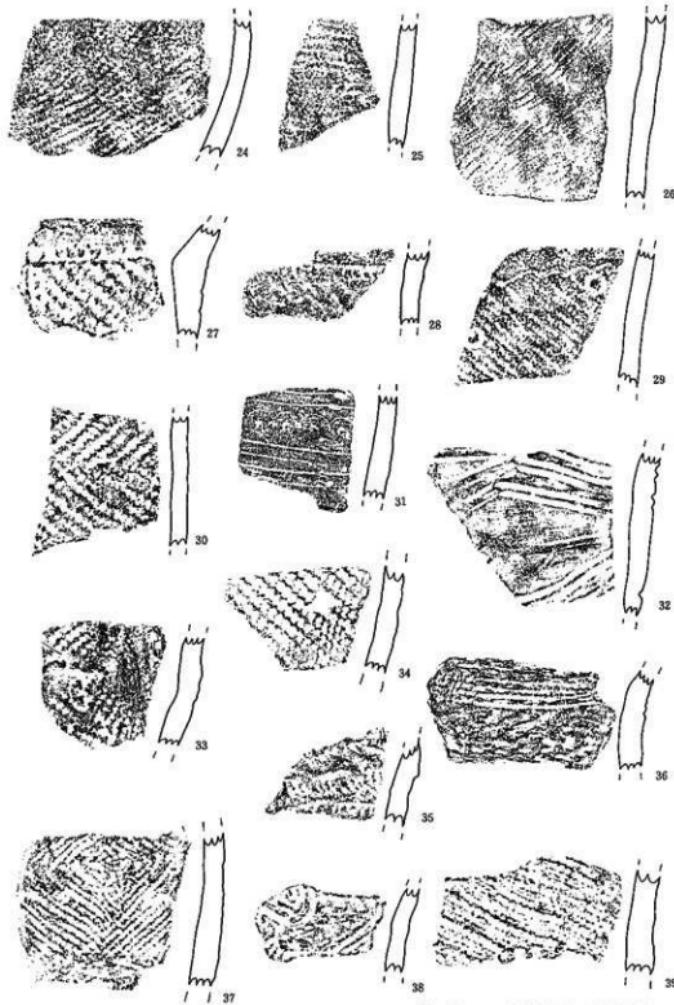
写5 H1号住居跡



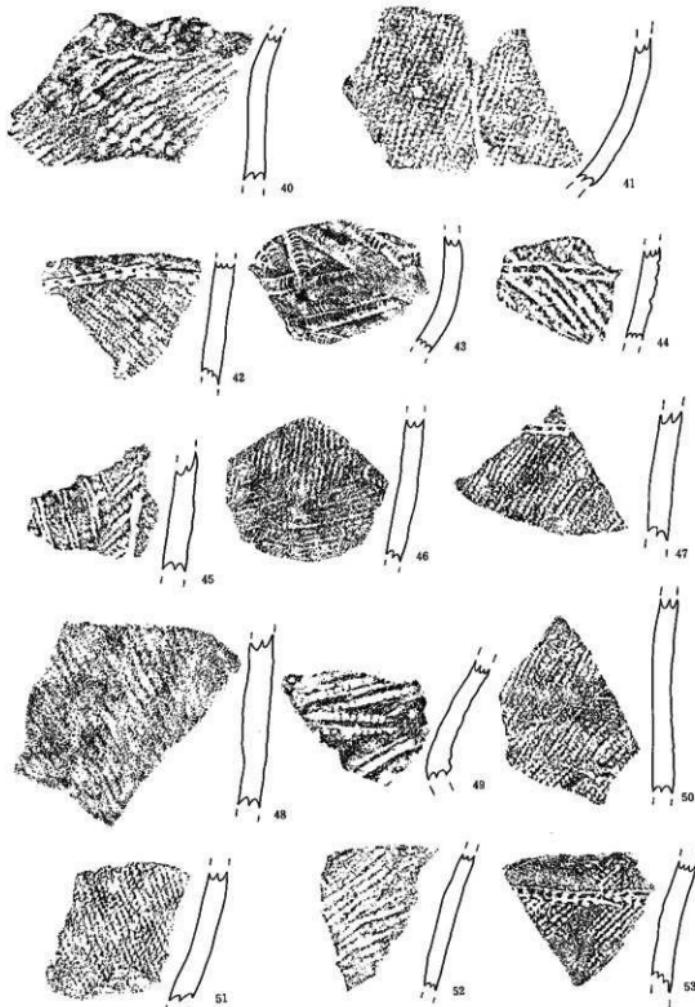
写6 H1号住居跡



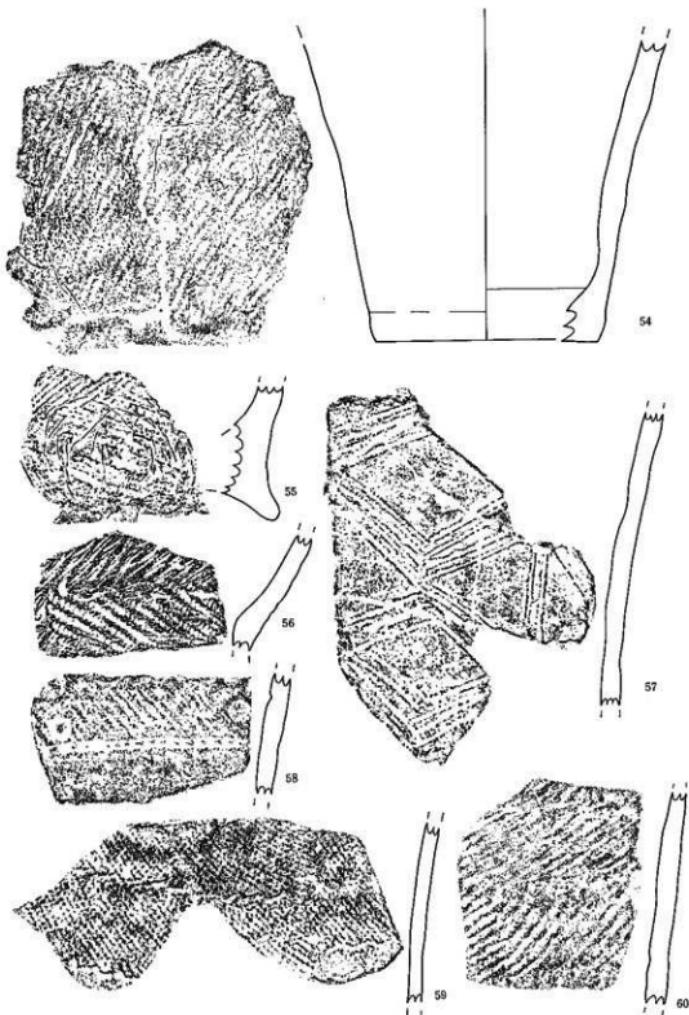
第6図 H1号住居跡出土遺物実測図



第7図 H1号住居跡出土遺物実測図



第8図 H1号住居跡出土遺物実測図



第9圖 H1號住居跡出土遺物實測圖

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	色調	焼成	含有鉱物
1	縄文土器	—	—	0.5	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	長石・雲母
2	縄文土器	—	—	0.8	口縁	5YR3/3 咳赤褐色	良	
3	縄文土器	—	—	1.0	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	長石・雲母
4	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR2/2 黒褐色	良好	雲母
5	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	雲母
6	縄文土器	—	—	0.8	口縁	10YR2/2 黒褐色	良	雲母
7	縄文土器	—	—	0.8	口縁	5YR4/8 赤褐色	良好	
8	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR3/1 黒褐色	良	雲母
9	縄文土器	—	—	1.0	口縁	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	雲母・長石
10	縄文土器	—	—	0.6	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
11	縄文土器	—	—	0.9	口縁	5YR4/8 赤褐色	良好	雲母・長石
12	縄文土器	—	—	0.7	口縁	5YR3/2 咳赤褐色	良好	金雲母
13	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	
14	縄文土器	—	—	0.8	口縁	10YR4/1 褐灰色	良好	
15	縄文土器	—	—	0.9	口縁	5YR3/3 咳赤褐色	良	雲母・長石
16	縄文土器	—	—	0.9	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
17	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR7/1 灰褐色	良	雲母
18	縄文土器	—	—	1.3	口縁	7.5YR5/2 灰褐色	良	長石
19	縄文土器	—	—	0.9	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良好	雲母・長石
20	縄文土器	—	—	0.9	口縁	10YR3/3 咳褐色	良好	
21	縄文土器	—	—	0.9	口縁	7.5YR6/6 橙色	良	金雲母・長石
22	縄文土器	—	—	0.9	口縁	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
23	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母・長石
24	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母
25	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	長石
26	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	雲母

(単位 cm)

第1表 H 1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	調整	焼成	備考
27	縄文土器	—	—	1.3	体部	5YR4/1 暗灰色	良好	霞母・長石
28	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR7/2 明褐色	不良	金霞母・長石
29	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良	金霞母・長石
30	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR6/4 にぶい橙色	不良	長石
31	縄文土器	—	—	1.0	体部	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	
32	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR4/3 暗色	良	霞母
33	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR7/6 橙色	良	長石
34	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明褐色	良好	長石
35	縄文土器	—	—	0.8	体部	10YR7/3 にぶい黄橙色	不良	金霞母・長石
36	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR4/2 灰黄褐色	良好	霞母
37	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	霞母
38	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR6/8 橙色	良	霞母
39	縄文土器	—	—	1.1	体部	10YR4/1 暗灰色	良好	霞母
40	縄文土器	—	—	0.9	体部	2.5YR4/6 赤褐色	良好	
41	縄文土器	—	—	0.8	体部	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	霞母
42	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	長石
43	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/3 にぶい赤褐色	良	金霞母・長石
44	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	霞母・長石
45	縄文土器	—	—	1.2	体部	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	
46	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	霞母・長石
47	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR2/3 黒褐色	良好	霞母
48	縄文土器	—	—	1.0	体部	7.5YR4/3 暗色	良	長石
49	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR5/4 にぶい黄橙色	良	
50	縄文土器	—	—	0.8	体部	10YR2/2 黑褐色	良好	霞母
51	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR6/3 にぶい褐色	良	霞母・長石
52	縄文土器	—	—	0.6	体部	5YR6/6 橙色	良	長石

(単位 cm)

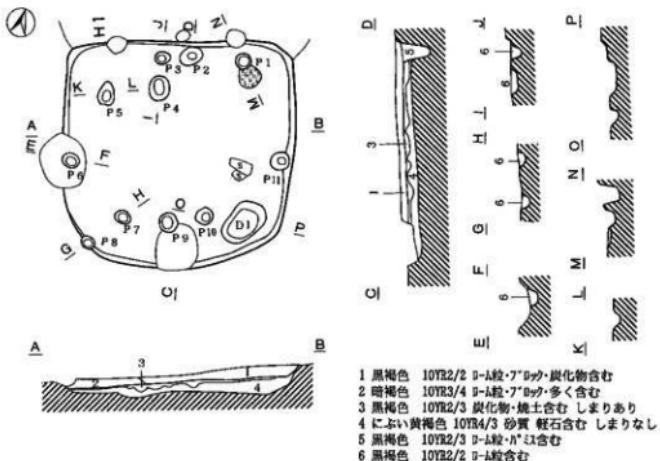
第2表 H1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器形	法寸	厚さ	部位	色調	焼成	備考
5.3	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR3/1 黒褐色	良	雲母・長石
5.4	縄文土器	—	底径(9.2)	1.0	体部	5YR4/6 暗褐色	良	金雲母・長石
5.5	縄文土器	—	底径(9.4)	1.3	体部	5YR4/6 暗褐色	良	雲母
5.6	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良好	長石
5.7	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR3/4 暗赤褐色	良	金雲母・長石
5.8	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/1 暗褐色	良	金雲母・長石
5.9	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/4 にい黄褐色	良好	雲母
6.0	縄文土器	—	—	0.8	体部	2.5YR5/6 明赤褐色	良	長石

(単位 cm)

第3表 H 1号住居跡出土遺物観察表

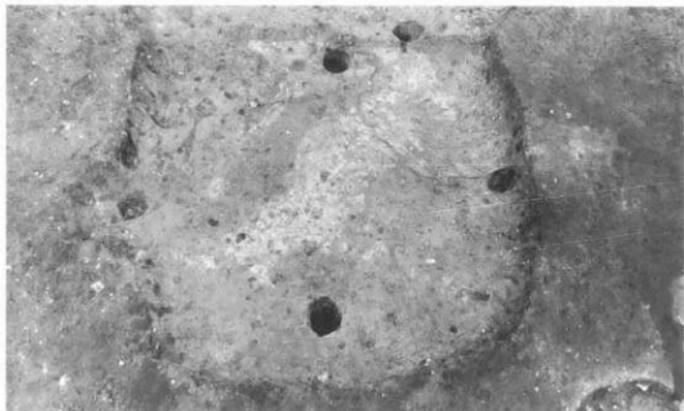
H 2号住居跡（縄文時代）



205.700
(1 : 80) 2m

第10図 H 2号住居跡実測図

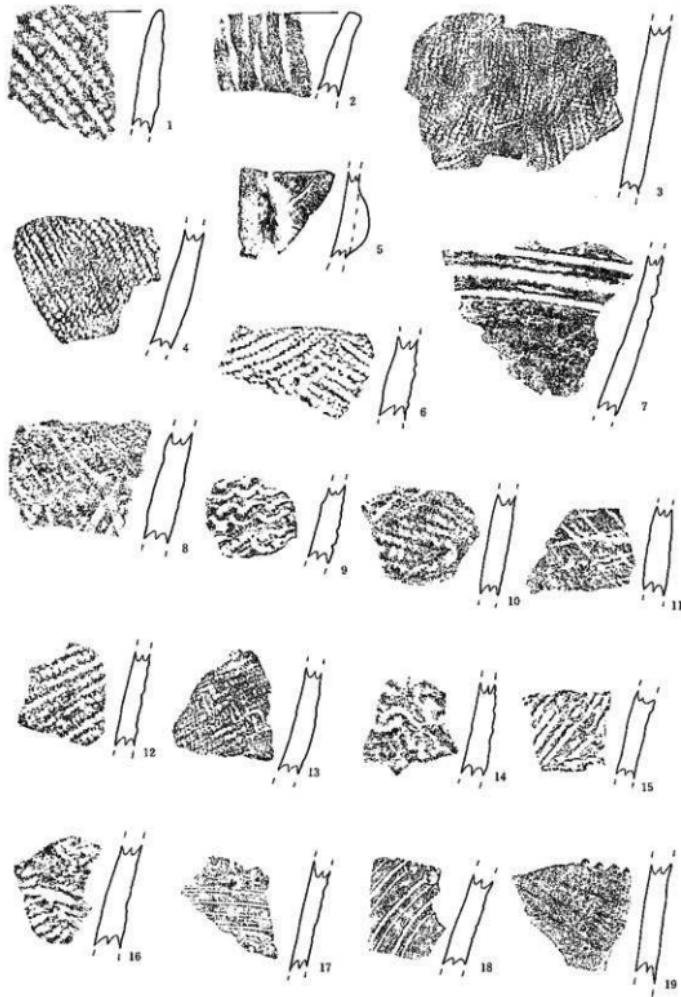
遺構はD-レ-18グリット付近の緩斜面上に位置する。H 1と重複関係にあり H 1の北壁を切る。平面形は南北3.7m、東西3.8mの隅丸方形を呈する。壁高は床面から10cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは11個確認できた。また南東壁際には土坑が認められ、床面には僅かに焼土が分布するかかなどの施設は認められなかった。



写7 H 2号住居跡



写8 H 2号住居跡



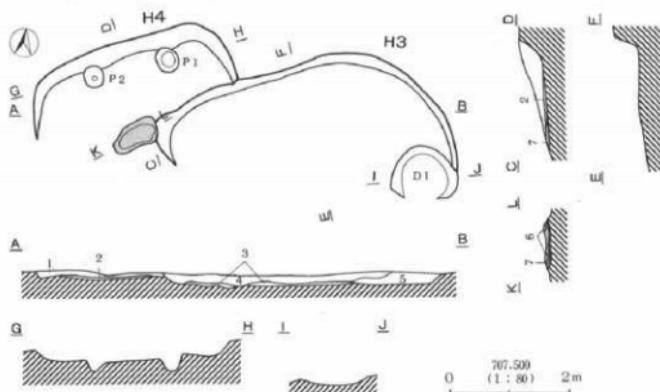
第11图 H 2号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	調 整	焼成	備 考
1	縄文土器	—	—	0.8	口縁	5YR3/4 暗褐色	良	雲母
2	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	長石
3	縄文土器	—	—	0.9	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
4	縄文土器	—	—	0.7	体部	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	雲母
5	縄文土器	—	—	0.7	体部	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	雲母
6	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	
7	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
8	縄文土器	—	—	1.0	体部	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
9	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
10	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/4 にぶい黄橙色	良	雲母・長石
11	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
12	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/4 にぶい赤褐色	良	雲母
13	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
14	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/3 にぶい赤褐色	良	雲母・長石
15	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	雲母
16	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母
17	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良好	雲母
18	縄文土器	—	—	0.6	体部	7.5YR4/1 褐灰色	良好	雲母
19	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR3/4 暗褐色	良好	金雲母・長石

(単位 cm)

第4表 H 2号住居跡出土遺物観察表

H 3・H 4号住居跡（縄文時代）



第12図 H 3・H 4号住居跡実測図



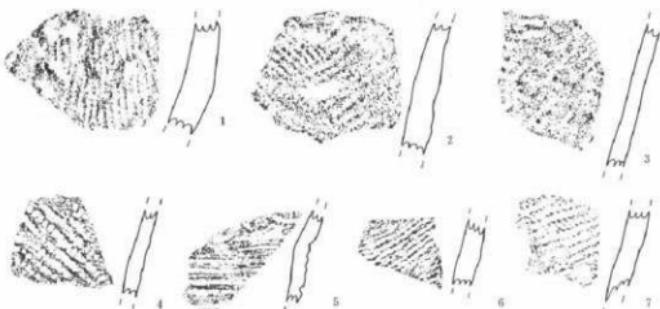
写9 H 3・H 4号住居跡

H 3号住居跡はD-あ-14グリット付近の緩斜面上に位置する。造構はH 4と重複関係にありH 4の東壁を切る。規模は残存部で南北1.5m、東西4.9mを測り、平面形は隅丸の方形を呈していたと思われる。壁高は床面から最大値で20cmを測る。床面は細かな石が多く凹凸が激しい状態であり、南東隅に土坑が認められる。がなどの施設は確認できなかった。

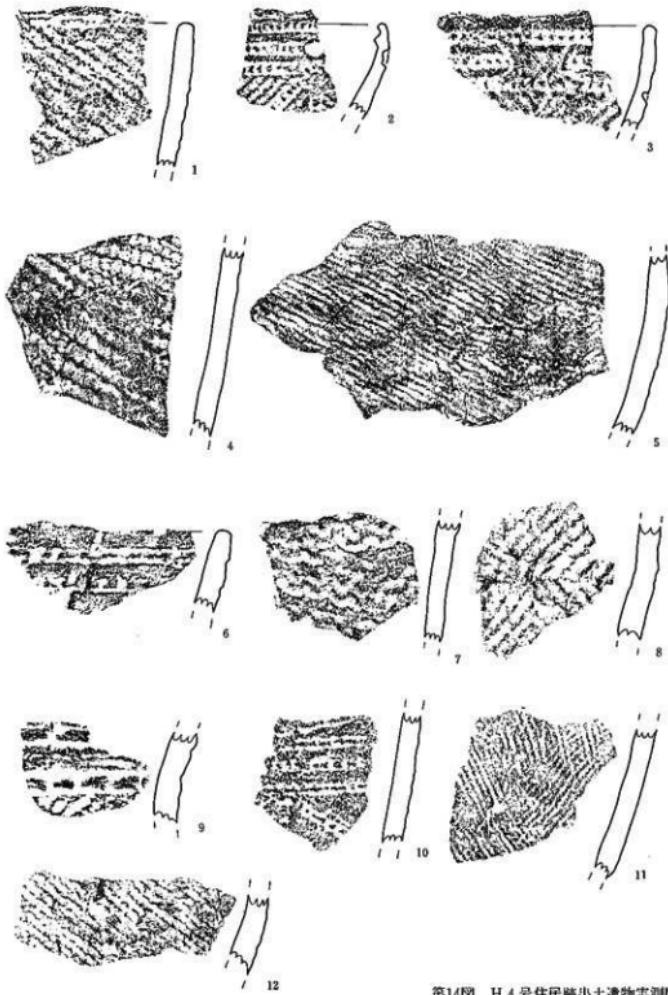
H 4号住居跡はD-う-15グリット付近の緩斜面上に位置する。造構はH 3と重複関係にあり東壁を切られる。規模は残存部で南北1.5m、東西3.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は床面から最大値で14cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は一面地山に含まれる岩が露出しており、凹凸の激しい状態である。ピットは北壁際に2個確認でき、造構のはば中央に炉が設置されていた。



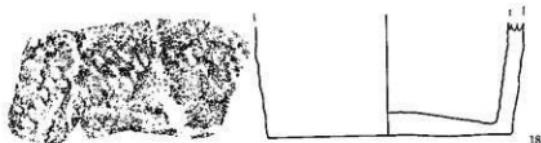
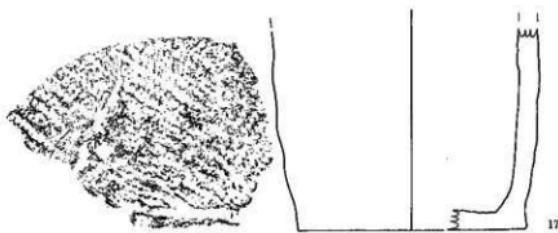
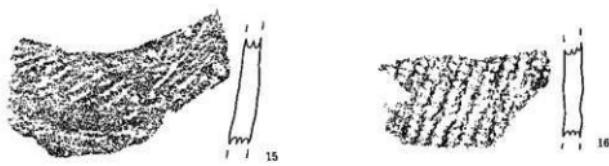
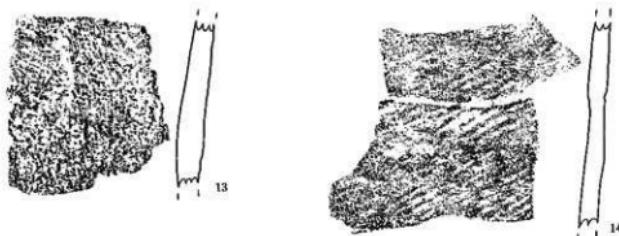
写10 H 3・H 4号住居跡



第13図 H 3号住居跡出土遺物実測図



第14图 H4号住居跡出土遺物実測図



第15圖 H4號住居跡出土遺物實測圖

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	色調	焼成	備考
1	縄文土器	—	—	0.7	体部	10YR2/3 黒褐色	良	雲母・長石
2	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	長石
3	縄文土器	—	—	1.2	体部	10YR3/3 咳褐色	良	雲母
4	縄文土器	—	—	0.6	体部	10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	雲母
5	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母・長石
6	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母
7	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/3 にぶい赤褐色	良	雲母・長石

(単位 cm)

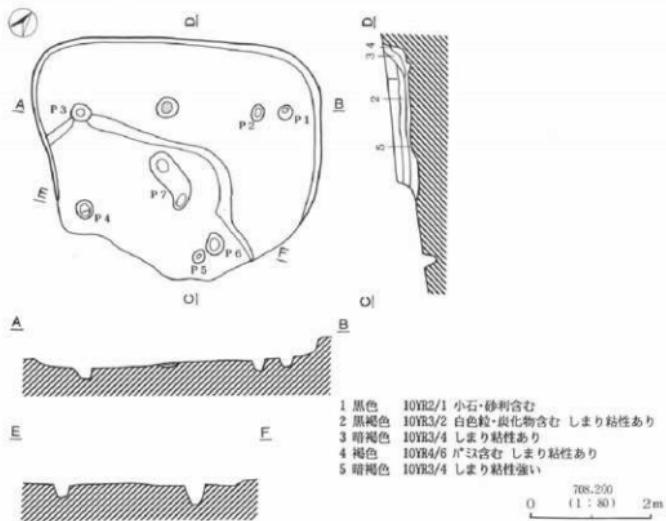
第5表 H 3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	色調	焼成	備考
1	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	不良	金雲母・長石・小石
2	縄文土器	—	—	0.6	口縁	10YR2/3 黒褐色	良	雲母
3	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR6/4 にぶい橙色	不良	雲母・小石
4	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR2/2 黒褐色	良	雲母
5	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR4/3 褐色	良	雲母・長石
6	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良	雲母・長石
7	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/8 明褐色	良	雲母・長石
8	縄文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母・長石
9	縄文土器	—	—	1.0	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母・長石
10	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR4/6 赤褐色	不良	雲母・長石・小石
11	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良	雲母・長石
12	縄文土器	—	—	0.9	体部	5YR4/3 灰褐色	良	雲母
13	縄文土器	—	—	1.0	体部	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・小石
14	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/6 明褐色	不良	雲母・長石
15	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR5/8 明褐色	良	雲母
16	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	雲母
17	縄文土器	—	—	0.9	底部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	
18	縄文土器	—	—	0.7	底部	5YR5/6 明赤褐色	不良	雲母

(単位 cm)

第6表 H 4号住居跡出土遺物観察表

H 5 号住居跡（縄文時代）



第 16 図 H 5 号住居跡実測図



写真 H 5 号住居跡

追構はD-あ-5グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北3.8m、東西4.7mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は40cmを測る。床面は堅くしまっており、ピットは7個確認できた。炉はP2・P3の中間に位置する。平面形は円形を呈し厚さ8cmの焼土が堆積していた。



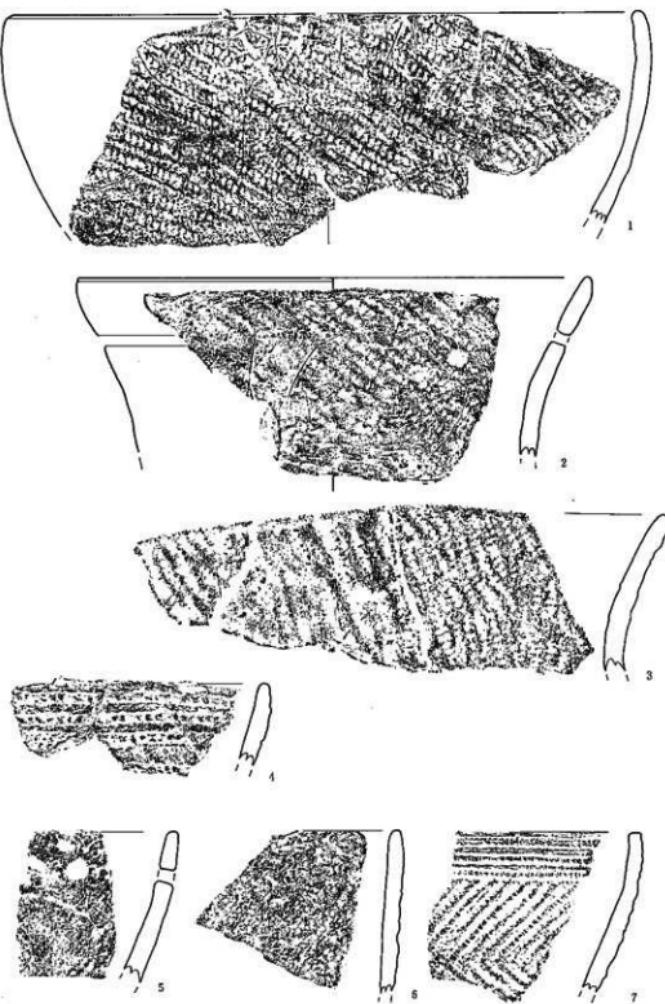
写12 H5号住居跡遺物出土状態



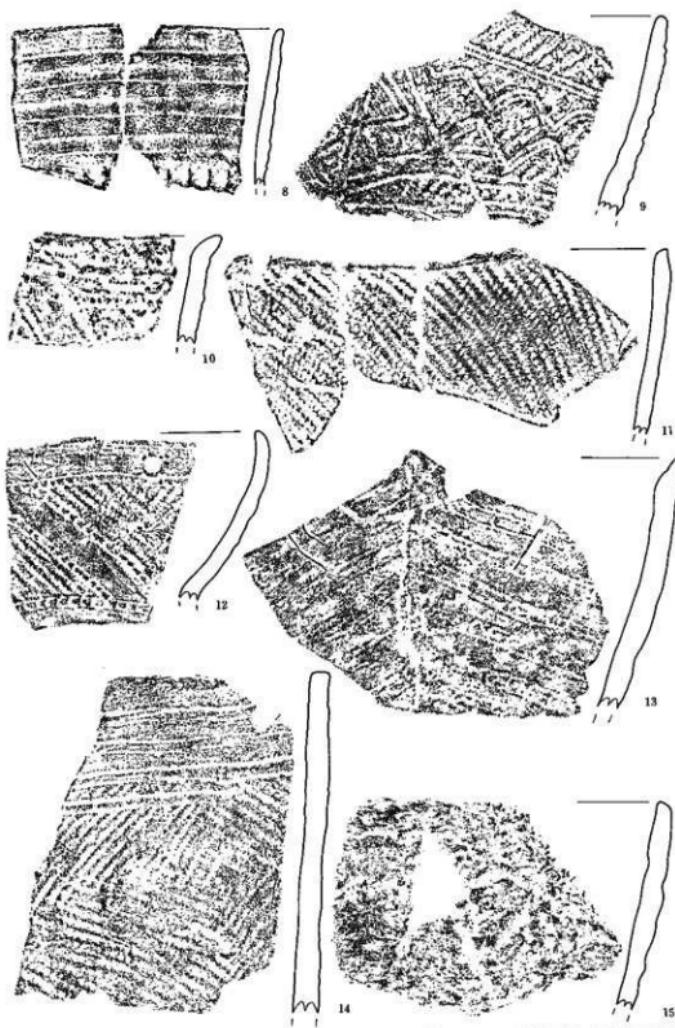
写13 H5号住居跡遺物出土状態



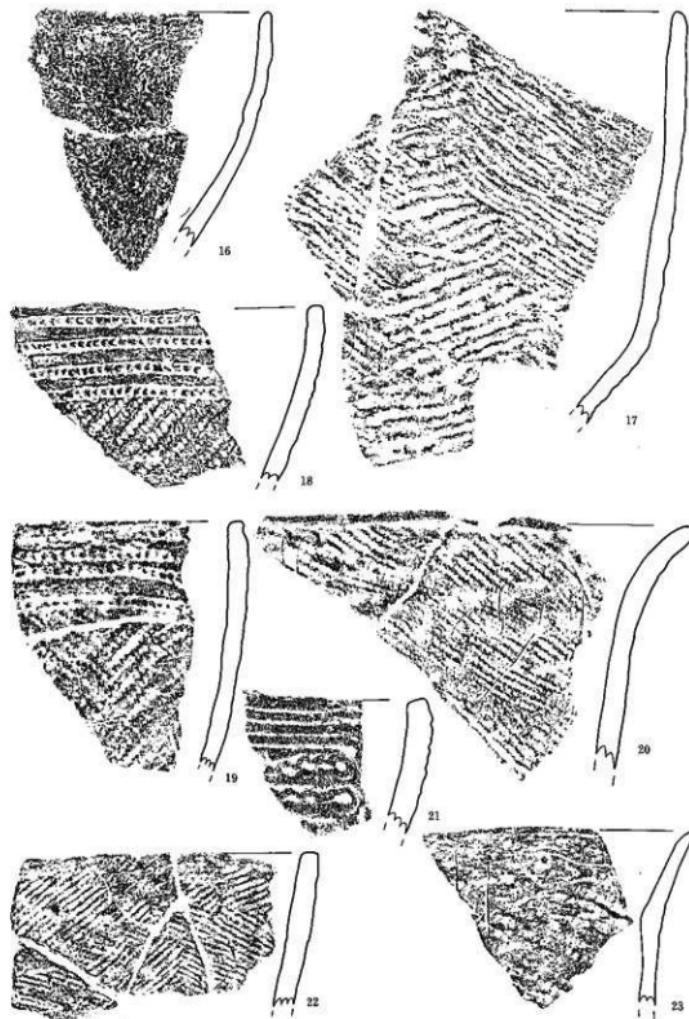
写14 H5号住居跡礎方



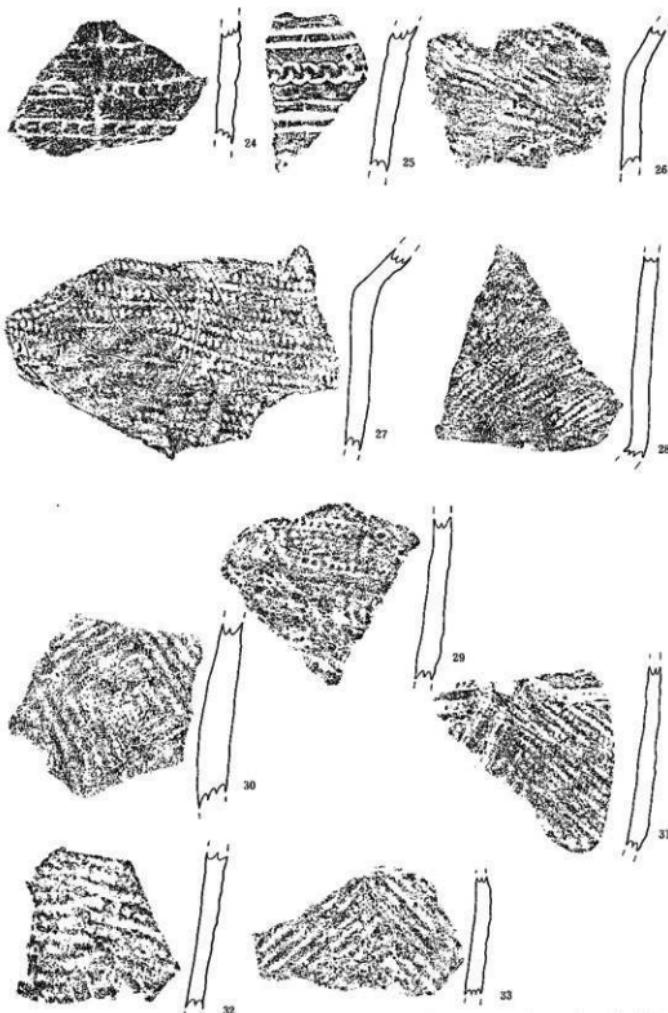
第17圖 H 5號住居跡出土遺物實測圖



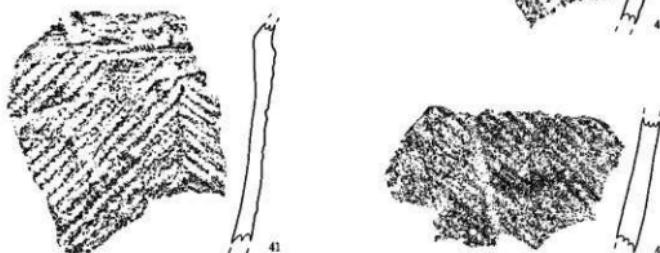
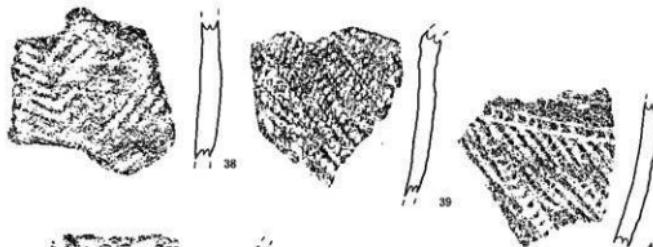
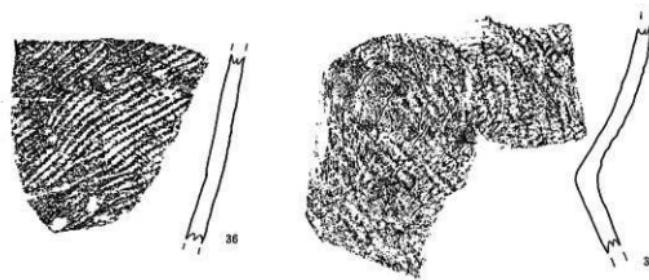
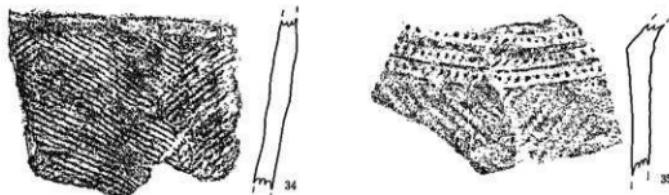
第18图 II 5号住居跡出土遺物実測図



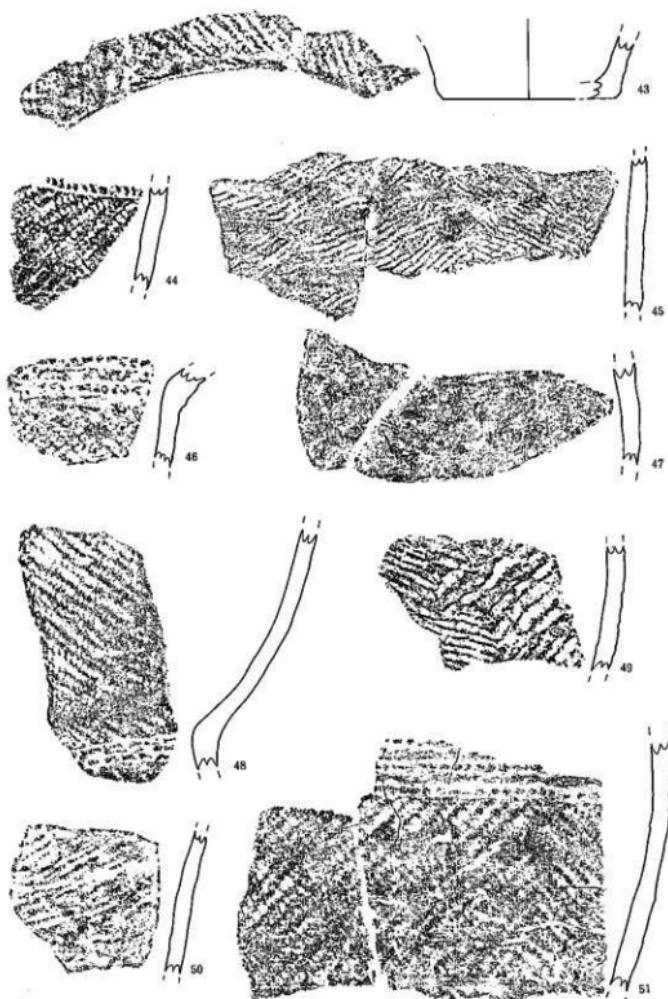
第19圖 H 5号住居跡出土遺物実測図



第20図 H5号住居跡出土遺物実測図



第21图 H5号住居路出土遗物实测图



第22图 H5号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	色調	焼成	備考
1	縄文土器	—	—	0.7	口縁	5YR3/3 暗赤褐色	良好	雲母
2	縄文土器	—	—	0.6	口縁	2.5YR3/1 黒褐色	良	雲母・長石・小石
3	縄文土器	—	—	0.7	口縁	5YR5/6 赤褐色	良	雲母・長石・小石
4	縄文土器	—	—	0.8	口縁	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	
5	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	雲母
6	縄文土器	—	—	0.6	口縁	7.5YR6/6 橙色	不良	長石・小石
7	縄文土器	—	—	0.7	口縁	5YR2/1 黒褐色	良好	雲母・長石
8	縄文土器	—	—	0.5	口縁	7.5YR4/1 暗灰色	良	雲母
9	縄文土器	—	—	0.7	口縁	5YR4/2 灰褐色	良	金雲母・長石
10	縄文土器	—	—	1.0	口縁	7.5YR7/6 橙色	良	雲母・長石
11	縄文土器	—	—	0.7	口縁	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母・小石
12	縄文土器	—	—	0.6	口縁	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	良	雲母・長石
13	縄文土器	—	—	0.9	口縁	2.5YR3/4 暗赤褐色	良	雲母
14	縄文土器	—	—	1.0	口縁	5YR4/2 灰褐色	良	雲母・長石
15	縄文土器	—	—	0.9	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
16	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR6/4 にぶい黄橙色	良	長石・小石
17	縄文土器	—	—	0.8	口縁	5YR6/4 にぶい橙色	良好	長石・小石
18	縄文土器	—	—	0.7	口縁	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	雲母
19	縄文土器	—	—	0.7	口縁	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	雲母・小石
20	縄文土器	—	—	0.8	口縁	5YR5/8 明赤褐色	良好	
21	縄文土器	—	—	1.2	口縁	7.5YR8/4 浅黄橙色	良	雲母
22	縄文土器	—	—	1.0	口縁	10YR8/4 浅黄橙色	良好	雲母
23	縄文土器	—	—	0.7	口縁	2.5YR3/1 黑褐色	不良	長石
24	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/8 赤褐色	良	雲母・長石
25	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR2/1 黒色	良好	雲母
26	縄文土器	—	—	0.9	体部	2.5YR3/2 暗赤褐色	良好	雲母

(単位 cm)

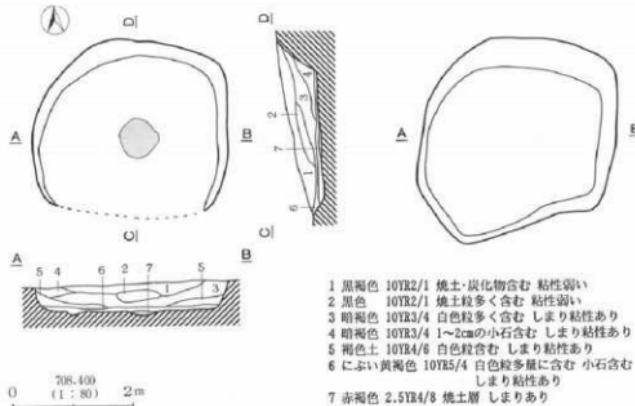
第7表 II 5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器形	法 量	厚さ	部位	色 調	焼成	備考
2 7	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	雲母・長石
2 8	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR7/8 黄橙色	良	雲母・長石
2 9	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR3/2 暗赤褐色	良	雲母
3 0	縄文土器	—	—	1.2	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
3 1	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR7/1 黒色	良	
3 2	縄文土器	—	—	0.8	体部	10R3/3 暗赤褐色	良	雲母
3 3	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR6/8 橙色	良	長石
3 4	縄文土器	—	—	0.9	体部	10YR4/3 にぶい黄褐色	良好	
3 5	縄文土器	—	—	0.9	体部	5YR5/2 灰褐色	良	雲母・長石
3 6	縄文土器	—	—	0.6	体部	7.5YR4/4 褐色	良好	長石
3 7	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	長石・小石
3 8	縄文土器	—	—	0.8	体部	10YR2/2 黑褐色	不良	小石
3 9	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR4/4 褐色	良	雲母
4 0	縄文土器	—	—	0.7	体部	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良	雲母・長石・小石
4 1	縄文土器	—	—	0.7	体部	10YR4/4 褐色	良好	雲母
4 2	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR6/8 橙色	良	雲母
4 3	縄文土器	—	—	0.9	底部	5YR6/6 橙色	良好	小石
4 4	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR6/3 にぶい褐色	良好	雲母
4 5	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	長石
4 6	縄文土器	—	—	1.0	体部	5YR6/6 橙色	良好	雲母・長石・石英
4 7	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/8 明緑褐色	良好	雲母・長石・石英
4 8	縄文土器	—	—	0.7	体部	5YR4/6 赤褐色	良	雲母・長石
4 9	縄文土器	—	—	0.7	体部	10R3/1 黑褐色	良好	
5 0	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	不良	
5 1	縄文土器	—	—	0.8	体部	10R4/3 赤褐色	良	雲母・小石

(単位 cm)

第 8 表 H 5 号住居跡出土遺物観察表

H 6号住居跡（縄文時代）

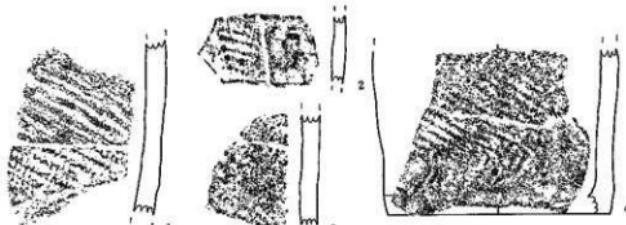


第23図 H 6号住居跡実測図

造構はC—C—14グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北2.9m、東西3.2mを測り、平面形は隅丸方形を呈していたと思われる。壁高は床面から最大値で6cmと浅い。床面はやや堅さをもち、中央付近に炉が設置されている。炉は径64cmの円形で、厚さ13cmの燃土が堆積していた。



写15 H 6号住居跡



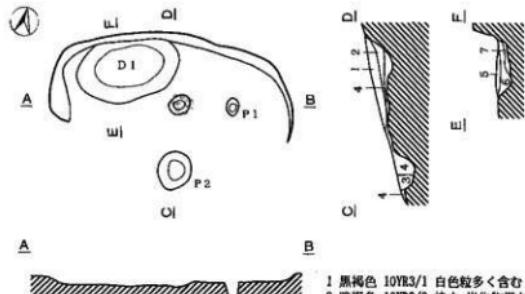
第24図 H6号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	法量	厚さ	部位	色調	焼成	備考
1	縄文土器	—	—	0.8	体部	SYR5/6 明赤褐色	良	雲母
2	縄文土器	—	—	0.5	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	不良	雲母
3	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母・長石・小石
4	縄文土器	—	—	0.8	体部	10YR6/4 にぶい黄褐色	不良	金雲母・長石・小石

(単位 cm)

第9表 H6号住居跡出土遺物観察表

H7号住居跡（縄文時代）



- 1 黒褐色 10YR3/1 白色粒多く含む しまり粘性あり
- 2 暗褐色 10YR3/3 燃土・炭化物僅かに含む しまり粘性あり
- 3 黒褐色 10YR3/1 白色粒・燃土・炭化物含む しまり粘性あり
- 4 暗褐色 10YR3/4 白色粒・小石多量に含む
- 5 暗褐色 10YR3/3 白色粒多く含む しまり粘性あり
- 6 暗褐色 10YR4/6 炭化物僅かに含む しまり粘性あり
- 7 黒褐色 10YR5/8 小石含む しまりなし

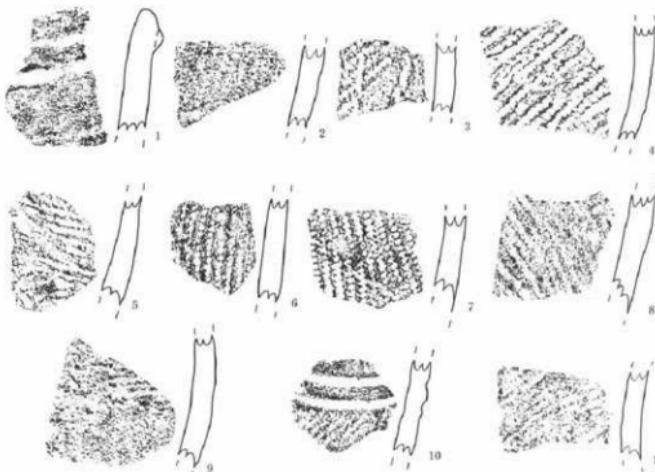
708.400
(1 : 80) 2m

第25図 H7号住居跡実測図

造構はD一せー15グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北1.2m、東西4.5mを測る。壁高は床面から最大値で38cmを測りやや外傾しながら立ち上がる。床面は地山の岩が露出した状態で凹凸の激しい状態である。ピットは2個確認でき、北壁際には土抗が認められる。炉はほぼ中央に設置されており、径28cmの円形で、厚さ6cmの焼土が堆積していた。



写16 H 7号住居跡



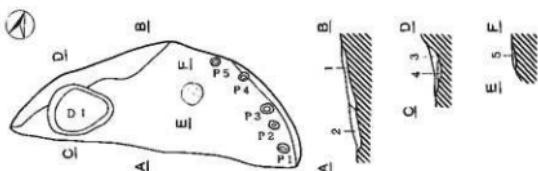
第26図 H 7号住居跡出土遺物実測図

番号	留種	器 形	法 異	厚さ	部 位	色 調	焼成	備 考
1	縄文土器	—	—	1.0	口縁	5YR6/8 橙色	良	長石
2	縄文土器	—	—	0.8	体部	2.5YR6/8 橙色	良	長石
3	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良好	雲母
4	縄文土器	—	—	0.7	体部	10R3/1 晴赤灰色	良	雲母
5	縄文土器	—	—	0.8	体部	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	雲母
6	縄文土器	—	—	0.8	体部	2.5YR6/8 橙色	良好	雲母
7	縄文土器	—	—	0.8	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良	雲母
8	縄文土器	—	—	0.9	体部	2.5YR5/8 暗赤褐色	良	雲母・長石
9	縄文土器	—	—	0.9	体部	5YR5/6 明赤褐色	不良	雲母
10	縄文土器	—	—	0.7	体部	7.5YR8/8 黄褐色	不良	雲母・長石
11	縄文土器	—	—	0.9	体部	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	長石

(単位 cm)

第10表 H 7号住居跡出土遺物観察表

H 8号住居跡(縄文時代)



- 1 黄褐色 10YR5/8 D-17" ピット含む しまり粘性あり
- 2 黑褐色 10YR3/2 白色鉱少量含む
- 3 黑褐色 10YR3/2 塩化物少量含む
- 4 黑褐色 10YR3/4 しまり粘性あり
- 5 赤褐色 2.5YR4/8 燃土層 炭化物含む

705.600
0 (1 : 80) 2m

第27図 H 8号住居跡実測図

造構はC-1-17グリット付近の緩斜面上に位置する。造構はその大半を失っており、確認されたのは北壁の一部と僅かな床面のみである。壁高は最大で12cmと浅く、やや外傾しながら立ち上がる。床面は地山の岩が露出しており、凹凸の激しい状態である。ピットは北壁に沿って5個確認でき、床面の西側には土抗が認められる。煙は住居のやや北壁によりに設置され、平面形は径32cmの円形で、厚さ8cmの焼土が堆積していた。



写17 H 8号住居跡



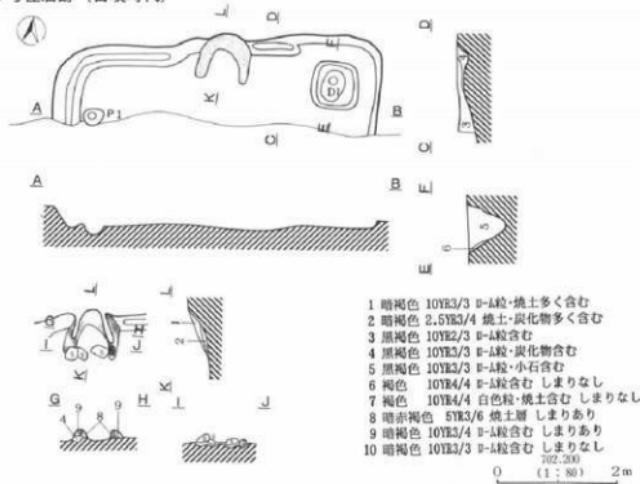
第28図 H 8号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器 形	法 量	厚さ	部 位	色 調	焼成	備 考
1	縹文土器	—	—	0.9	体部	7.5YR6/8 棕色	良	雲母・長石
2	縹文土器	—	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母・長石
3	縹文土器	—	—	0.7	体部	2.5YR4/4にぶい赤褐色	良好	金雲母・長石
4	縹文土器	—	—	0.7	体部	5YR1,7/1 黒色	不良	雲母

(単位 cm)

第11表 H 8号住居跡出土遺物観察表

H 9号住居跡（古墳時代）



第29図 H 9号住居跡実測図

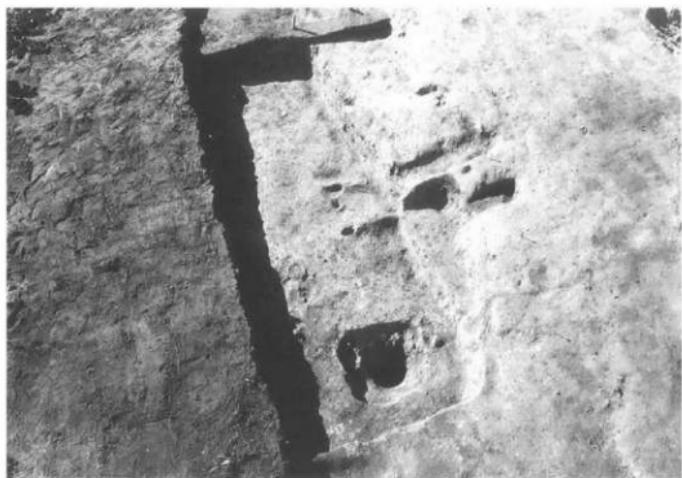
造構はG-う-9グリット付近に位置する。南側には谷が形成されており、造構の3分の1はこの谷へ崩れ落ちている。規模は残存部で南北1.5m、東西5.4mを測り平面形は残存部の形態から隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で22cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。また北壁及び西壁際には周溝が巡らされ、床面は貼床されている。ピットは1個確認でき住居跡の北東隅には隅丸方形状の土坑が認められた。カマドは北壁中央に構築されており、比較的残りのよい状態であった。両袖は火床を囲むように構築されており、焚口部分には石が使用されている。火床に焼土・灰は認められなかった。



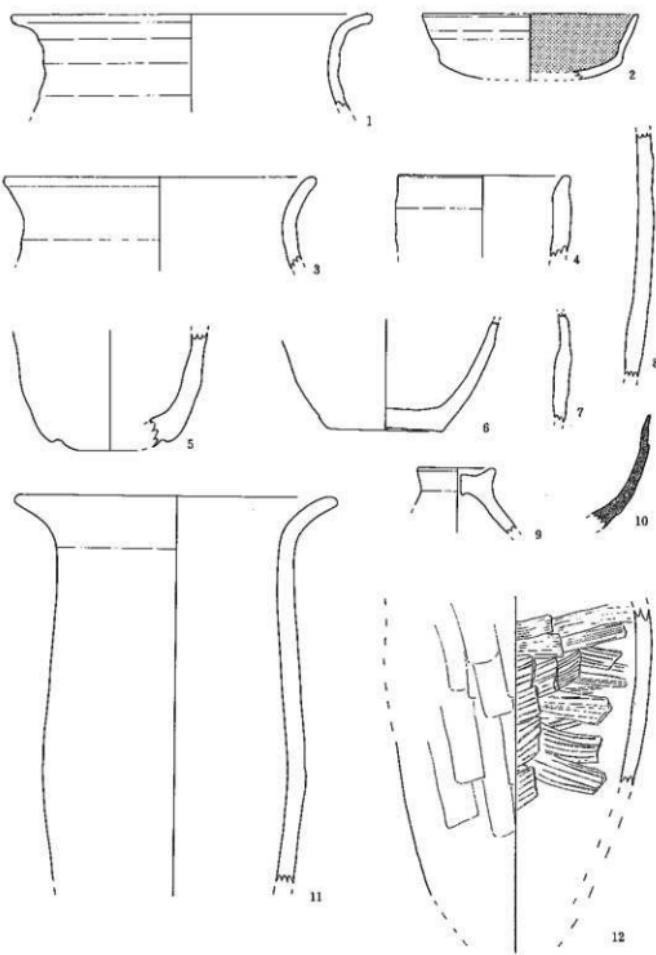
写18 H 9号住居跡



写19 H9号住居跡遺物出土状態



写20 H9号住居跡



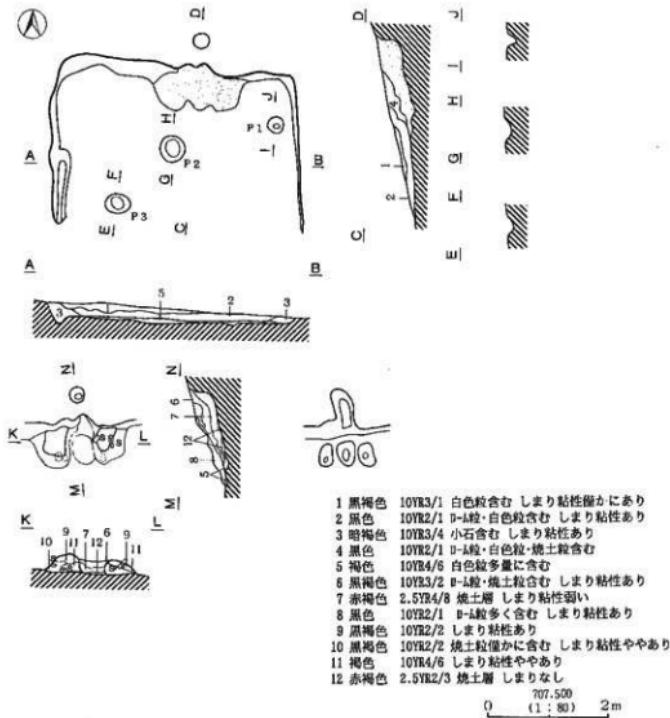
第30図 H9号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調整	備考
1	土師器	甕	22.4	—	—	口縁横ナデ 外面体部へラ削り	残存率 破片 焼成 良 色調 2.5YR6/6 橙色
2	土師器	壺	13.4	8.0	4.0	内面黒色処理 口縁横ナデ 外面底部・体部へラ削り	残存率15% 焼成 良 色調 10YR3/2 黒褐色
3	土師器	甕	19.2	—	—	口縁横ナデ 外面体部へラ削り	残存率 口縁の一部 焼成 良 色調 5YR6/6 橙色
4	土師器	甕	10.8	—	—	口縁横ナデ 外面体部へラ削り	残存率 口縁の一部 焼成 良 色調 2.5YR5/6 明赤褐色
5	土師器	甕	—	7.2	—	内面クシ目痕の残るへラ削り 外面体部へラ削り	残存率 底部周辺 焼成 良 色調 5YR5/6にぶい褐色
6	土師器	甕	—	7.0	—	内面クシ目痕の残るへラ削り 外面底部へラ削り	残存率 底部周辺 焼成 良 色調 10YR8/4浅黄褐色
7	土師器	甕	—	—	—	外面へラ削り	残存率 破片 焼成 良 色調 2.5YR5/4にぶい赤褐色
8	土師器	甕	—	—	—	内面クシ目痕の残るへラ削り 外面ヘラミガキ	残存率 体部の一部 焼成 良 色調 10R5/6 赤色
9	土師器	器台	4.8	—	—	外面ミガキ	残存率40% 焼成 良好 色調 7.5YR6/4にぶい橙色
10	須恵器	椀	—	—	—	ロクロ調整	残存率25% 焼成良好 色調 7.5YR6/1 灰色
11	土師器	甕	9.9	—	—	内面横方向のへラ削り 外面縱方向のへラ削り	残存率70% 焼成 良好 色調 10YR3/4暗褐色
12	土師器	甕	—	—	—	内面クシ目痕の残るへラ削り 外面縱方向のへラ削り	残存率25% 焼成 良 色調 10YR3/4暗褐色

(単位 cm)

第12表 H 9号住居跡出土遺物観察表

H10号住居跡（古墳時代）



第31図 H10号住居跡実測図

遺構はC-C-15グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北2.8m、東西4.1mを測り、平面形はやや隅丸の方形であったと思われる。壁高は床面から最大値で42cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は貼床されており、北西コーナーから西壁にわたって周溝が認められる。ピットは3個確認できたが、主柱穴であるかは確定できない。カマドは北壁のはば中央に構築されており、比較的残りのよい状態である。両袖は粘土上に構築され、一部であるが通路の天井部も残存している。火床には厚さ4cmの焼土が堆積していた。



写21 H10号住居跡遺物出土状態



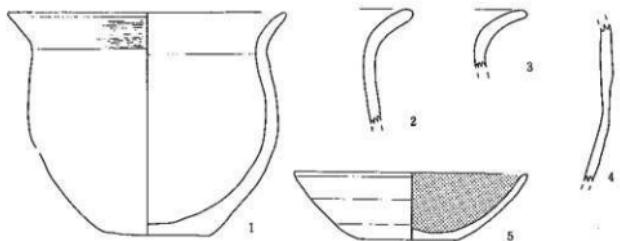
写22 H10号住居跡



写23 H10号住居跡カマド



写24 H10号住居跡壁方



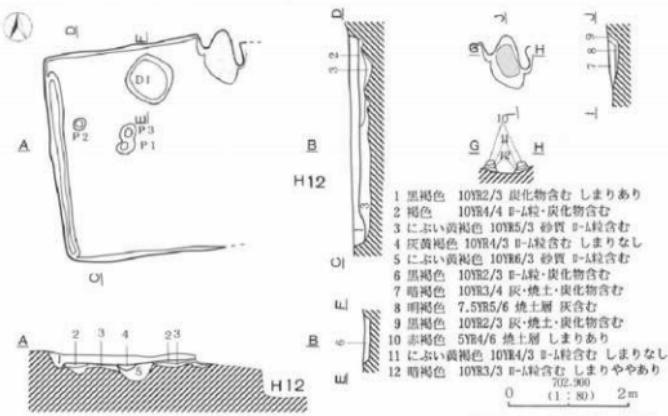
第32図 H10号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調査	備考
1	土師器	甕	17.2	6.7	13.6	口縦横ナデ 外面ヘラ削り	残存率75% 焼成 良好 色調 7.5YR4/8赤色
2	土師器	甕	-	-	-	口辺横ナデ	残存率10% 焼成 良好 色調 5YR7/6褐色
3	土師器	甕	-	-	-	口辺横ナデ	残存率 口縦の一部 桃成 良好 色調 5YR4/2灰褐色
4	土師器	甕	-	-	-	外側ヘラ削り	残存率 体部の一部 焼成 良好 色調 2.5YR5/6明赤褐色
5	土師器	坏	14.4	4.8	4.9	内面黑色処理 底部ヘラ削り	残存率85% 焼成 良好 色調 7.5YR7/8黄褐色

(単位 cm)

第13表 H10号住居跡出土遺物観察表

H11号住居跡（古墳時代）

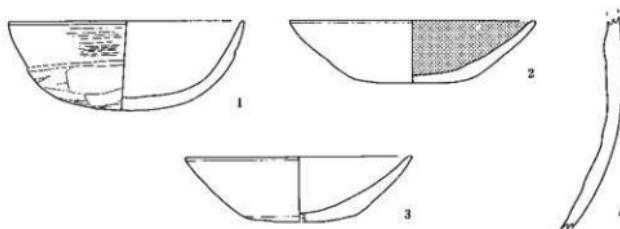


第33図 H11号住居跡実測図



写25 H11号住居跡

遺構はH-1-1グリット付近の比較的平坦な台地上に位置する。規模は残存部で南北3.5m、東西2.2mを測り、平面形は方形を呈していたと思われる。壁高は最大値で15cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床は貼床されており、西壁際には周溝が認められる。ピットは3個確認でき、北壁より上抗が存在する。カマドは北壁に構築されており、僅かだが粘土で構築された袖が確認できた。火床には灰・焼土は認められなかった。



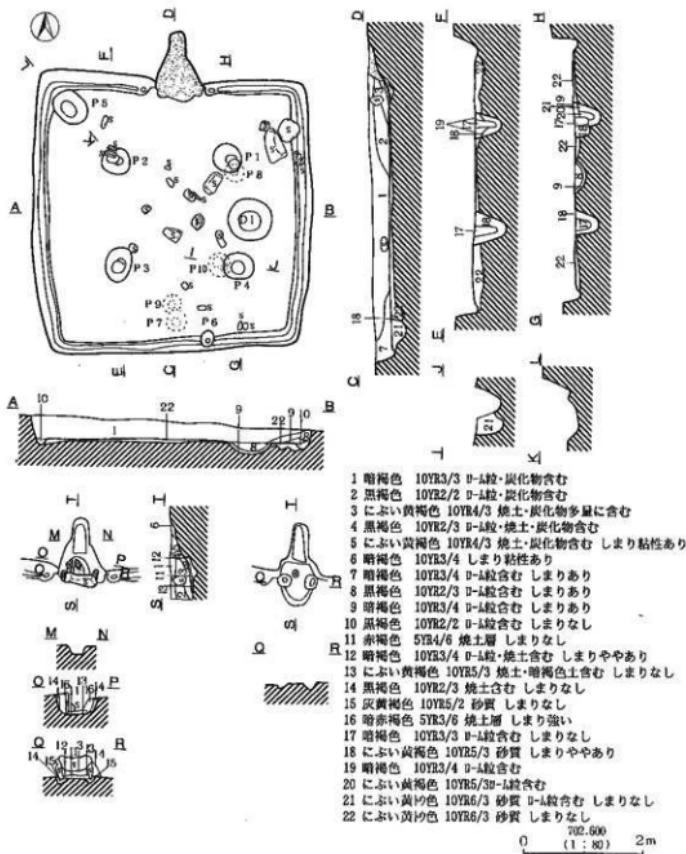
第34図 H11号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調整	備考
1	土師器	坪	14.5	7.5	4.3	内面ミガキ 口縁横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率70% 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
2	土師器	坪	14.1	6.8	3.9	内面ミガキ・黒色処理 外面ヘラ削り	残存率40% 焼成 良好 色調 7.5YR5/4にぶい褐色
3	土師器	坪	15.3	6.9	3.6	内面ミガキ 外面ヘラ削り後ヘラミガキ	残存率20% 焼成 良好 色調 7.5YR5/4にぶい褐色
4	土師器	更	-	-	-	内面ミガキ	残存率20% 焼成 良好 色調 7.5YR6/6橙色

(単位 cm)

第14表 H11号住居跡出土遺物観察表

H12号住居跡（古墳時代）



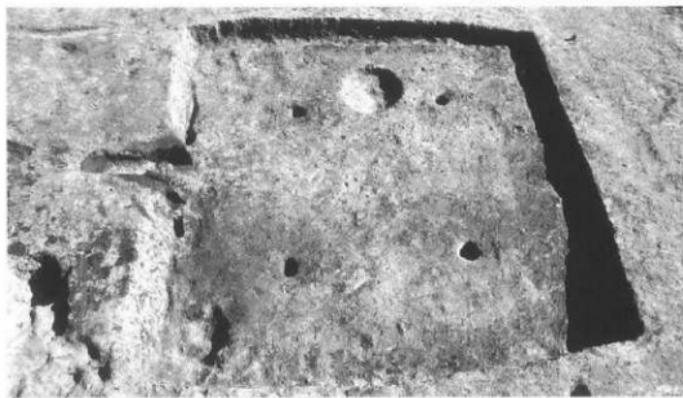
第35図 H12号住居跡実測図

遺構はH-1-2グリット付近の比較的平坦な台地上に位置する。規模は南北5.3m、東西4.6mの方形を呈する。壁高は最大値で28cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は貼床されており、

壁際には周溝が造らされている。ピットは床面上で 6 個確認でき、P 1 ~ P 4 は主柱穴である。また P 1 と P 4 のほぼ中間に土坑が認められる。カマドは北壁中央に構築されており、良好な状態であった。カマド焚口部分の左右には扁平な石を使用し、その上に天井石が乗せられている。火床は厚さ 8 cm の焼土が堆積していた。



写26 H12号住居跡遺物出土状態



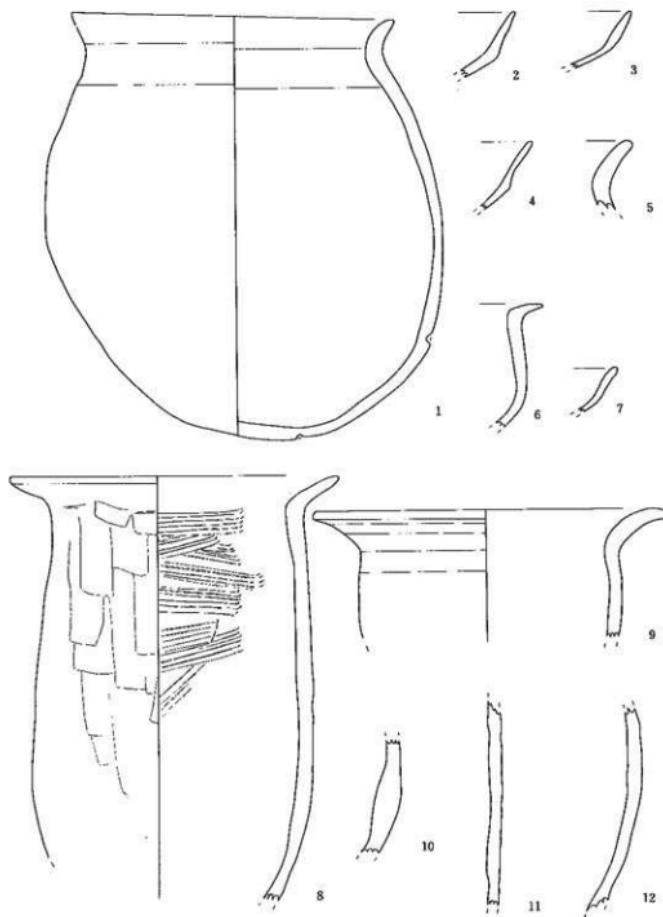
写27 H12号住居跡



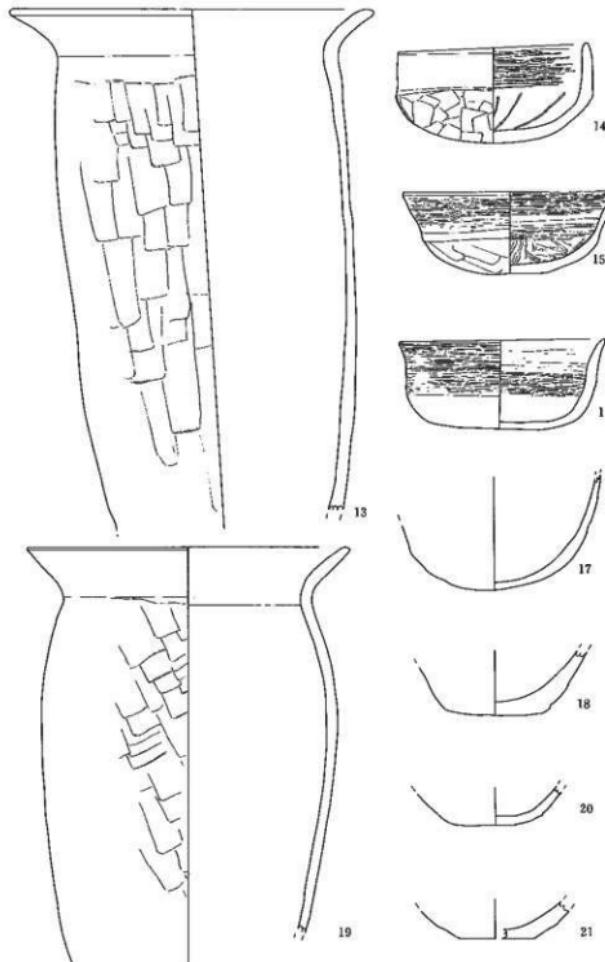
写28 H12号住居跡カマド



写29 H12号住居跡カマド裏方



第36图 III-12号住房跡出土遺物実測図



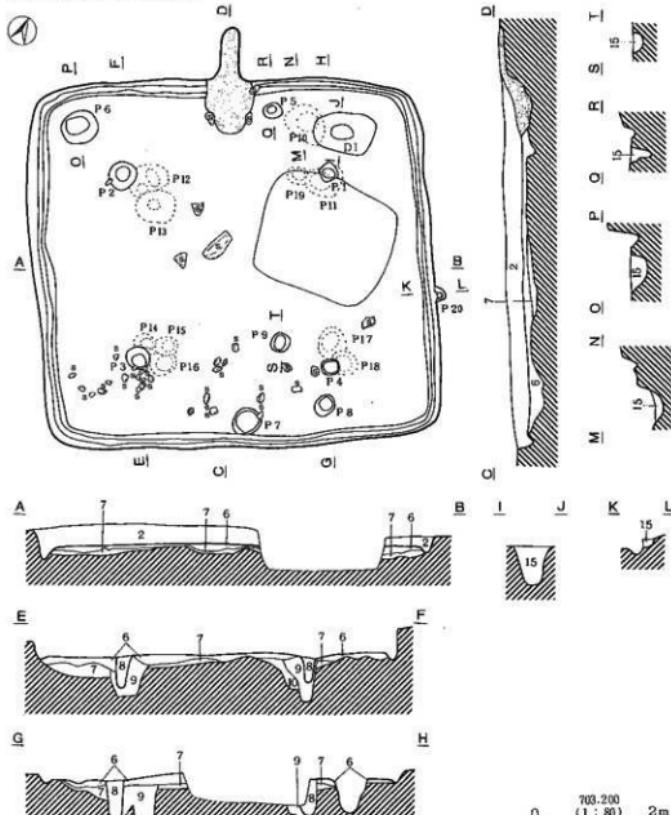
第37図 H12号住居跡出土遺物素描図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調査	備考
1	土師器	壺	19.6	10.0	26.7	内面ヘラミガキ 外面ヘラ削り後ミガキ	残存率95% 焼成 良好 色調 10YR8/4に近い黄褐色
2.	土師器	壺	-	-	-	口縁横ナデ	残存率10% 焼成 良好 色調 7.5YR6/6橙色
3	土師器	壺	-	-	-	口縁横ナデ	残存率10% 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
4	土師器	壺	-	-	-	口縁横ナデ 外面体部ヘラ削り	残存率20% 焼成 良好 色調 10YR8/3浅黄褐色
5	土師器	壺	-	-	-	口縁横ナデ 外面ミガキ	残存率15% 焼成 良好 色調 7.5YR6/6橙色
6	土師器	壺	-	-	-	内面ヘラミガキ	残存率10% 焼成 良好 色調 10YR7/3に近い黄褐色
7	土師器	壺	-	-	-	口縁横ナデ	残存率20% 焼成 良好 色調 5YR6/4に近い橙色
8	土師器	壺	22.2	-	-	内面クシ痕の残るヘラ削り 外面体部ヘラ削り	残存率80% 焼成 良好 色調 5YR5/6明赤褐色
9	土師器	壺	21.8	-	-	外面 縦方向ヘラ削り	残存率口縁の一部 焼成 良好 色調 10Y5/8赤色
10	土師器	壺	-	-	-	内面ヘラ削り	残存率 破片 焼成 良好 色調 7.5Y4/4褐色
11	土師器	壺	-	-	-	内面ヘラ削り 外面 縦方向ヘラ削り	残存率 破片 焼成 良好 色調 2.5Y3/1黒褐色
12	土師器	壺	-	-	-	内面ヘラ削り 外面縱方向のヘラ削り	残存率 破片 焼成 良好 色調 7.5Y7/8黄褐色
13	土師器	壺	22.6	-	-	口縁横ナデ 外面縱方向のヘラ削り	残存率85% 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
14	土師器	壺	11.9	6.5	6.5	内面ヘラミガキ 口縁横ナデ 外面ヘラ削り	残存率75% 焼成 良好 色調 7.5Y6/4に近い橙色
15	土師器	壺	13.2	4.2	5.0	内面ヘラミガキ 口縁横ナデ 外面ヘラ削り	残存率40% 焼成 良好 色調 10YR7/4に近い橙色
16	土師器	壺	12.9	8.4	5.7	内面ヘラ削り 口縁横ナデ 外面ヘラ削り	残存率85% 焼成 良好 色調 5YR5/6橙色
17	土師器	壺	-	一 丸底	-	外面ヘラ削り	残存率底部のみ 焼成 良好 色調 10YR5/8赤色
18	土師器	壺	-	6.4	-	内面ヘラ削り 外面・底部ヘラ削り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 2.5Y4/6赤褐色
19	土師器	壺	20.0	-	-	口縁横ナデ 外面体部縦方向・底部ヘラ削り	残存率底部のみ 焼成 良好 色調 7.5YR7/4に近い橙色
20	土師器	壺	-	5.6	-	底部ヘラ削り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 10Y6/6明赤褐色
21	土師器	壺	-	4.4	-	底部ヘラ削り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色

(単位 cm)

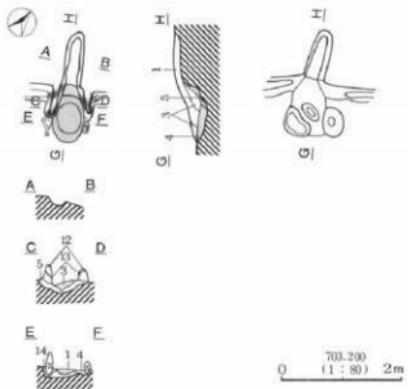
第15表 H12号住居跡出土遺物観察表

H13号住居跡（古墳時代）



- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1 褐色 10YE4/6 D-A粒+ミック 焼土・炭化物含む | 9 にぶい黄褐色 10YE4/3 D-A粒含む しまりなし |
| 2 暗褐色 10YE3/3 D-A粒+灰 焼土・炭化物含む | 10 にぶい黄褐色 10YE5/3 D-A粒含む しまりなし |
| 3 暗褐色 10YE3/4 D-A粒+灰 焼土・炭化物含む しまりなし | 11 暗褐色 10YE3/4 D-A粒+炭化物含む しまりなし |
| 4 明赤褐色 5YE5/6 燃土層 しまりなし | 12 暗褐色 10YE3/3 焼土含む しまりなし |
| 5 にぶい赤褐色 10YE5/3 灰・焼土多量に含む | 13 にぶい黄褐色 10YE4/3 焼土含む しまりなし |
| 6 褐色 10YE4/6 D-A粒含む しまりあり | 14 黒褐色 10YE2/3 D-A粒+白色粘合土 |
| 7 黄褐色 10YE5/6 D-A粒含む | 15 暗褐色 10YE3/4B-A粒含む しまり粘性あり |
| 8 暗褐色 10YE3/3 D-A粒含む しまりなし | |

第38図 H13号住居跡実測図



第39図 H13号住居跡カマド実測図

また堀方状態で主柱穴付近に2~3個のピットが切り合うように確認できたことから、H13号住居跡は少なくとも2回以上の建て替えがあったものと考えられた。

遺構はH-し-2グリット付近の比較的平坦な台地上に位置する。規模は南北6.9m、東西6.6mを測り、平面形は方形を呈する。壁高は最大値で45cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は張床されており、壁際には周溝が巡らされている。ピットは床面上で9個確認でき、このうちP1~P4は主柱穴である。北西隅には土坑が認められる。カマドは北壁中央に構築されており両袖は粘土で作られている。火床は壁からやや内側に位置し、厚さ10cmの焼土が堆積していた。煙道は火床から立ち上がり、壁から80cm外へのびている。



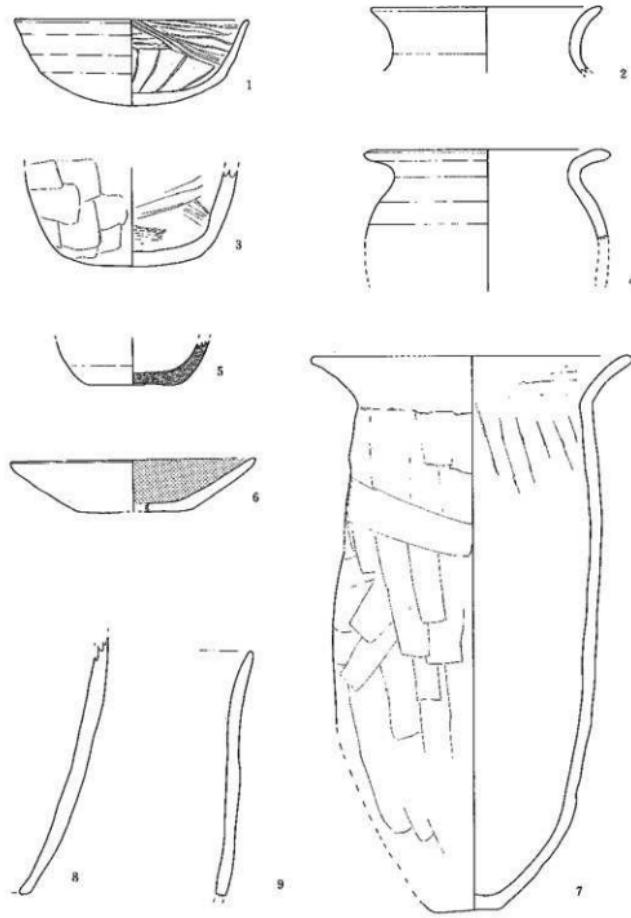
写30 H13号住居



写31 H13号住居跡カマド



写32 H13号住居跡カマド壁方



第40圖 H13號住居跡出土遺物實測圖

番 号	器 種	器 形	口径	底径	器高	調 整	備 考
1	土師器	环	13.0	— 丸底	—	内面暗紋 口縁横ナデ 外面全体へラ削り	残存率55% 焼成 良好 色調 10YR5/3に近い黄褐色
2	土師器	甕	20.8	—	—	口縁ミガキ	残存率 口縁の一部 焼成 色調 7.5YR5/6橙色 良好
3	土師器	甕	—	7.0	—	内面クシ目痕の残るヘラ削り 外面・底部へラ削り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 10YR7/4に近い黄褐色
4	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ 外面横方向のヘラ削り	残存率15% 焼成 良好 色調 5YR4/4に近い赤褐色
5	須恵器	不明	—	—	—	底部へラ削り	残存率 底部周辺 焼成 良好 色調 7.5Y4/1褐色
6	土師器	环	—	8.6	—	内面黒色処理及びミガキ 底部へラ削り	残存率35% 焼成 良好 色調 7.5YR5/8黄褐色
7	土師器	甕	20.2	4.6	34.4	口縁横ナデ 外面へラ削り	残存率55% 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
8	土師器	甕	—	—	—	外面へラ削り	残存率底部の一部 焼成 良好 色調 10YR7/3に近い黄褐色
9	土師器	甕	—	—	—	外面へラ削り	残存率15% 焼成 良好 色調 10YR7/3に近い黄褐色

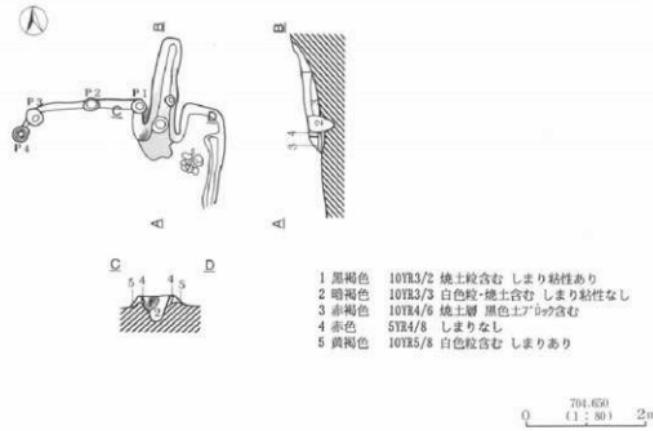
(単位 cm)

第16表 H13号住居跡出土遺物観察表



写33 H13号住居跡出土砾石・白玉

H 14号住居跡（古墳時代）



第41図 H 14号住居跡実測図



写34 H 14号住居跡

遺構はE-ヒー3グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北1.5m、東西3.3mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で30cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は堅く、東壁に沿って周溝が認められる。ピットは北壁沿いに4個確認できた。カマドは北壁の東よりに構築されており、両袖の状態は良好で、粘土で構築されている。火床は厚さ6cmの焼土が堆積しており、煙道は火床から立ち上がり、壁から外へ80cmのびる。



写35 H14号住居跡カマド



写36 H14号住居跡烟道

H15号住居跡（古墳時代）



501,800
0 (1:80) 2m

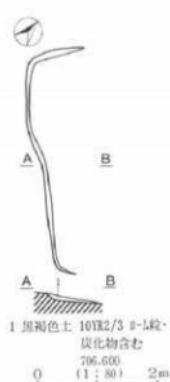
第42図 H15号住居跡実測図

遺構はF-9グリット付近に位置する。調査規模は残存部で僅かに南北1.0m、東西3.2mを測る。壁高は5cmである。床面は堅く北壁から西壁にかけて周溝が見られる。ピットは2個確認でき、床面の東よりに焼土が認められた。



写37 H15号住居跡

H16号住居跡（古墳時代）

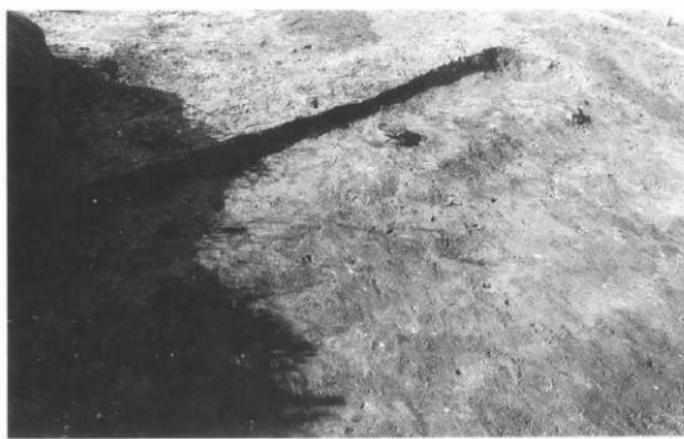


写38 H16号住居跡実測図

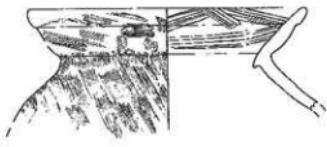
造構はH-き-10グリット付近に位置し、台地の北端にあたる。造構は3分の2が谷に崩れ落ちており、調査規模は南北0.8m、東西3.7mと僅かである。壁高は最大で6cmを測る。



写38 H16号住居跡遺物出土状態



写39 H16号住居跡



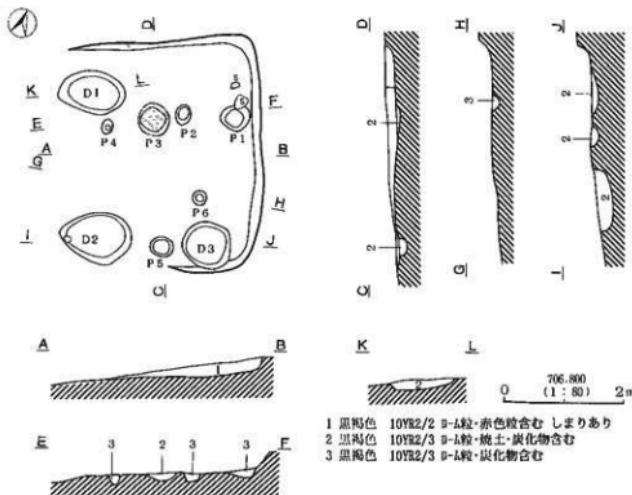
第44図 H16号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調査		備考
						内面	外面	
1	土師器	甌	17.2	-	-	刷毛目	刷毛目	残存率20% 焼成 良好 色調 10Y4/2灰黃褐色

(単位 cm)

第17表 H16号住居跡出土遺物観察表

H17号住居跡（平安時代）

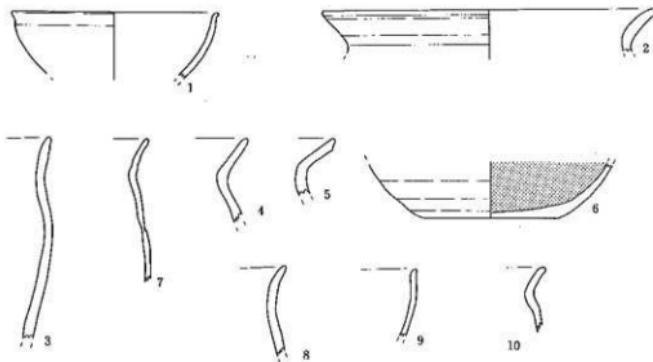


第45図 H17号住居跡実測図

遺構はD一すー14グリット付近の緩斜面上に位置する。造構は多くのピットと重複関係にあり、床面の多くを切られる。規模は残存部で南北3.9m、東西3.1mを測り、平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は最大値で15cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、床面中央付近に焼土の分布が見られた。カマドなどの施設は認められなかった。



写40 H17号住居跡



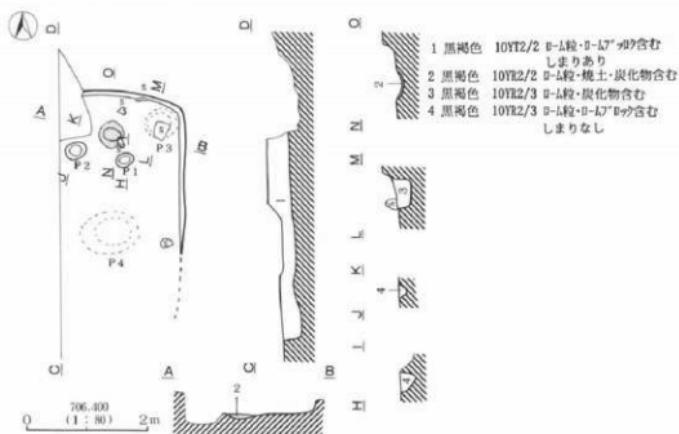
第46図 H17号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調整	備考
1	土師器	壺	13.0	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 5YR5/8明赤褐色
2	土師器	甕	20.8	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR5/4に近い褐色
3	土師器	甕	-	-	-		残存率 体部の一部 焼成 良色調 7.5YR5/4に近い褐色
4	土師器	甕	-	-	-	口縦横ナデ	残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR4/6褐色
5	須恵器	甕	-		-		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR5/6明褐色
6	土師器	壺	-	8.6	-	内面黒色処理 底部ヘラ削り	残存率 底部 焼成 良色調 7.5YR7/8黄褐色
7	土師器	甕	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR5/6に近い橙色
8	土師器	甕	-	-	-	口縦横ナデ	残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR2/3暗褐色
9	土師器	甕	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR5/6に近い橙色
10	土師器	甕	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 5YR4/3に近い赤褐色

(単位 cm)

第18表 H17号住居跡出土遺物観察表

H18号住居跡（平安時代）

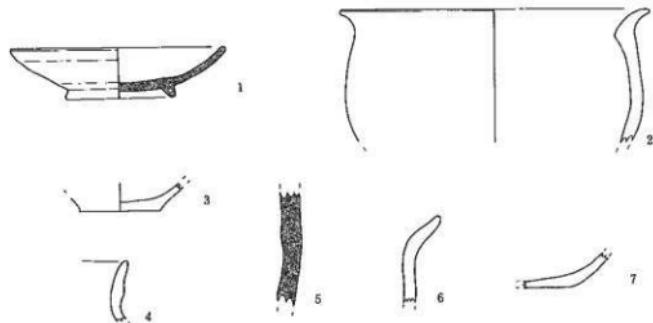


第47図 H18号住居跡実測図

遺構はD—せー14グリット付近の調査区東端の緩斜面上に位置する。遺構の西側は調査区外となる。調査規模は南北2.4m、東西2.1mと実際の1/4程度の調査面積にとどまった。壁高は床面から最大値で20cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、一部に焼土が認められた。ピットは4個確認でき、北東隅のP3から、ほぼ完形の灰釉陶器が出土した。



写41 H18号住居跡



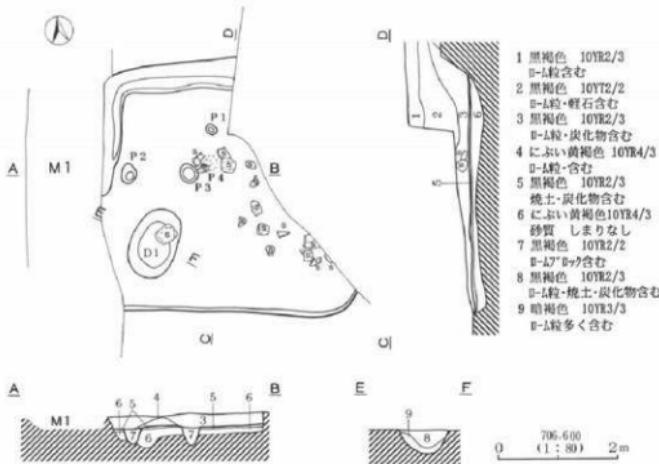
第48図 H18号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	測量	備考
1	灰釉陶器	高台付壺	13.2	6.7	3.2	底部回転糸切り 高台張り付け	残存率98% 焼成良好 色調 2.5YR8/2灰白色
2	土師器	壺	13.8	—	—	口縁横ナデ	残存率15% 焼成 良 色調 5YR2/3暗赤褐色
3	土師器	壺	—	5.0	—	底部回転糸切り	残存率底部のみ 焼成 良 色調 10YE2/2黒褐色
4	土師器	壺	—	—	—	口縁横ナデ	残存率 口縁の一部 焼成良好 色調 7.5YR6/4にぶい橙色
5	須恵器	壺	—	—	—	外面 自然釉付着	残存率破片 焼成 良好 色調 7.5Y4/3褐色
6	土師器	壺	—	—	—	口縁横ナデ	残存率 口縁の一部 焼成 良 色調 7.5YR6/4橙色
7	土師器	壺	—	—	—	底部ヘラ削り 内面黒色処理	残存率底部 焼成 良好 色調 7.5YR6/6橙色

(単位 cm)

第19表 H18号住居跡出土遺物観察表

H19号住居跡（平安時代）



第49図 H19号住居跡実測図

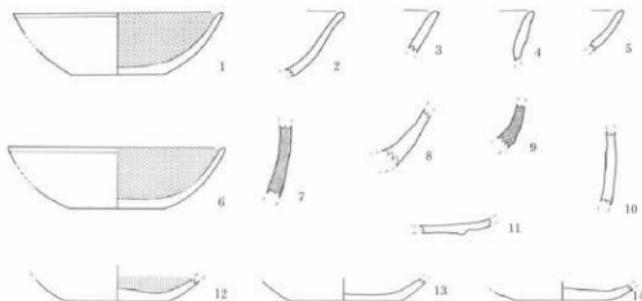


写42 H19号住居跡

遺構はD-こ-18グリッド付近に位置する。遺構はM1と重複関係にあり西壁の上面を切られる。また北東隅は調査区外となる。調査規模は南北4.2m、東西3.8mを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は床面から最大値で45cmを測る。また北壁及び西壁には周溝が認められる。床面は貼床されており、中央付近には拳大の石が多く見られた。ピットは床面上で3個確認でき、南西壁際に楕円形の土坑が認められた。



写真43 H19号住居跡塗方



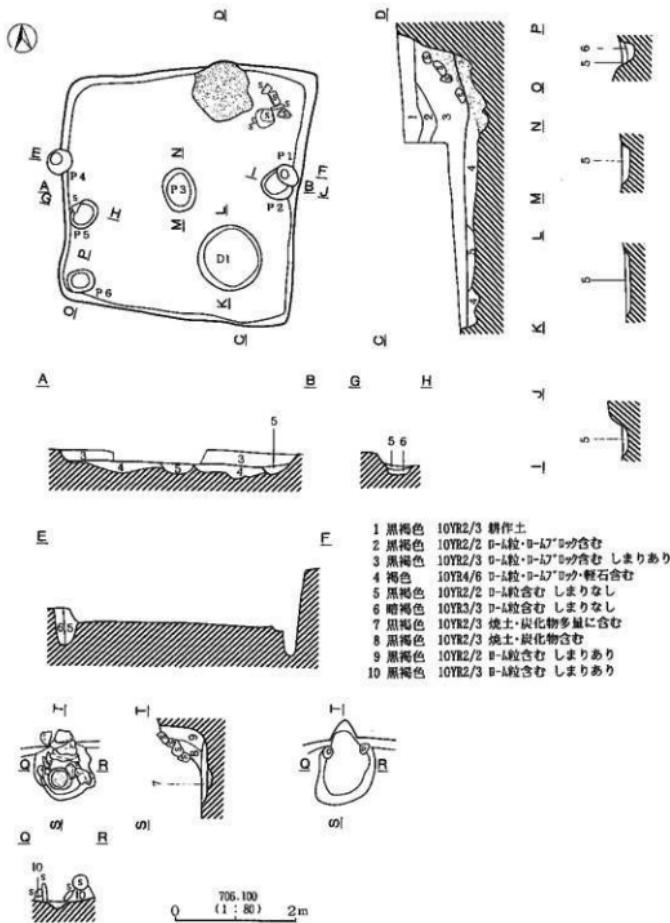
第50図 H19号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調 整	備 考
1	土師器	环	13.0	5.6	3.8	内面墨色處理 底部回転糸切り	残存半60% 焼成 良好 色調 10YR8/3浅黄褐色
2	土師器	环	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 5YR4/8赤褐色
3	土師器	环	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 7.5YR5/3にぶい褐色
4	土師器	甕	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 5TR4/6赤褐色
5	須恵器	环	-	-	-	外側タキ痕	残存率 破片 焼成良好 色調 5Y5/1灰色
6	土師器	环	13.5	5.5	4.0	内面墨色處理 底部回転糸切り	残存半60% 焼成 良好 色調 10YR7/3にぶい黄色
7	須恵器	环	-	-	-		残存率 破片 焼成 良好 色調 7.5Y4/1灰色
8	土師器	环	-	-	-		残存率 破片 焼成 良好 色調 7.5Y4/4褐色
9	須恵器	环	-	-	-		残存率 破片 焼成 良好 色調 5Y5/1灰色
10	土師器	甕	-	-	-	体部 ヘラ削り	残存率 破片 焼成 良好 色調 5TR4/6赤褐色
11	土師器	环	-	-	-	内面墨色處理 底部回転糸切り	残存率 底部の一部 焼成 良好 色調 10YR4/6褐色
12	土師器	环	-	6.4	-	内面墨色處理 底部回転糸切り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
13	土師器	环	-	6.8	-	底部 ヘラ削り	残存率 底部の一部 焼成 良好 色調 7.5YR7/4にぶい橙色
14	土師器	环	-	5.8	-	底部回転糸切り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 7.5YR7/3にぶい橙色

(単位 cm)

第20表 H19号住居跡出土遺物観察表

H20号住居跡（平安時代）



第51回 H20号住居跡実測図

造構はD-け-20グリット付近に位置する。規模は南北3.7m、東西2.8mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。壁高は床面から最大値で11cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は貼床されており、ビットは6個確認できた。主柱穴は東西壁際に掘り込まれたP1・P4であると思われ、住居の南東隅には円形の土抗が認められた。カマドは北壁中央のやや東よりに構築されており、袖部及び煙道天井部には多くの石が使用され良好な状態を示していた。火床には厚さ16cmの焼土が堆積していた。



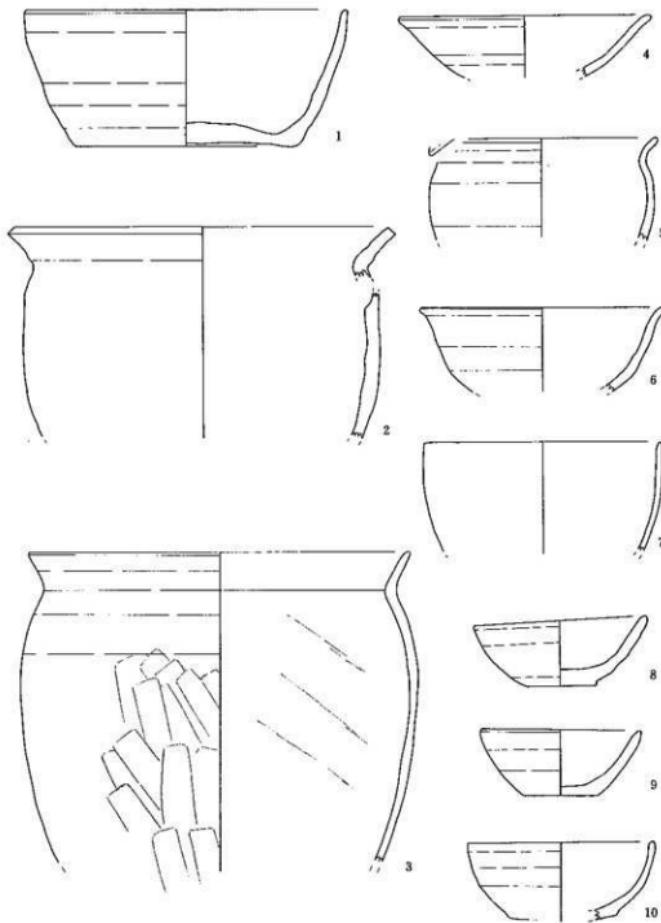
写44 H20号住居跡



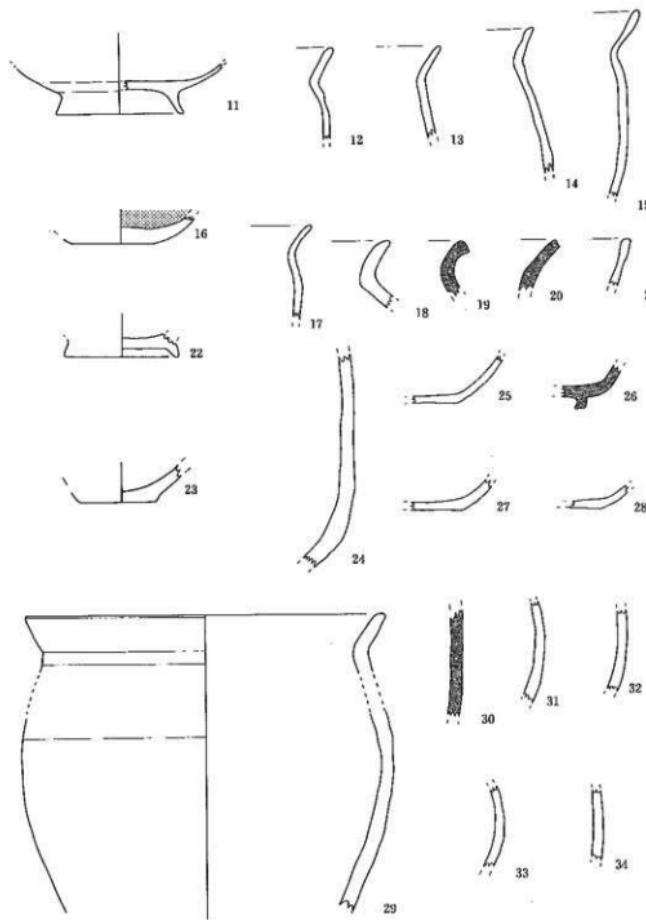
写45 H20号住居跡カマド



写46 H20号住居跡カマド



第52圖 H20号住居跡出土遺物実測図



第53圖 H20號住居跡出土遺物素描圖

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調 整	備 考
1	土師器	鉢	20.0	13.6	8.4	底部へラ削り	残存率40% 焼成 良好 色調 2.5YR4/3暗赤褐色
2	土師器	甕	23.8	—	—	口縁横ナデ 外面体部縦方向のヘラ削り	残存率30% 焼成 良好 色調 5YR3/2暗赤褐色
3	土師器	甕	23.6	—	—	口縁横ナデ 外面体部縦方向の横ナデ	残存率35% 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
4	土師器	壺	15.8	—	—		残存率30% 焼成 良好 色調 2.5YR5/8暗赤褐色
5	土師器	甕	14.2	—	—		残存率25% 焼成 良好 色調 7.5YR4/4褐色
6	土師器	壺	14.7	—	—		残存率25% 焼成 良好 色調 7.5YR5/4にぶい橙色
7	土師器	壺	19.6	—	—	内面・外面部へラミガキ	残存率口縁の一部 焼成良好 色調 10YR7/4にぶい黄橙色
8	土師器	壺	10.0	4.7	4.4	底部回転糸切り	残存率 85% 焼成 良好 色調 10YR7/3にぶい黄橙色
9	土師器	壺	10.0	4.8	4.1	底部回転糸切り	残存率100% 焼成 良好 色調 10YR7/3にぶい黄橙色
10	土師器	壺	11.6	—	—	底部回転糸切り	残存率30% 焼成 良好 色調 5YR5/6明赤褐色
11	土師器	高台付壺	—	7.8	—	底部回転糸切り後高台張り付け	残存率25% 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
12	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 色調 5YR5/6明赤褐色 良好
13	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 色調 7.5YR5/6橙色 良好
14	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 色調 7.5YR5/6橙色 良好
15	土師器	甕	—	—	—		残存率口縁の一部 焼成良好 色調 5YR5/4にぶい赤褐色
16	土師器	壺	—	6.2	—	底部回転糸切り 内面黒色処理	残存率15% 焼成 良好 色調 2.5YR6/6橙色
17	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 色調 7.5YR5/6明褐色 良好
18	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 7.5YR5/6橙色
19	須恵器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 7.5YR5/3にぶい褐色

(単位 cm)

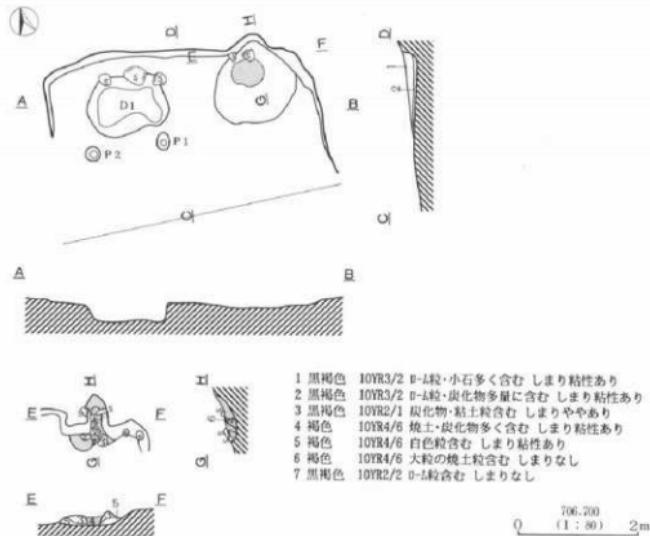
第21表 H20号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	器形	口径	底径	器高	測量	備考
20	須恵器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 色調 N3/0暗灰色 良好
21	土師器	甕	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 良色調 7.5YR5/3にぶい褐色
22	土師器	高台付坏	—	7.0	—	底部回転糸切り 高台張り付け	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 10YR7/4にぶい黄褐色
23	土師器	坏	—	4.6	—	底部回転糸切り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 10YR7/4にぶい黄褐色
24	土師器	甕	—	—	—	内面ヘラ削り	残存率 体部の一部 焼成 良色調 7.5YR3/3暗褐色
25	土師器	坏	—	—	—	底部ヘラ削り	残存率20% 焼成 良好 色調 7.5YR5/4にぶい橙色
26	須恵器	高台付坏	—	—	—	高台張り付け	残存率15% 焼成 良好 色調 N5/0灰色
27	土師器	坏	—	—	—	底部ヘラ削り	残存率15% 焼成 良色調 2.5YR5/8暗赤褐色
28	土師器	坏	—	—	—	底部回転糸切り	残存率15% 焼成 良好 色調 7.5YR6/6橙色
29	土師器	甕	22.2	—	—	外面縦方向ヘラ削り	残存率25% 焼成 良好 色調 7.5YR5/4にぶい褐色
30	須恵器	甕	—	—	—		残存率 体部の一部 焼成 色調 7.5T1,7/1 良好
31	土師器	甕	—	—	—		残存率 体部の一部 焼成 色調 5YR6/8橙色 良好
32	土師器	甕	—	—	—	外面体部縦方向のヘラ削り	残存率 体部の一部 焼成 色調 7.5YR6/6橙色 良好
33	土師器	甕	—	—	—	外面体部縦方向のヘラ削り	残存率 体部の一部 焼成 色調 7.5YR6/4にぶい橙色
34	土師器	甕	—	—	—	外面体部縦方向ヘラ削り	残存率 体部の一部 焼成 色調 7.5YR5/3にぶい褐色

(単位 cm)

第22表 H20号住居跡出土遺物観察表

H21号住居跡（平安時代）



第54図 H21号住居跡実測図



写47 H21号住居跡

遺構はD-お-17グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北2.1m、東西1.5mを測り、平面形はやや隅丸の方形を呈したと思われる。壁高は最大値で20cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は凹凸が激しく、北西隅には土抗が認められる。カマドは中央からやや東よりに構築されており、両袖は僅かに粘土が残存していた。また火床には厚さ16cmの多量な焼土が堆積していた。



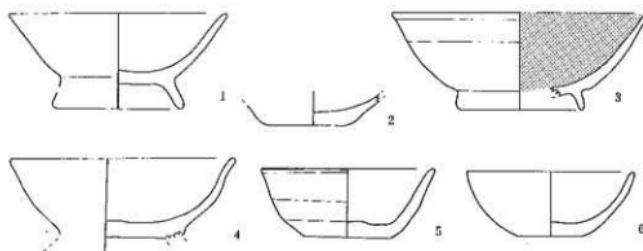
写48 H21号住居跡遺物出土状態



写49 H21号住居跡カマド



写50 H21号住居跡遺物出土状態



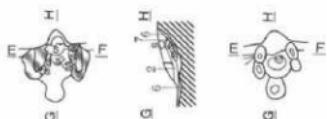
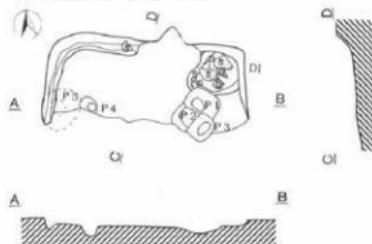
第55図 H21号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調 整	備 考
1	土師器	高台付坏	13.5	7.2	5.9	底部糸切り後に高台張り付け	残存率90% 焼成 良 色調 5YR7/8橙色
2	土師器	坏	-	5.5	-	底部回転糸切り	残存率25% 焼成 良好 色調 5YR6/3にぶい橙色
3	土師器	高台付坏	16.0	8.7	6.1	内面黒色処理・暗紋	残存率35% 焼成 良 色調 5YR7/4にぶい橙色
4	土師器	高台付坏	14.0	7.4	5.1	底部回転糸切り後高台張り付け	残存率70% 焼成 良 色調 7.5YR6/7橙色
5	土師器	坏	10.3	5.4	4.3	底部回転糸切り	残存率100% 焼成 良好 色調 にぶい橙色
6	土師器	坏	10.4	4.0	4.0	底部回転糸切り	残存率90% 焼成 良 色調 7.5YR7/3にぶい橙色

(単位 cm)

第23表 H21号住居跡出土遺物観察表

H22号住居跡（平安時代）



- | | | | | |
|---|------|----------|---------------|-------------|
| 1 | 暗褐色 | 10YR3/3 | 白色粒・焼土含む | しまり粘性あり |
| 2 | 黒褐色 | 10YR3/2 | 焼土・炭化物含む | しまり粘性なし |
| 3 | 黒褐色 | 10YR3/2 | 焼土粒・炭化物含む | しまり粘性あり |
| 4 | 褐色 | 10YR4/4 | 3-4粒多量に含む | しまり粘性あり |
| 5 | 黄褐色 | 10YR5/5 | 黒色粒含む | しまり粘性あり |
| 6 | 明赤褐色 | 2.5YR5/8 | 焼土層 | よく焼け硬質化している |
| 7 | 明赤褐色 | 2.5YR5/8 | 0-1粒・炭化物多量に含む | しまりなし |

造構はC-た-16グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は残存部で南北1.4m、東西3.4mを測る。壁高は42cmを測り外傾しながら立ち上がる。床面は堅くピットは4個確認できたが、これが主柱穴とは確定できない。カマドは北壁の東よりに構築されており良好な状態である。袖部は内面壁にあたる部分に扁平な石を利用し壁面として外側を粘土で覆っている。火床に焼土・灰は認められなかった。

0 706.400 (1:80) 2m

第56図 H22号住居跡実測図



写51 H22号住居跡



写52 H22号住居跡カマド



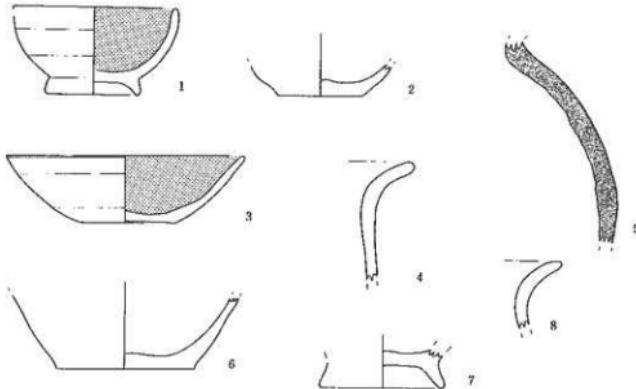
写53 H22号住居跡カマド



写54 H22号住居跡カマド壙方



写55 H22号住居跡壙方



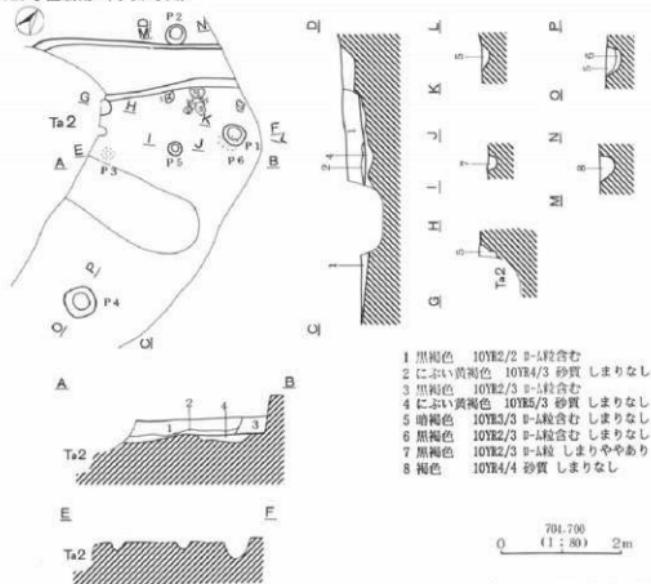
第57図 H22号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径	底径	器高	調整	備考
1	土師器	高台付壺	10.3	6.0	5.4	内面暗紋・黒色処理 底部回転糸切り後高台張り付け	残存率100% 焼成 良 色調 2.5Y2/1黒色
2	土師器	壺	-	5.2	-	底部回転糸切り	残存率底部の一部 焼成 良 色調 10YR4/2灰黄褐色
3	土師器	壺	14.8	6.2	5.2	内面黒色処理 底部ヘラ削り	残存率100% 焼成 良 色調 5YR6/8橙色
4	土師器	壺	-	-	-	外面体部縱方向ヘラ削り	残存率口縁の一部 焼成 良 色調 5YR6/10色
5	須恵器	壺	-	-	-		残存率 体部の一部 焼成 不良 色調 2.5Y2/1黒色
6	土師器	壺	-	8.6	-	底部・外面ヘラ削り 内面黒色処理	残存率 底部 焼成 良 色調 2.5Y5/6明赤褐色
7	土師器	高台付壺	-	7.8	-	底部回転糸切り 高台張り付け	残存率20% 焼成 良 色調 7.5YR7/4にぶい橙色
8	土師器	壺	-	-	-	口縁壙ナデ	残存率口縁の一部 焼成 良 色調 7.5YR2/3暗褐色

(単位 cm)

第24表 H22号住居跡出土遺物観察表

H23号住居跡（平安時代）

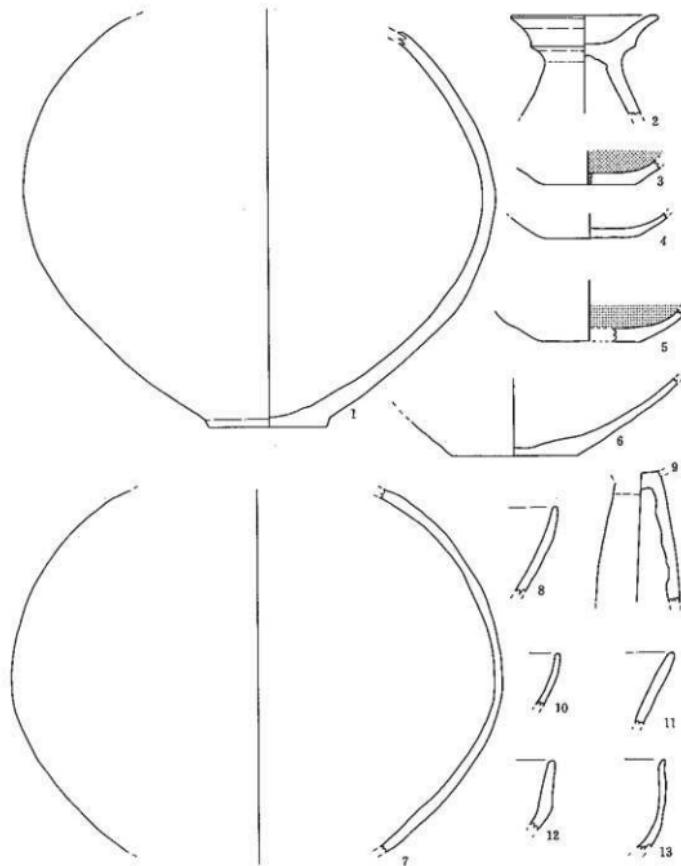


第56図 H23号住居跡実測図

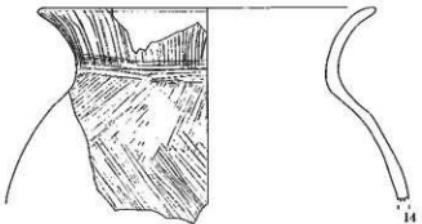


写56 H23号住居跡

造構はG-お-4グリットに位置する。造構はT a 2と重複関係にあり西壁を切られる。東壁は調査区外となる。壁高は最大値で26cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は一部に堅い面が認められ、ピットは6個確認できた。



第59図 H23号住居跡出土遺物実測図



第60図 H23号住居跡出土遺物実測図

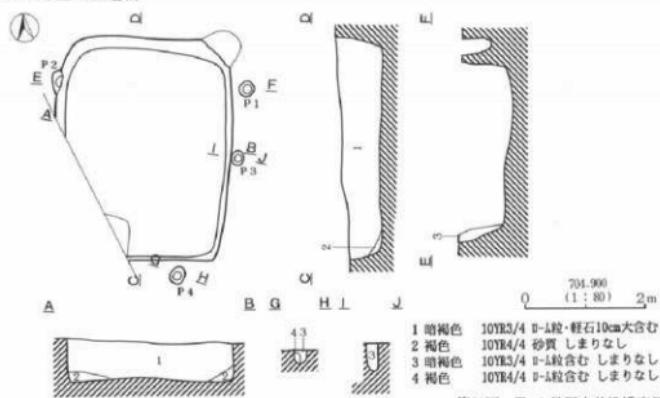
番号	器種	器形	口径	底径	高さ	調査管	備考
1	土師器	甕	-	7.8	-	外面・底部ヘラ削り	残存率80% 焼成 良好 色調 7.5R7/3にぶい橙色
2	土師器	高壺	9.2	-	-	脚部張り付け	残存率65% 焼成 良好 色調 10YR7/3によい黄橙色
3	土師器	壺	-	5.6	-	底部回転糸切り 内面黒色乳理	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 5YR5/6明赤褐色
4	土師器	壺	-	5.8	-	底部回転糸切り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 7.5R6/4にぶい橙色
5	土師器	壺	-	6.2	-	底部ヘラ削り 内面黒色乳理	残存率 底部の一部 焼成 色調 7.5R6/6橙色 良好
6	土師器	甕		7.8		外面縦方向撹で	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調 5YR5/3にぶい赤褐色
7	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラ削り	残存率25% 焼成 良好 色調 5YR4/2灰褐色
8	土師器	高壺	-	-	-	外部研き	残存率 口縁の一部 焼成 色調 7.5Y4/8赤色 良好
9	土師器	高壺	-	-	-		残存率20% 焼成 良好 色調 10YR5/4赤褐色
10	土師器	甕	-	-	-		残存率口縁の一部 焼成 良好 色調 5YR6/6橙色
11	土師器	甕	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 7.5Y7/4 にぶい橙色
12	土師器	壺	-	-	-	口縁横撹で	残存率 口縁の一部 焼成 色調 10YR2/3黒褐色 良好
13	土師器	壺	-	-	-		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調 7.5Y5/4にぶい褐色
14	土師器	甕	20.8	-	-	内面ヘラ研き 外面くし目	残存率 口縁 焼成 良好 色調 10YR7/4によい黄橙色

(単位 cm)

第25表 H23号住居跡出土遺物観察表

第2節 壇穴状遺構 (Ta)

Ta 1号壇穴状遺構



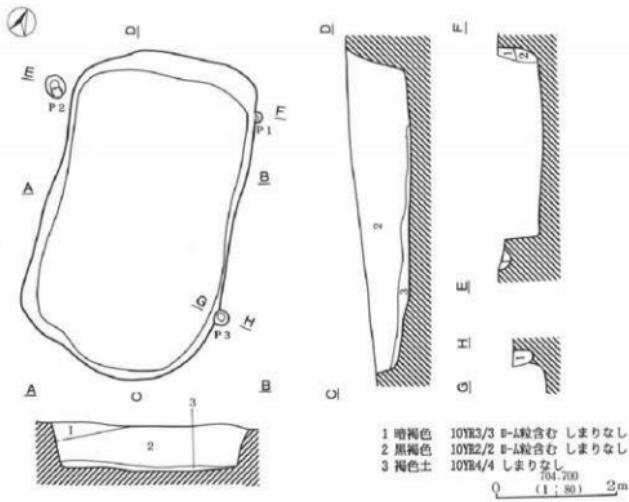
第61図 Ta 1号壇穴状遺構実測図

遺構はG-き-5グリット付近に位置する。南西隅は調査区外となる。規模は南北3.7m、東西2.8mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。壁高は79cmと深くほぼ垂直に立ち上がる。底面はしまりがなく砂地状である。ピットは壁外に4個確認できた。



写57 Ta 1号壇穴状遺構

Ta 2号竪穴状遺構



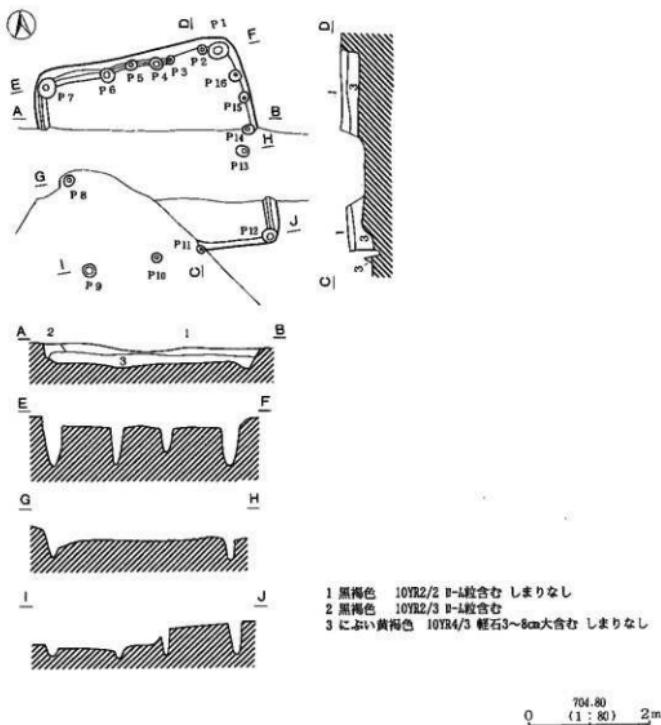
第62図 Ta 2号竪穴状遺構実測図

遺構はG—かー5グリット付近に位置する。遺構はH23と重複関係にありH23の西壁を切る。規模は南北5.4m、東西3.3mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。壁高は最大値で48cmを測り外傾しながら立ち上がる。底面はしまりがなく砂地状である。ピットは壁外に3個確認できた。



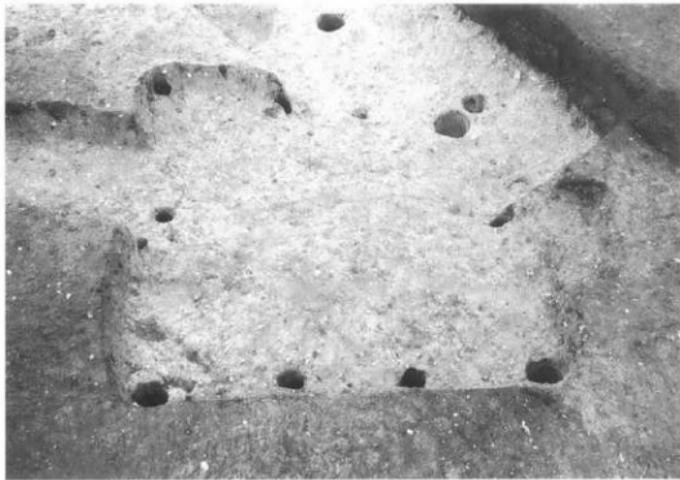
写58 Ta 2号竪穴状遺構

Ta 3号竪穴状遺構

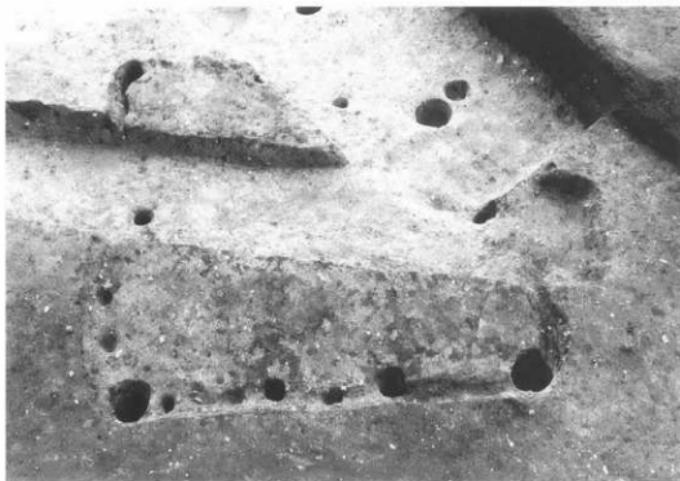


第63図 Ta 3号竪穴状遺構実測図

遺構はG-く-3グリット付近に位置する。遺構はTa 4と重複関係にあり、南北隅を切られる。またカクランによって遺構の中央を幅1.2m、深さ40cmにわたって破壊されている。規模は南北3.4m、東西3.6mを測り、平面形は方形を呈する。壁高は最大値で23cmを測る。床面は堅く、ピットは壁際に巡らすように16個認められた。このうち主柱穴は、遺構のコーナーに掘り込まれたP 1・P 7・P 9・P 12であると思われる。

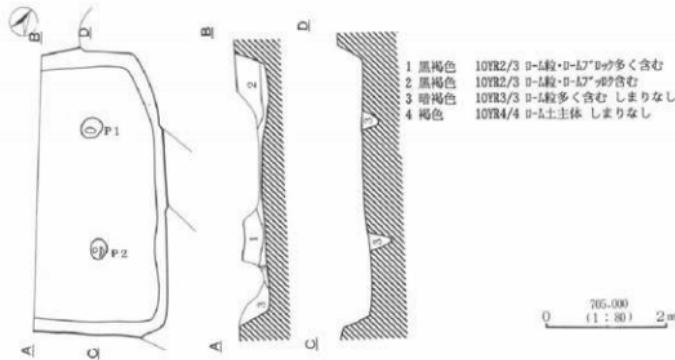


写59 Ta 3号整穴状遗構



写60 Ta 3号整穴状遺構

Ta 4号堅穴状遺構



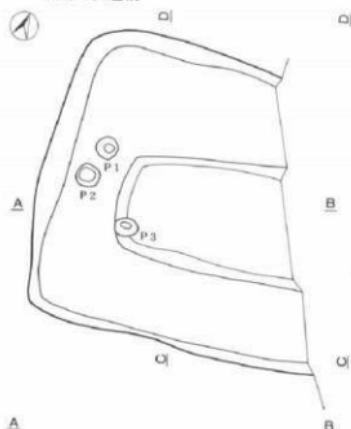
第64図 Ta 4号堅穴状遺構実測図

遺構はG- ζ -4グリット付近に位置する。遺構はTa 3と重複関係にありTa 3の南西隅を切り、西半分は調査区外となる。調査規模は南北4.2m、東西2.2mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。壁高は最大値31cmを測り、やや外傾しながら立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは2個確認できた。



写61 Ta 4号堅穴状遺構

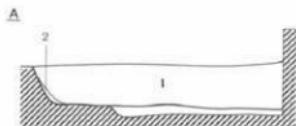
Ta 5号竪穴状造構



□

■

□



■



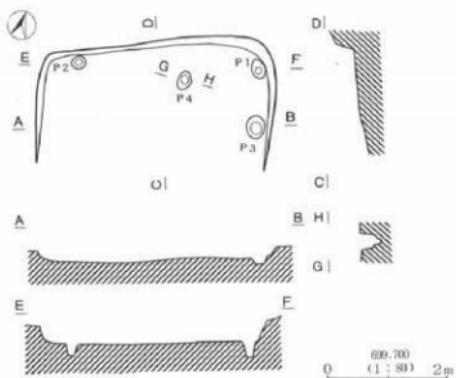
造構はG-か-3グリット付近に位置する。造構の東側は調査区外となる。調査規模は南北4.9m 東西4.9mを測り、平面形は隅丸方形と思われる。底面はしまりがなく砂地状である。ピットは3個確認でき、底面中央付近に長方形の堀り込みがみられた。

第65図 Ta 5号竪穴状造構実測図



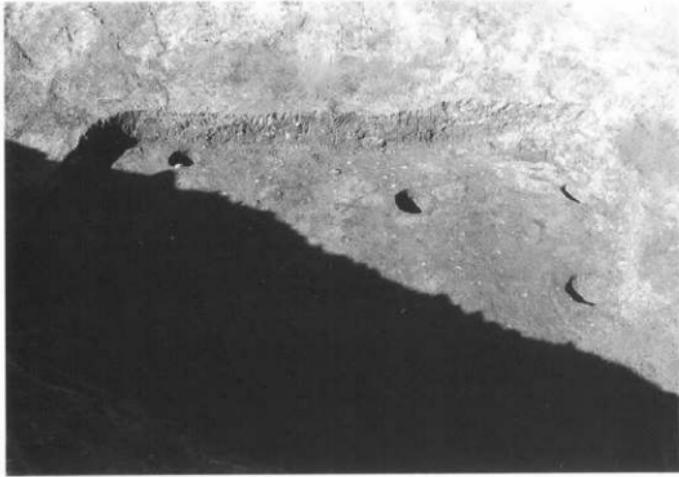
写62 Ta 5号竪穴状造構

Ta 6号竪穴状遺構



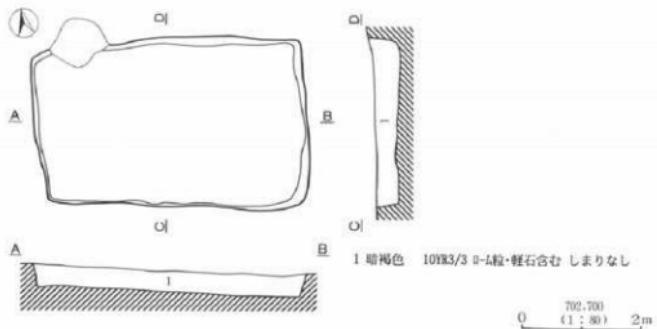
遺構はF-く-9グリット付近に位置する。規模は残存部で南北2.4m、東西3.8mを測り、平面形は隅丸の方形であったと思われる。壁高は最大値で32cmを測る。床面は地山が粘土質のため堅くしまっている。ピットは4個確認できた。

第66図 Ta 6号竪穴状遺構実測図



写62 Ta 6号竪穴状遺構

Ta 7号竪穴状遺構



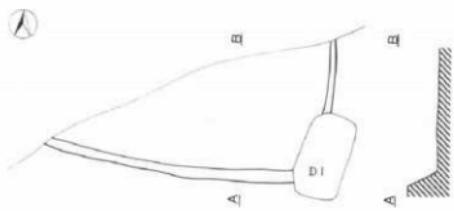
第67図 Ta 7号竪穴遺構実測図

遺構はF-く-20グリット付近の平坦な台地上に位置する。規模は南北4.4m、東西2.8mを測り、平面形は長方形を呈する。壁高は最大値で48cmを測りほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅くしまり、ピットは認められなかった。



写64 Ta 7号竪穴状遺構

Ta 8号竪穴状遺構



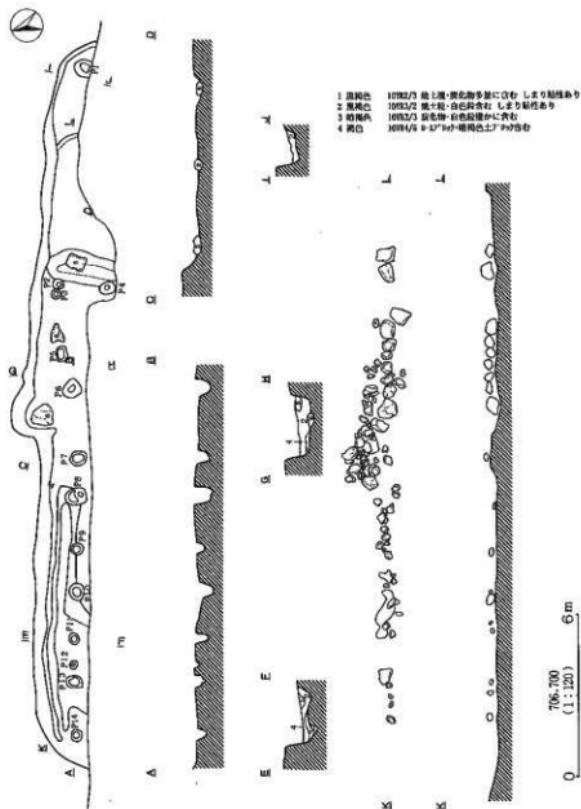
第68図 Ta 8号竪穴状遺構実測図

遺構はF-こ-20グリッド付近の平坦な台地北端に位置しており、遺構の半分は谷に落ちている。残存規模は南北2.3m、東西4.8mを測り、平面形は長方形を呈したと思われる。壁高は最大値で48cmを測りやや外傾しながら立ち上がる。床面は堅く平坦である。ピットは認められなかった。



写65 Ta 8号竪穴状遺構

Ta 9号竪穴状造構



第69図 Ta 9号竪穴状造構実測図

造構はC-C-18グリット付近の緩斜面上に位置する。規模は斜面下側のほとんどが失われた状態で東西9.0m、南北0.9mを測る。壁高は北壁で最大26cmを測り、やや外傾ぎみに立ち上がる。床面は堅くしまっており、北壁に沿って多くの石が認められた。また石の下部には10個のピットが確認でき、造構全体のピット数は14個を数える。

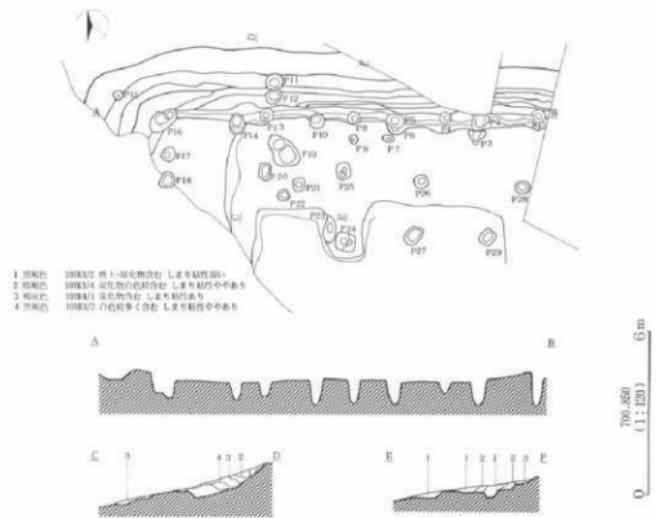


写66 Ta 9号竖穴状遺構



写67 Ta 9号竖穴状遺構

Ta10号竪穴状遺構



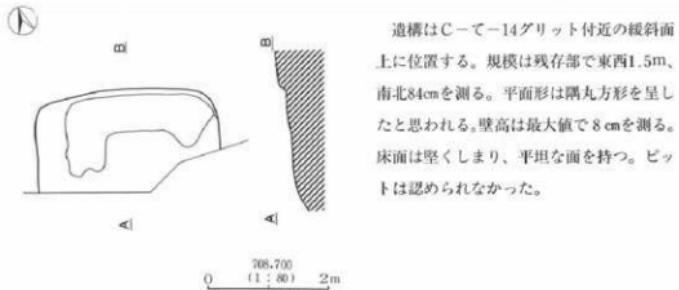
第70図 Ta10号竪穴状遺構実測図



写68 Ta10号竪穴状遺構

造構はC-お-18グリット付近の緩斜面上に位置する。造構の北東隅及び南西隅は調査区外となる。規模は調査規模で東西5.8m、南北1.8mを測る。壁高は31cmを測り、僅かに外傾しながら立ち上がる。北壁沿いには2段のテラスをもち、多くのビットが周囲を巡らすように埋り込まれている。また床面は堅くしまっており、壁際のビットを含め、29個のビットが認められた。

Ta11号竪穴状造構

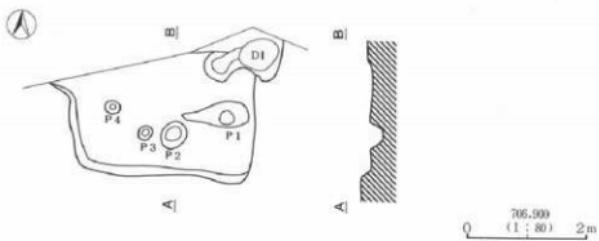


第71図 Ta11号竪穴状造構実測図



写69 Ta11号竪穴状造構

Ta12号竪穴状遺構



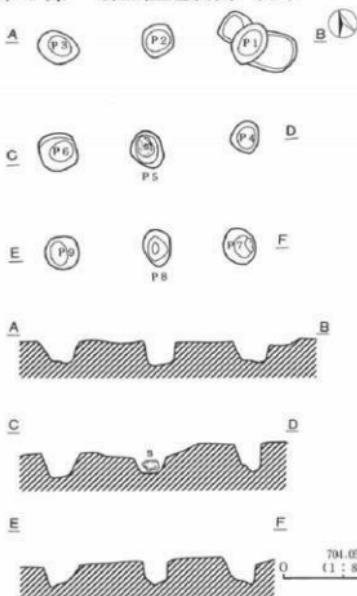
第72図 Ta12号竪穴状遺構横断面実測図

遺構はD—き—17クリット付近の緩斜面上に位置する。遺構の北側は調査区外となる。規模は残存部で東西1.6m、南北96cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。壁高は9cmと浅く、やや外傾ぎみに立ち上がる。床面は堅くしまり、4個のピットが認められた。また北東隅には土坑が確認できた。



写70 Ta12号竪穴状遺構

第3節 堀立柱建物跡 (F)

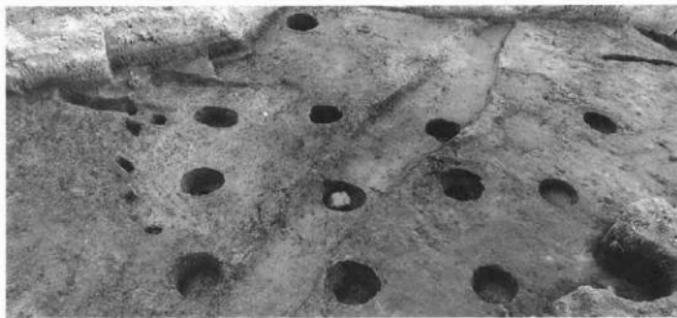


第73図 F 1号堀立柱建物跡実測図

造構はF-あ-3グリットに位置し、2間×2間の総柱建物跡である。柱穴は径60cm前後の円形を呈し、深さはP 1-36cm、P 2-40cm、P 3-32cm、P 4-42cm、P 5-24cm、P 6-46cm、P 7-40cm、P 8-41cm、P 9-49cmを測る。

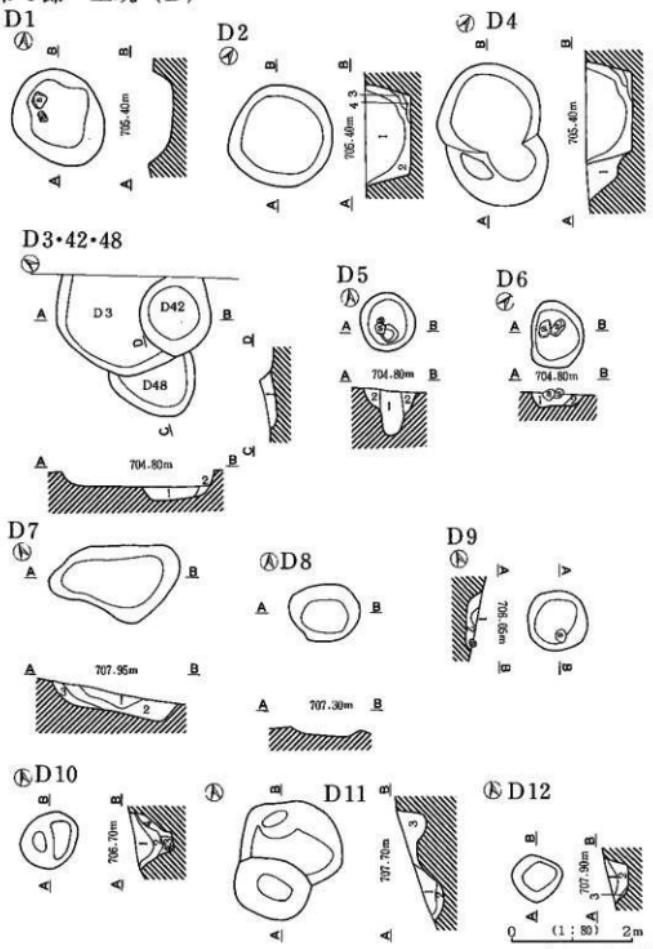


写71 F 1号堀立柱建物跡

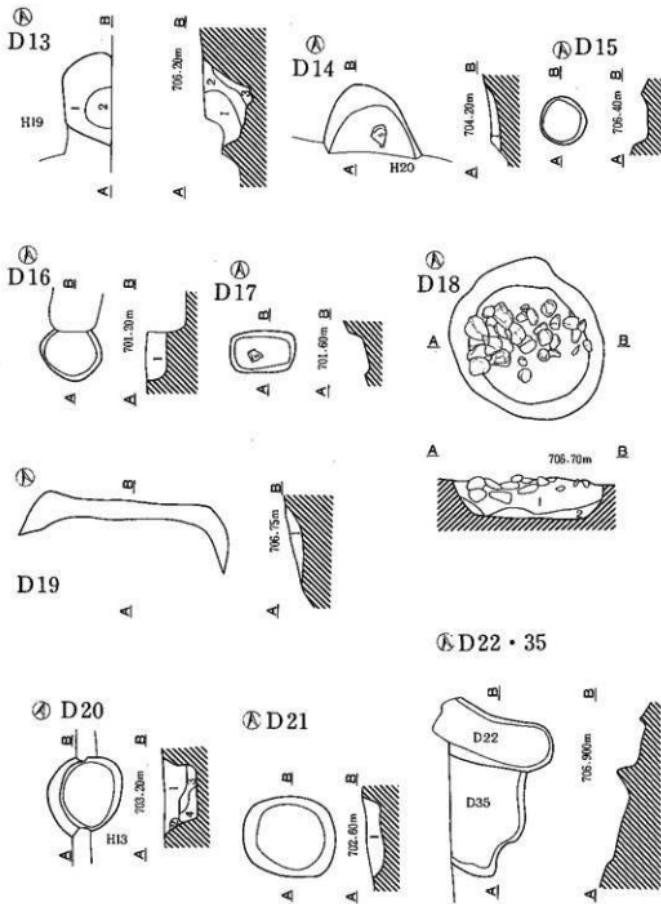


写72 F 1号堀立柱建物跡

第4節 土坑(D)

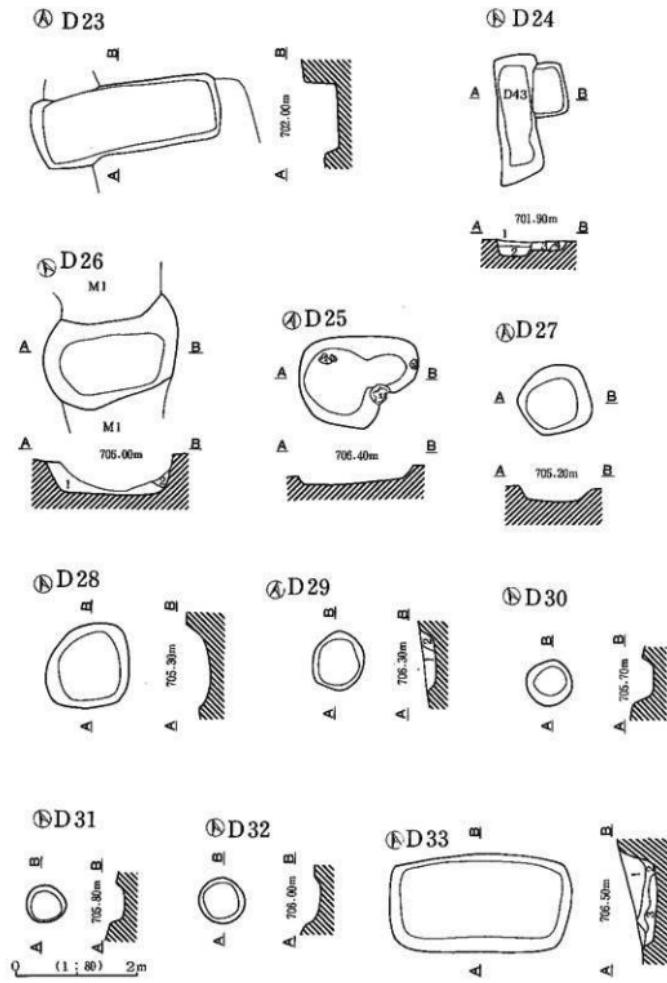


第74図 土坑実測図

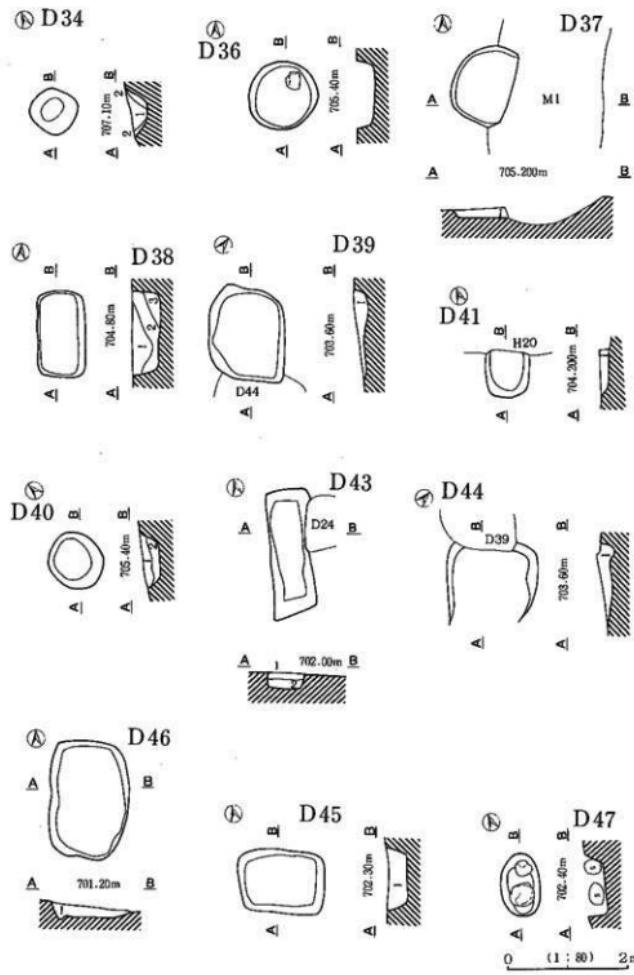


0 (1 : 80) 2m

第75図 土坑実測図



第76図 土坑火燐図



第77図 土坑実測図

D 1号土坑 造構はD-しー19グリットに位置する。規模は南北1.44m、東西1.5m、深さ48cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 2号土坑 造構はD-しー19グリットに位置する。規模は南北1.7m、東西1.76m、深さ72cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 3号土坑 造構はG-くー2グリットに位置し、D42とD48を切る。北側は調査区外となる。調査規模は南北1.52m、東西2.56m、深さ32cmを測る。平面形は円形と思われる。遺物は縄文土器片を出土した。

D 4号土坑 造構はD-しー19グリットに位置する。規模は径1.44m、深さ98cmを測る。平面形は円形に近い隅丸方形を呈する。

D 5号土坑 造構はG-くー2グリットに位置する。規模は径88cm、深さ72cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 6号土坑 造構はG-こー1グリットに位置する。規模は南北1.04m、東西80cm、深さ25cmを測る。平面形はやや東西に長い円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 7号土坑 造構はD-いー15グリットに位置する。規模は南北1.28m、東西2.16m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 8号土坑 造構はD-いー16グリットに位置する。規模は南北0.96m、東西1.12m、深さ23cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 9号土坑 造構はC-とー17グリットに位置する。規模は径96cm、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 10号土坑 造構はC-とー15グリットに位置する。規模は径88cm、深さ64cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 11号土坑 造構はC-そー14グリットに位置する。規模は南北88cm、東西1.2m、深さ48cmを測る。平面形は横円形を呈する。

D 12号土坑 造構はC-そー15グリットに位置する。規模は径80cm、深さ30cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D 13号土坑 造構はD-こー18グリットに位置し、H19に切られる。東側は調査区外となる。調査規模は南北1.6m、東西80cm、深さ80cmを測る。平面形は隅丸方形と思われる。遺物は縄文土器片を出土した。

D 14号土坑 造構はD-けー20グリットに位置し、H20に切られる。残存規模は南北1.04m、東西1.76m、深さ24cmを測る。平面形は円形と思われる。遺物は縄文土器片を出土した。

D 15号土坑 造構はC-セー17グリットに位置する。規模は径80cm、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。

D16号土坑 造構はF-こ-20グリットに位置し、北壁をカクランによって切られる。残存規模は南北80cm、東西96cm、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D17号土坑 造構はF-き-8グリットに位置する。規模は南北72cm、東西1.04m、深さ42cmを測る。平面形は隅丸方形を呈する。

D18号土坑 造構はD-こ-16グリットに位置する。規模は南北2.56m、東西2.48m、深さ64cmを測る。平面形は円形を呈し、造構上部には多数の石が認められた。遺物は縄文土器片を出土した。

D19号土坑 造構はC-お-19グリットに位置する。規模は残存部で南北93cm、東西3.25m、深さ25cmを測る。遺物は縄文土器片を出土した。

D20号土坑 造構はH-し-2グリットに位置し、H13に切られる。残存規模は南北1.36m、東西1.2m、深さ48cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D21号土坑 造構はG-う-8グリットに位置する。規模は南北1.28m、東西1.52m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器片を出土した。

D22号土坑 造構はC-す-16グリットに位置し、D35を切る。西側は調査区外となる。調査規模は南北88cm、東西2.16m、深さ40cmを測る。平面形は隅丸方形と思われる。

D23号土坑 造構はF-ち-8グリットに位置する。規模は南北1.28m、東西3.2m深さ56cmを測る。平面形は方形と思われる。遺物は土師器片を出土した。

D24号土坑 造構はF-つ-8グリットに位置し、D43を切る。残存規模は南北48cm、東西96cm、深さ32cmを測る。平面形は方形と思われる。遺物は土師器片を出土した。

D25号土坑 造構はD-し-16グリットに位置する。規模は南北1.6m、東西2.0m、深さ32cmを測る。

D26号土坑 造構はD-さ-17グリットに位置し、M1に切られる。残存規模は南北1.12m、東西1.28m、深さ32cmを測る。平面形は格円形を呈したと思われる。遺物は土師器片を出土した。

D27号土坑 造構はD-こ-20グリットに位置する。規模は南北1.12m、東西1.28m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は須恵器片を出土した。

D28号土坑 造構はD-こ-20グリットに位置する。規模は南北93cm、東西1.33m、深さ40cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は土師器・須恵器片を出土した。

D29号土坑 造構はD-い-17グリットに位置する。規模は南北97cm、東西80cm、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。遺物は土師器片を出土した。

D30号土坑 造構はC-そ-17グリットに位置する。規模は径84cm、深さ40cmを測る。平面形は円形を呈する。

D31号土坑 造構はC-せ-17グリットに位置する。規模は径64cm、深さ32cmを測る。平面形は

円形を呈する。

D32号土坑 造構はCーセー-17グリットに位置する。規模は径82cm、深さ34cmを測る。平面形は円形を呈する。

D33号土坑 造構はCーすー-16グリットに位置する。規模は南北1.68m、東西2.96m、深さ48cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈する。遺物は須恵器片を出土した。

D34号土坑 造構はCーしー-16グリットに位置する。規模は径86cm、深さ42cmを測る。平面形は円形を呈する。

D35号土坑 造構はCーしー-16グリットに位置し、D22に切られる。西側は調査区外となる。調査規模は南北1.84m、東西1.2m、深さ33cmを測る。遺物は土師器片を出土した。

D36号土坑 造構はDーせー-18グリットに位置する。規模は径1.5m、深さ34cmを測る。平面形は円形を呈する。

D37号土坑 造構はDーさー-17グリットに位置し、M1に切られる。残存規模は南北1.2m、東西1.04m、深さ24cmを測る。平面形は円形を呈したと思われる。

D38号土坑 造構はGーきー-4グリットに位置する。規模は南北1.45m、東西82cm、深さ49cmを測る。平面形はやや隅丸の長方形を呈する。

D39号土坑 造構はGーおー-17グリットに位置し、D44を切る。規模は南北1.55m、東西1.28m、深さ27cmを測る。平面形はやや崩れた隅丸方形を呈する。

D40号土坑 造構はDーこー-19グリットに位置する。規模は径88cm、深さ35cmを測る。平面形は円形を呈する。

D41号土坑 造構はGーけー-1グリットに位置し、H20に切られる。残存規模は南北74cm、東西70cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。

D42号土坑 造構はGーくー-2グリットに位置しD3に切られる。残存規模は径1.23m、深さ32cmを測る。平面形は円形を呈する。

D43号土坑 造構はFーてー-8グリットに位置し、D24を切る。残存規模は南北2.08m、東西65cm、深さ28cmを測る。平面形は長方形を呈する。

D44号土坑 造構はGーおー-8グリットに位置する。規模は南北1.2m、東西1.56m、深さ34cmを測る。平面形は隅丸方形を呈したと思われる。

D45号土坑 造構はHーけー-3グリットに位置する。規模は南北1.04m、東西1.44m、深さ36cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈する。

D46号土坑 造構はHーこー-6グリットに位置する。規模は南北1.92m、東西1.28m、深さ34cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈する。

D47号土坑 造構はH-1-3グリットに位置する。規模は南北1.12m、東西64cm、深さ40cmを測る。平面形は梢円形を呈する。

D48号土坑 造構はG-1-2グリットに位置し、D3に切られる。残存規模は南北88cm、東西1.36m、深さ25cmを測る。平面形は円形を呈する。

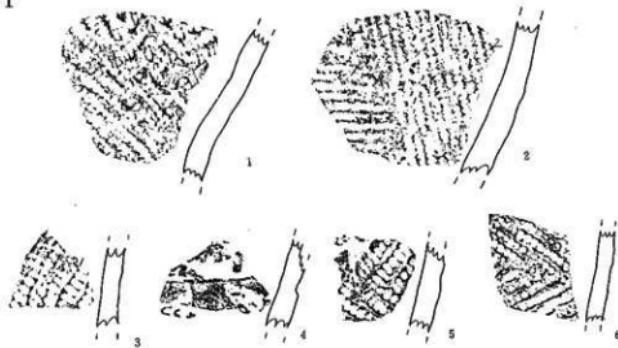
造構名	層位	色調	混入物等
D 2	1	黒褐色	10YR2/2 0-L粒・軽石含む。
	2	黒褐色	10YR2/3 0-L粒・軽石含む。
	3	にふい黄褐色	10YR4/3 砂質・しまりなし。
	4	暗褐色	10YR3/3 0-L粒・0-L7'ロック含む。
D 55	1	黒褐色	10YR2/2 0-L粒・軽石含む・しまりなし。
	2	暗褐色	10YR3/3 0-L粒・しまりなし。
D 33	3	暗褐色	10YR3/3 0-L粒・軽石含む。
D 4	1	黒褐色	10YR2/2 0-L粒・しまりややあり。
D 5	1	黒褐色	10YR2/3 0-L粒・軽石・石20cm大含む。
	2	暗褐色	10YR3/4 0-L粒・軽石・石含む。
D 6	1	暗褐色	10YR3/3 0-L粒・石5cm大含む。
	2	にふい黄褐色	0-L土多く、軽石5cm大含む。
D 7	1	黒色	10YR2/1 ハミク・炭化物含む・しまり粘性なし。
	2	黒褐色	10YR3/1 白色粒・赤色粒含む・しまりあり。
	3	暗褐色	10YR3/4 0-L土多量に含む・しまり粘性あり。
D 9	1	黒色	10YR2/1 0-L粒多く含む・しまり粘性あり。
	2	黒褐色	10YR3/1 0-L粒含む・しまり粘性あり。
D 10	1	黒色	10YR2/1 白色粒・小石多く含む・しまり粘性ややあり。
	2	黒褐色	10YR3/2 白色粒・赤色粒多く含む・しまり粘性あり。
	3	褐色	10YR4/6 黒色土7'ロック含む・しまり粘性あり。
	4	褐色	10YR4/6 白色放散む・しまり粘性あり。
D 11	1	暗褐色	10YR3/4 白色粒含む・しまり粘性あり。
	2	黒褐色	10YR3/1 0-L粒・白色粒含む・しまり粘性あり。
	3	褐色土	10YR4/6 0-L粒多量に含む・しまりなし。
D 12	1	黒褐色	10YR3/1 白色粒多く含む・しまりあり。
	2	暗褐色	10YR3/3 褐色土7'ロック含む・しまり粘性あり。
	3	褐色	10YR4/6 0-L粒含む・しまり粘性あり。
D 13	1	黒色	10YR2/1 0-L粒含む。
	2	黒褐色	10YR2/2 0-L粒・0-L7'ロック含む。
	3	暗褐色	10YR3/3 0-L粒・0-L7'ロック含む。

第26表 土坑土層説明

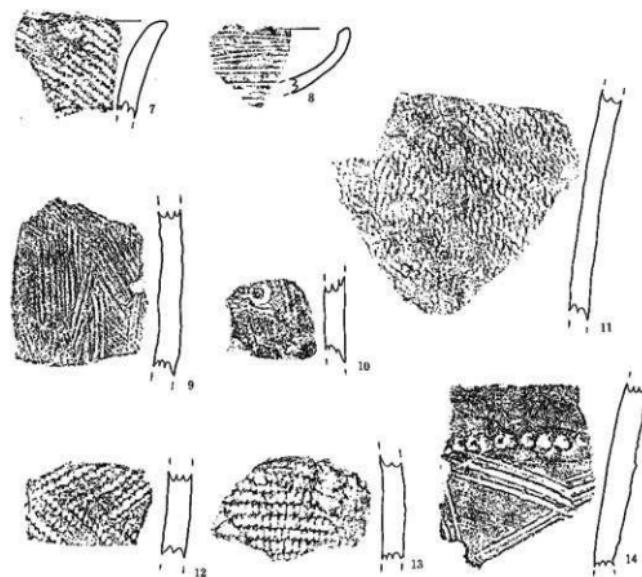
選択名	層位	色 調	混入物等
D 14	1	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7' ロック含む。
D 16	1	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒・炭化物含む。しまりあり。
D 18	1	黒褐色	10YR3/2 B-ム7' ロック・小石含むしまり粘性あり。
	2	黒褐色	10YR3/2 B-ム7' ロック含む。しまり粘性あり。
D 19	1	暗褐色	10YR3/3 白色粒多く含む。しまり粘性あり。
D 20	1	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7' 含む。
	2	にぶい黄褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7' 含む。
	3	黒褐色	10YR2/2 B-ム粒・B-ム7' 含む。
	4	暗褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7'・白色粒含む。
D 21	1	暗褐色	10YR3/4 B-ム粒・輕石含む。
D 22	1	暗褐色	10YR3/3 B-ム粒・B-ム7' 含む。
D 24	1	にぶい黄褐色	10YR4/3 B-ム粒・輕石多く含む。
	2	褐色	10YR4/4 B-ム粒・輕石含む。
D 26	1	暗褐色	10YR3/3 B-ム7' ロック多く含む。
	2	黒褐色	10YR2/2 B-ム7' ロック多く含む。
D 29	1	黒色	10YR2/1 白色B-ム7' ロック含む。しまりなし。
	2	暗褐色	10YR3/4 B-ム粒・炭化物含む。しまり粘性あり。
D 33	1	黒褐色	10YR3/2 B-ム7' ロック・炭化物含む。しまりなし。
	2	褐色	10YR4/4 B-ム7' ロック含む。
	3	黄褐色	10YR5/8 B-ム粒含む。しまり粘性ややあり。
D 34	1	黒褐色	10YR3/2 白色粒・炭化物含む。しまりあり。
	2	褐色	10YR4/6 B-ム7' ロック・白色粒含む。 しまり粘性あり。
D 37	1	黒褐色	10YR2/2 B-ム粒・B-ム7' 含む。しまりなし。
D 38	1	黒褐色	10YR2/2 B-ム7' ロック多く含む。
	2	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7' 含む。
	3	黒褐色	10YR2/2 B-ム粒・B-ム7' ロック含む。
D 39	1	暗褐色	10YR3/3 B-ム粒含む。しまりなし。
D 40	1	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒 B-ム7' ロック多く含むしまりあり
	2	暗褐色	10YR3/4 B-ム粒・輕石含む。
D 41	1	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7' ロック含む。
D 43	1	黒褐色	10YR2/3 B-ム粒・B-ム7' 含む。
	2	にぶい黄褐色	10YR5/3 B-ム粒・B-ム7' 多く含む。
D 44	1	黒褐色	10YR3/2 B-ム粒・含む。しまりなし。
D 45	1	黒褐色	10YR2/2 B-ム粒・しまりなし。
D 46	1	黒褐色	10YR3/2 B-ム粒・B-ム7' 含む。しまりなし。

第27表 土坑土層説明

D1

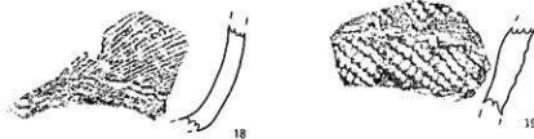
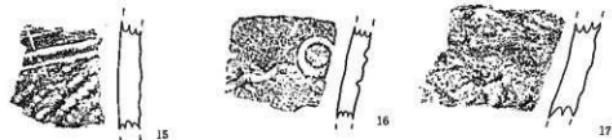


D2

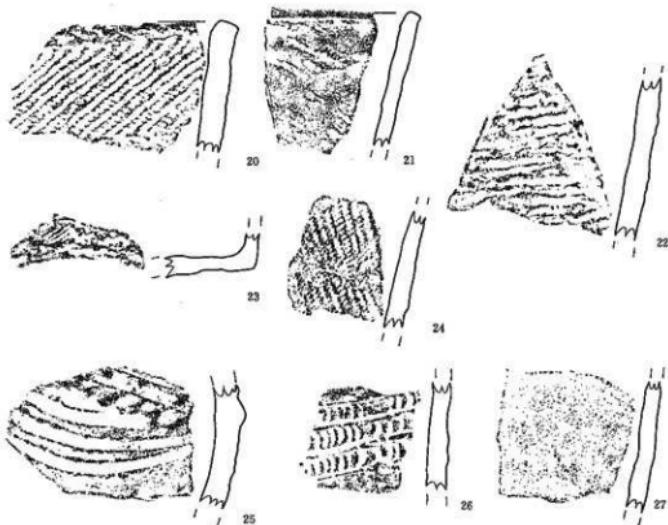


第78圖 土坑出土遺物實測圖

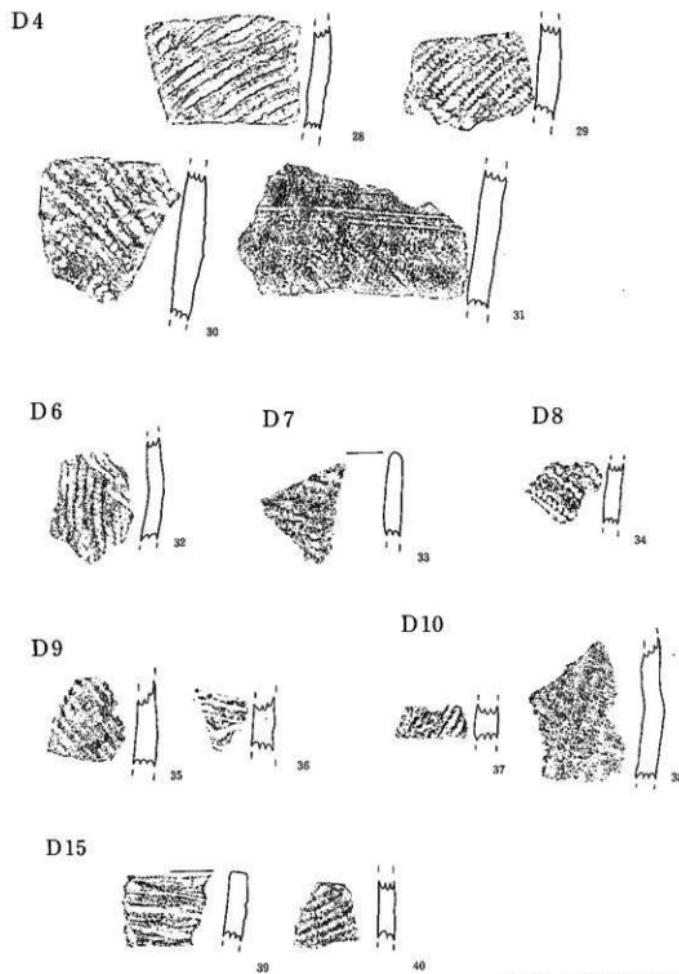
D 2



D 3

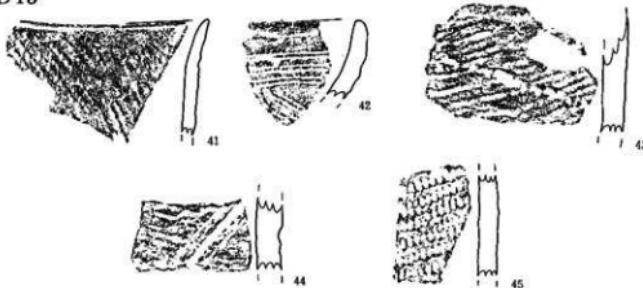


第79图 土坑出土遗物实测图

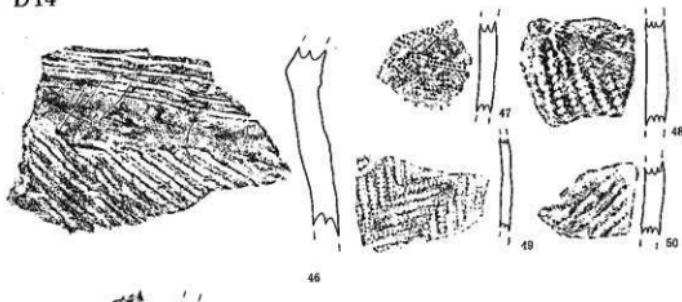


第80図 土坑出土遺物実測図

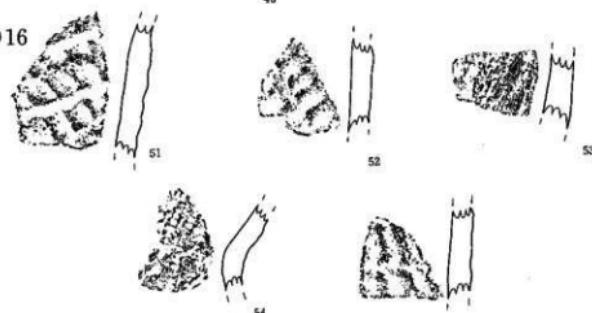
D13



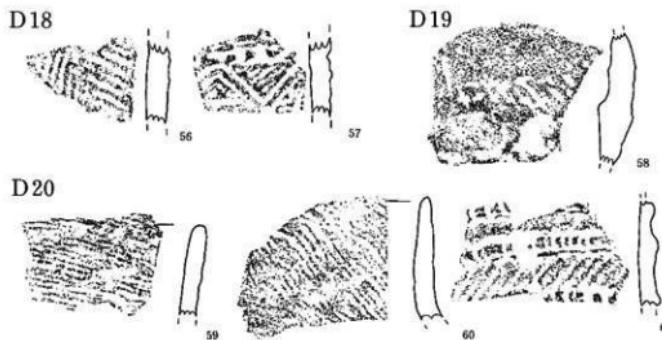
D14



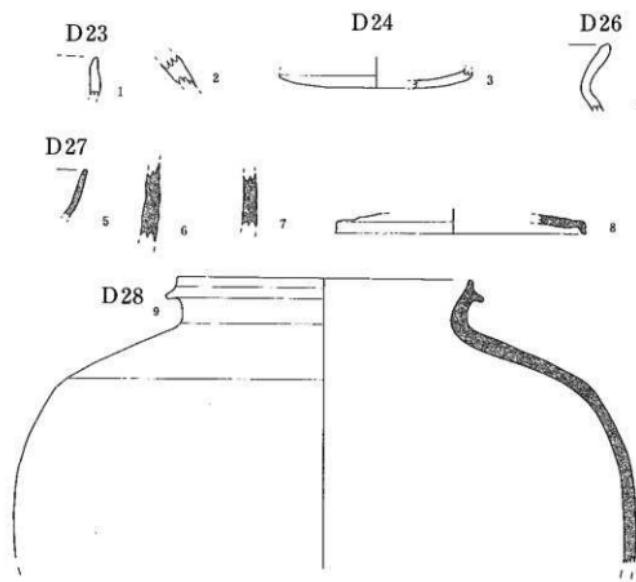
D16



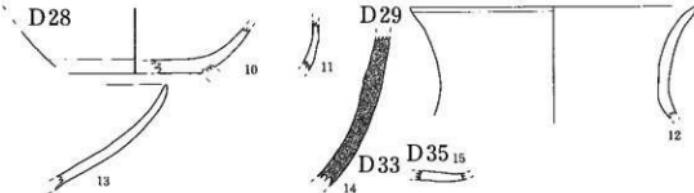
第81図 土坑出土遺物実測図



第82圖 土坑出土遺物實測圖



第83圖 土坑出土遺物實測圖



第84図 土坑出土遺物実測図

番号	遺構名	器種	器形	厚さ	部位	色調	焼成	備考
1	D 1	縄文土器	—	0.8	体部	5YR3/6 暗赤褐色	良好	雲母
2	D 1	縄文土器	—	1.1	体部	7.5YR4/3 褐色	良好	
3	D 1	縄文土器	—	0.8	体部	10YR2/2 黒褐色	良	
4	D 1	縄文土器	—	0.9	体部	10YR3/1 黒褐色	良	長石・雲母
5	D 1	縄文土器	—	0.7	体部	10YR2/1 黒色	良	
6	D 1	縄文土器	—	0.7	体部	10YR2/3 黑褐色	良好	長石
7	D 2	縄文土器	—	0.9	口縁	7.5YR4/2 灰褐色	良好	長石
8	D 2	縄文土器	—	0.6	口縁	7.5YR4/1 暗灰色	良好	
9	D 2	縄文土器	—	0.9	体部	2.5YR4/2 暗赤色	良	長石・金雲母
10	D 2	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良	長石
11	D 2	縄文土器	—	0.8	体部	2.5YR4/3/にぶい赤褐色	良好	長石
12	D 2	縄文土器	—	0.9	体部	5YR7/4 にぶい橙色	良	
13	D 2	縄文土器	—	0.7	体部	5YR4/2 灰褐色	良	
14	D 2	縄文土器	—	0.8	体部	5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	長石・金雲母
15	D 2	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR6/6 橙色	良	
16	D 2	縄文土器	—	0.7	体部	7.5YR3/1 黑褐色	良	長石・金雲母
17	D 2	縄文土器	—	0.9	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	
18	D 2	縄文土器	—	0.8	底部	7.5YR7/2 明褐色	良	
19	D 2	縄文土器	—	0.8	体部	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	
20	D 3	縄文土器	—	0.8	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	雲母

(単位 cm)

第28表 土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器種	器形	厚さ	部位	色調	焼成	備考
21	D 3	縄文土器	—	0.7	口縁	5YR4/2 灰褐色	良好	雲母
22	D 3	縄文土器	—	0.7	体部	5YR6/4 にぶい橙色	良好	
23	D 3	縄文土器	—	0.9	底部	7.5YR4/3 褐色	良	雲母
24	D 3	縄文土器	—	0.7	体部	7.5YR4/3 褐色	良	
25	D 3	縄文土器	—	1.1	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	長石・金雲母
26	D 3	縄文土器	—	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良好	長石
27	D 3	縄文土器	—	0.7	体部	5YR3/2 暗赤褐色	不良	長石・金雲母・小石
28	D 4	縄文土器	—	0.7	体部	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	良好	
29	D 4	縄文土器	—	0.9	体部	5YR4/1 黒灰色	良好	
30	D 4	縄文土器	—	1.1	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	
31	D 4	縄文土器	—	0.9	体部	5YR5/2 灰褐色	良	長石・雲母
32	D 6	縄文土器	—	0.7	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	
33	D 7	縄文土器	—	0.7	口縁	5YR5/8 明赤褐色	不良	
34	D 8	縄文土器	—	0.6	体部	2.5YR4/6 赤褐色	良好	
35	D 9	縄文土器	—	0.9	体部	7.5YR3/1 黒褐色	良好	長石・雲母
36	D 9	縄文土器	—	0.9	体部	7.5YR4/2 灰褐色	良好	
37	D 10	縄文土器	—	0.8	体部	5YR3/3 暗赤褐色	良	
38	D 10	縄文土器	—	0.8	体部	2.5YR5/8 明赤褐色	良	長石
39	D 15	縄文土器	—	0.8	口縁	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	
40	D 15	縄文土器	—	0.7	体部	2.5YR4/6 赤褐色	良	
41	D 13	縄文土器	—	0.7	口縁	7.5YR5/6 明褐色	良	雲母・長石
42	D 13	縄文土器	—	0.8	口縁	5YR3/6 暗赤褐色	良好	長石
43	D 13	縄文土器	—	0.9	体部	7.5YR6/6 橙色	良	長石・雲母
44	D 13	縄文土器	—	1.1	体部	5YR5/6 明赤褐色	良好	長石
45	D 13	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR5/3 にぶい褐色	良	
46	D 14	縄文土器	—	1.1	体部	7.5YR4/4 黑色	良好	長石

(単位 cm)

第29表 土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器種	器形	厚さ	部位	色調		備考
4 7	D14	縄文土器	—	0.7	体部	5YR4/6 赤褐色	良好	金雲母
4 8	D14	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR6/4 に赤褐色	良	
4 9	D14	縄文土器	—	0.4	体部	7.5YR5/3 に赤褐色	良	長石
5 0	D14	縄文土器	—	0.8	体部	7.5YR5/2 灰褐色	良	
5 1	D14	縄文土器	—	0.9	体部	5YR4/2 灰褐色	良	長石・金雲母
5 2	D14	縄文土器	—	0.8	体部	5YR4/2 灰褐色	良	長石・金雲母
5 3	D16	縄文土器	—	0.9	体部	5YR4/8 赤褐色	不良	長石・金雲母
5 4	D16	縄文土器	—	0.8	頸部	5YR5/3 に赤褐色	良	
5 5	D16	縄文土器	—	0.8	体部	5YR5/4 に赤褐色	良	長石・金雲母
5 6	D18	縄文土器	—	0.9	体部	7.5YR3/3 暗褐色	良	
5 7	D18	縄文土器	—	0.8	体部	5YR5/6 明赤褐色	良	雲母
5 8	D19	縄文土器	—	1.6	体部	10YR6/6 明黄褐色	不良	
5 9	D20	縄文土器	—	0.7	口縁	10YR6/4 に黄褐色	良	
6 0	D20	縄文土器	—	0.8	口縁	10YR5/6 黄褐色	良	長石
6 1	D20	縄文土器	—	0.7	体部	7.5YR3/3 灰褐色	良	長石

(単位 cm)

第30表 土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器種	器形	口径	底径	器高	調 整	備 考
1	D23	土師器	壺	—	—	—		残存半口縁の一部 焼成 良 色調7.5YR6/4 に赤褐色
2	D23	土師器	甕	—	—	—	内面クシ目痕の残るヘラ 削り 外面ヘラ削り	焼成 良好 色調5YR4/6 赤褐色
3	D24	土師器	壺	5.9	—	—	外面ヘラ削り	残存率 底部のみ 焼成 良好 色調7.5YR4/2 灰褐色
4	D26	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ	残存率口縁の一部 焼成 良好 色調7.5YR4/4 に赤褐色
5	D27	須恵器	壺	—	—	—		残存率 口縁の一部 焼成 良好 色調N5/0 灰色
6	D27	須恵器	甕	—	—	—		残存率底部の一部 焼成 良好 色調N3/0 灰褐色

(単位 cm)

第31表 土坑出土遺物観察表

番号	遺構名	器種	器形	口径	低径	器高	調整	備考
7	D27	須恵器	甕	—	—	—	外面タタキ痕	残存率体部の一部 焼成 良 色調N3/0黄灰色
8	D27	須恵器	瓶	—	—	—		焼成 良好 色調2.5V5/1黄灰色
9	D28	須恵器	甕	18.4	—	—		残存率10% 焼成 良好 色調5V5/1灰色
10	D28	土師器	壺	—	7.9	—	底部回転糸切り	残存率15% 焼成 良 色調2.5V4/3にぶい赤褐色
11	D28	土師器	壺	—	—	—	墨書き器 内面黑色処理	残存率体部の一部 焼成良好 色調5YR5/4にぶい赤褐色
12	D29	土師器	甕	17.4	—	—	外面クシ目	残存率口縁の一部 焼成 良好 色調7.5YR5/3にぶい褐色
13	D29	土師器	高壺	—	—	—	内面・外面赤色塗彩	残存率環部の一部 焼成 良 色調7.5R4/6赤色
14	D33	須恵器	甕	—	—	—	外面タタキ痕	残存率体部の一部 焼成良好 色調5Y2/2オリーブ黒
15	D35	土師器	壺	—	—	—		残存率 体部の一部焼成 良 色調 10YR6/2灰黄褐色

(単位 cm)

第32表 土坑出土遺物観察表



写73 D1・D2・D36号土坑



写74 D3号土坑



写75 D5号土坑



写76 D6号土坑



写77 D 7号土坑



写78 D 9号土坑



写79 D 10号土坑



写80 D 11号土坑



写81 D 12号土坑



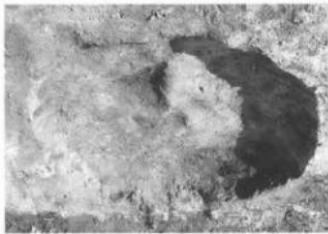
写82 D 15号土坑



写83 D 18号土坑



写84 D 18号土坑



写85 D21号土坑



写86 D26号土坑



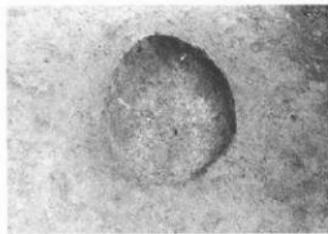
写87 D27号土坑



写88 D29号土坑



写89 D30号土坑



写90 D31号土坑



写91 D32号土坑



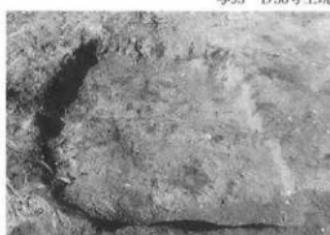
写92 D33号土坑



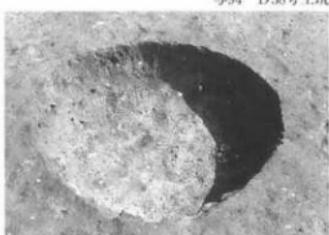
写93 D36号土坑



写94 D38号土坑



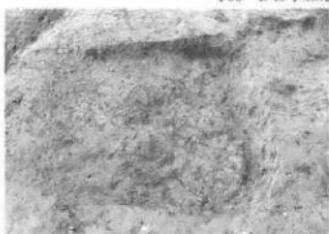
写95 D39号土坑



写96 D40号土坑



写97 D43号土坑



写98 D44号土坑



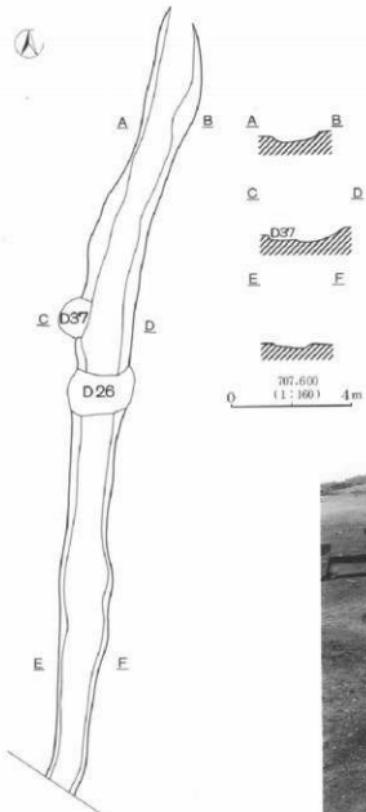
写99 D45号土坑



写100 D46号土坑

第5節 溝跡 (M)

M 1号溝跡



造構は調査区東端の緩斜面上に位置し、D-ニ-14グリットからD-さ-20グリットにかけて認められる。造構はD26・D37と重複関係にあり両土坑を切る。規模は幅約2.0m、長さ26.4m、深さ30cm前後を測る。



第85図 M 1号溝跡実測図

写101 M 1号溝跡